

馬形遺跡

日田市埋蔵文化財調査報告書

第16集

1998年

日田市教育委員会

序 文

日田市は古くより山紫水明の地として知られ、市内には数多くの歴史・文化遺産が残っています。

最近では、小迫辻原遺跡や吹上遺跡といった貴重な遺跡が発掘され、多くの話題を提供しています。

今回報告します馬形遺跡は、住宅造成に伴って発掘調査を行った遺跡で、その調査結果をまとめたものであります。

本書が今後の郷土の歴史解明のため、また文化財愛護の普及・啓発に、ご活用いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、調査にあたってご協力をいただきました関係者の皆様方に対して、心より感謝を申し上げます。

平成10年3月31日

日田市教育委員会

教育長 加藤 正 俊

〔例 言〕

1. 本書は、日田市教育委員会が日田杉の家建設協同組合連合会から委託を受けて発掘調査を実施した、馬形遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 調査にあたっては、日田杉の家建設協同組合連合会や地元の全面的なご協力を得た。
3. 発掘調査では調査区を便宜的にⅠ～Ⅳ区に分けている。
4. 調査での遺構の実測図は主に永田が行ったほか、土居・行時・森山・下隈久司（別府大学学生）・荏隈香苗（大手前女子大学学生）が補助した。
5. 本書に掲載の遺物実測図は、永田・土居・行時・松竹智之（別府大学学生）、遺構および遺物の製図は永田・土居・行時・山路康弘（別府大学院生）が行った。
6. また、遺構の写真撮影は永田が行い、遺物の写真は文化財写真家長谷川正美氏に委託し撮影していただいた。
7. 調査では小田富士雄（福岡大学教授）先生に現地でのご指導をいただいた。
8. 鉄器の保存処理については、大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館学芸課山田拓伸氏に依頼した。
9. 出土遺物および図面等については、日田市埋蔵文化財センターにて保管している。
10. 本書作成にあたっては、小埜和美氏の協力を得た。
11. 本書の執筆は、本文目次に記している。
12. 編集は土居、行時、永田で協議し行った。

本文目次

I	調査の経過	1
1.	調査に至る経過 (土居)	1
2.	調査日誌 (永田)	1
3.	調査組織 (土居)	2
II	遺跡の立地と環境 (行時)	3
III	調査の内容	6
1.	調査の概要 (行時・永田)	6
2.	I区の調査 (行時・永田)	6
3.	II区の調査 (行時・永田)	8
4.	III区の調査 (行時・永田)	28
5.	IV区の調査 (行時・永田)	29
6.	その他の遺物 (行時・永田)	38
IV	まとめ (土居・行時・永田)	46

挿図目次

第1図	馬形遺跡発掘調査区位置図 (1/2,500)	3
第2図	馬形遺跡と周辺遺跡分布図 (1/20,000)	5
第3図	I区遺構配置図 (1/400)	6
第4図	I区1号竪穴遺構実測図 (1/30)	7
第5図	I区1号竪穴遺構出土土器実測図 (1/3)	7
第6図	II区遺構配置図 (1/200)	9
第7図	II区1号竪穴住居跡実測図 (1/60)	11
第8図	II区1号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)	12
第9図	II区2号竪穴住居跡実測図 (1/30)	13
第10図	II区2号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)	13
第11図	II区1号掘立柱建物実測図 (1/80)	14
第12図	II区2号掘立柱建物実測図 (1/80)	15
第13図	II区3号掘立柱建物実測図 (1/80)	16
第14図	II区4号掘立柱建物実測図 (1/80)	16
第15図	II区5号掘立柱建物実測図 (1/80)	17
第16図	II区掘立柱建物出土土器実測図 (1/3)	17
第17図	II区2号掘立柱建物付属溝出土土器実測図 (1/3)	17

第18图	Ⅱ区1号溝実測図 (1/80)	18
第19图	Ⅱ区1号溝出土土器実測図 (1/3)	18
第20图	Ⅱ区1号土坑実測図 (1/30)	19
第21图	Ⅱ区2号土坑実測図 (1/30)	19
第22图	Ⅱ区4号土坑実測図 (1/80)	20
第23图	Ⅱ区5号土坑実測図 (1/30)	20
第24图	Ⅱ区1・2・4・5号土坑出土土器実測図 (1/3)	21
第25图	Ⅱ区7号土坑実測図 (1/30)	22
第26图	Ⅱ区8号土坑実測図 (1/30)	22
第27图	Ⅱ区8号土坑出土土器実測図 (1/3)	22
第28图	Ⅱ区11号土坑実測図 (1/30)	23
第29图	Ⅱ区12号土坑実測図 (1/30)	23
第30图	Ⅱ区13号土坑実測図 (1/30)	23
第31图	Ⅱ区14号土坑実測図 (1/30)	24
第32图	Ⅱ区15号土坑実測図 (1/30)	24
第33图	Ⅱ区17号土坑実測図 (1/80)	24
第34图	Ⅱ区17号土坑出土土器実測図 (1/3)	25
第35图	Ⅱ区19号土坑実測図 (1/30)	25
第36图	Ⅱ区20号土坑実測図 (1/30)	26
第37图	Ⅱ区22号土坑実測図 (1/30)	26
第38图	Ⅱ区22号土坑出土土器実測図 (1/3)	26
第39图	Ⅱ区23号土坑実測図 (1/30)	27
第40图	Ⅱ区24号土坑実測図 (1/30)	27
第41图	Ⅲ区遺構配置図 (1/200)	28
第42图	Ⅳ区遺構配置図 (1/200)	30
第43图	Ⅳ区1号竪穴住居跡実測図 (1/30)	31
第44图	Ⅳ区1号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/3)	31
第45图	Ⅳ区2号竪穴住居跡実測図 (1/30)	32
第46图	Ⅳ区1号土坑実測図 (1/30)	32
第47图	Ⅳ区2号土坑実測図 (1/30)	32
第48图	Ⅳ区1・2号土坑出土土器実測図 (1/3)	33
第49图	Ⅳ区3号土坑実測図 (1/30)	33
第50图	Ⅳ区4号土坑実測図 (1/30)	33
第51图	Ⅳ区5号土坑実測図 (1/30)	34
第52图	Ⅳ区5号土坑出土土器実測図 (1/3)	34

第53図	IV区6号土坑実測図 (1/30)	34
第54図	IV区7号土坑実測図 (1/30)	34
第55図	IV区6号土坑出土土器実測図 (1/3)	34
第56図	IV区7号土坑出土土器実測図 (1/3)	35
第57図	IV区8号土坑実測図 (1/30)	35
第58図	IV区9号土坑実測図 (1/30)	35
第59図	IV区1号墓実測図 (1/30)	36
第60図	IV区2号墓実測図 (1/30)	36
第61図	IV区1・2号墓出土土器実測図 (1/3)	37
第62図	IV区1・2号墓出土鉄器実測図 (1/2)	37
第63図	II・IV区柱穴出土土器実測図 (1/3)	38
第64図	II・IV区出土土器実測図 (1/3)	39
第65図	II・IV区出土石器実測図 (1/2)	40
第66図	II・IV区出土石器実測図 (1/3)	40

図 版 目 次

図版1	(上) I区調査風景
	(下) I区1号竪穴遺構発掘状況 (北より)
図版2	(上) I区1号竪穴遺構土層断面 (北より)
	(下) I区1号竪穴遺構発掘状況 (北より)
図版3	(上) II区調査風景
	(下) II区1号竪穴住居跡遺物出土状況 (西より)
図版4	(上) II区1号竪穴住居跡遺物出土状態
	(下) II区1号竪穴住居跡遺物出土状態
図版5	(上) II区1号竪穴住居跡遺物出土状態
	(下) II区1号竪穴住居跡発掘状況 (西より)
図版6	(上) II区2号竪穴住居跡遺物出土状況 (北より)
	(下) II区2号竪穴住居跡発掘状況 (南より)
図版7	(上) II区1号掘立柱建物 (西より)
	(下) II区1号掘立柱建物 (東より)
図版8	(上) II区2号掘立柱建物 (南より)
	(下) II区2号掘立柱建物 (南より)
図版9	(上) II区3号掘立柱建物 (南より)
	(下) II区2号土坑発掘状況 (西より)

- 図版10 (上) II区4号土坑遺物出土状況(西より)
 (下) II区4号土坑発掘状況(西より)
- 図版11 (上) II区7号土坑発掘状況(東より)
 (下) II区24号土坑発掘状況(東より)
- 図版12 (上) III区発掘状況(東より)
 (下) III区道状遺溝(西より)
- 図版13 (上) IV区発掘状況(北より)
 (下) IV区発掘状況(西より)
- 図版14 (上) IV区1・2号墓発掘状況(南より)
 (下) IV区1・2号墓発掘状況(西より)
- 図版15 II区1号竪穴住居跡出土遺物
 II区1号溝出土遺物
 II区2号土坑出土遺物
- 図版16 II区17号土坑出土遺物
 IV区1号竪穴住居跡出土遺物
 IV区1・6・7号土坑出土遺物
- 図版17 IV区7号土坑出土遺物
 IV区1・2号墓出土遺物
- 図版18 IV区2号墓出土遺物
 II・IV区柱穴出土土器
- 図版19 II・IV区柱穴出土土器
 II・IV区出土土器
 II・IV区出土石器
- 図版20 II・IV区出土石器・土製品

表 目 次

- 第1表 I区遺構出土土器観察表
- 第2表 II区遺構出土土器観察表
- 第3表 IV区遺構出土土器観察表
- 第4表 IV区出土鉄器観察表
- 第5表 II・IV区柱穴出土土器観察表
- 第6表 II・IV区出土土器観察表
- 第7表 II・IV区出土石器等観察表

I. 調査の経過

1. 調査に至る経過

平成6年5月18日、日田杉の家建設協同組合連合会より、日田市大字有田字馬形946-1ほかの日田杉の家宅地造成工事に伴う埋蔵文化財所在の有無についての照会文書が提出された。

これを受けた市教育委員会では、当該開発予定地が周知の遺跡である馬形遺跡に該当することから、事前の試掘調査を行うこととなった。

試掘調査は、9月14日から10月5日まで行い、工事予定地に20ヶ所のトレンチを設定し、遺構の有無等の確認作業を行った。試掘調査では竪穴住居・溝などの遺構の検出と、弥生土器・須恵器・土師器など遺物の出土が確認されたため、事業者とその取り扱いについて協議を行った。

その結果、遺構の確認された事業予定地の大半が工事変更等による遺跡の現状保存が困難な理由から、発掘調査を実施することとなった。平成6年10月19日付け日田杉の家建設協同組合連合会代表理事名による埋蔵文化財発掘の届出が提出され、平成6年10月27日付け教委文第1552号大分県教育委員会教育長名にて発掘調査の通知が出された。

その間、市教委と事業者で発掘調査の期間や経費などについて打ち合わせを重ね、日田杉の家建設協同組合連合会の委託事業として市教委が発掘調査を受託することとなり、調査に関する協議書および契約書を交わし、平成8年9月6日より本格的な現場作業を行うこととなった。

発掘調査は、事業造成予定面積約50,000㎡のうち、約4,000㎡を発掘調査の対象とし、平成8年度に発掘調査および整理作業、平成9年度に報告書の発行を行うこととした。

註) 試掘調査の概要は、日田市教育委員会発行『平成8年度日田市埋蔵文化財年報』(1996年)に報告。

2. 調査日誌

発掘調査の概略は次のとおりである。

9月6日/I区の機械を使つての表土はぎ取りを行う。風倒木等が対象区域に残っていたため思うように作業が進まず。

9月24日/遺構検出を始める。

10月9日/杭打ちを行う。

10月11日/平板測量を行う。

10月30日/I区の現場作業が終了する。

11月13日/II区の機械を使つての表土はぎ取りを行う。

11月25日/遺構検出を始める。

雨の日があると水が溜まり、遺構検出も思うように進まず。

12月2日/杭打ちを行う。

12月6日/市道拡幅に伴い調査区の東側を機械を使つて拡張する。

12月11日/検出の結果、西側斜面に向かって遺構が広がることから機械を使つて拡張する。

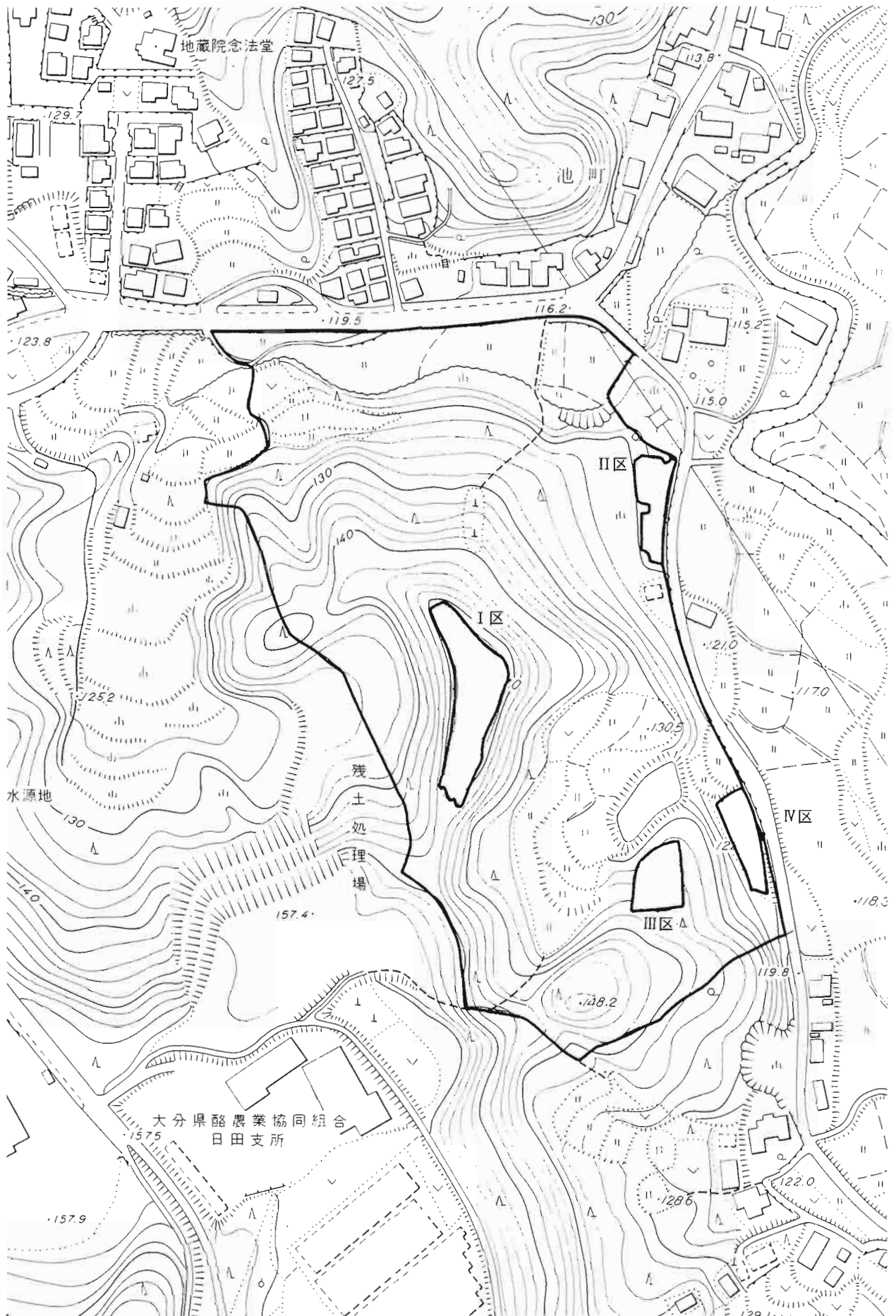
12月16日/平板測量を行う。

1月27日/III区の機械を使つての表土はぎ取りを行う。

- 2月5日／Ⅲ区の遺構検出を始める。
- 2月10日／Ⅲ区の杭打ちを行う。
- 2月14日／Ⅱ区の現場作業が終了する。
- 3月6日／Ⅳ区の機械を使つての表土はぎ取りを行う。
- 3月10日／Ⅳ区の遺構検出を始める。
- 3月15日／Ⅳ区の杭打ちを行う。
- 3月17日／Ⅳ区の平板測量を行う。
- 3月21日／福岡大学小田富士雄先生の現地指導を受ける。
- 3月28日／Ⅲ・Ⅳ区の器材を撤収し、予定より遅れた現場作業を完了する。調査終了後、埋蔵文化財発見届を提出し、平成9年6月2日付け教委文第471号にて、埋蔵物の文化財認定を受ける。

3. 調査組織

- 調査主体 日田市教育委員会
- 調査責任者 加藤 正俊（日田市教育長）
- 調査事務 原田 俊隆（文化課長）
長尾 幸夫（文化課課長補佐兼文化財係長）
森山 一宏（文化課主任）
衛藤 和美（文化課臨時職員）平成8年4月1日～6月30日
竹原 里香（文化課臨時職員）平成8年7月1日～平成9年6月30日
- 調査員 土居 和幸（文化課主任） 試掘調査担当
行時 志郎（文化課主任）
松下 桂子（文化課主事）
永田 裕久（文化課主事補）発掘調査担当
森山敬一郎（文化課嘱託）
- 調査作業員 石井 貞美、石田スズ子、井上ノブエ、江藤 勝義、
小野多美子、五島勇美子、佐藤カスミ、財津 勲子、
財津 静子、財津 由太、清水 忠造、高倉富美子、
高倉 美利、田中 昇、田邊 造、津江 久徳、
中島カズ子、中島トミコ、中野ヨシ子、松本トキエ、
武内アイ子、松岡 初次
- 整理作業員 和田ケイ子、聖川 暢子



第1図 馬形遺跡発掘調査区位置図(1/2,500)

Ⅱ. 遺跡の立地と環境

日田市は大分県西部に位置し、周囲を津江山系や英彦山系などの標高千メートルを越える山々に囲まれた盆地特有の背観を形成している。筑後川の上流域に属し、文化的には弥生時代の甕棺墓制の採用や古墳時代の装飾古墳の造営などで窺われるように、弥生時代以来、北部九州の影響を顕著に受けてきた地域といえる。

馬形遺跡は、日田盆地西部、有田川の支流である求来里川に沿って開析された谷状沖積地を見下ろす丘陵上から裾部に位置する。この一帯では、近年の大分自動車道建設をはじめとする幹線道路網の整備やウッドコンビナート建設などの工業団地造成、さらには池辺地区圃場整備と入った各種の大規模な開発事業が急ピッチで進められてきた反面、これまで不明であったこの地域の遺跡も相次いで発見調査されてきている。以下、これまで調査された遺跡を概観しながら馬形遺跡周辺における遺跡立地の動向についてみてみることにする。

平成5～6年に行われた求来里平島遺跡¹⁾(25)の調査では、求来里川上流部にあたる沖積地や丘陵上から縄文時代晩期の土坑や古墳時代中期から後期にかけての竪穴住居跡がまとまって発見された。この調査により初めて求来里川上流域の遺跡の存在が確認された。同年の尾漕遺跡(14)の調査²⁾では、古墳時代後期や奈良時代の竪穴住居跡や中世の墓が発見されるなど、求来里川下流域においても遺跡が展開していたことが明らかとなった。平成8年の馬形遺跡(1)の調査では、古墳時代後期の竪穴住居跡や掘立柱建物跡、古代の木棺墓などが発見され、沖積地を見下ろす丘陵斜面や裾部にまで遺跡の広がりがみられることがわかったほか、同年から9年にかけての長迫遺跡(16)の調査では、古墳時代後期や奈良時代の竪穴住居跡が多数発見され、丘陵に挟まれた谷部の奥においても遺跡の存在が確認された。さらに9年の森ノ元遺跡(35)の調査では、縄文時代晩期の埋甕や中世はじめの掘立柱建物群や墓が発見され、沖積地の微高地上に中世初期の屋敷が形成されている状況があきらかになった。また同年の尾漕遺跡2～4地点(14)の調査では、弥生・古墳・奈良時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡、中世の堂宇と見られる建物跡や墓などがまとまって発見され、弥生から中世にかけての同一場所での遺跡の景観の変化をみることができた。

目を転じて沖積地を囲む台地上や丘陵上を見てみると、祇園原遺跡(15)の調査では、弥生時代中期後半から後期前半の竪穴住居跡や掘立柱建物跡、小児用甕棺墓などが発見され、この時期の単位世帯の集落の様子が明らかとなり、大迫遺跡(10)の調査³⁾では、古墳時代中期の石棺墓や土坑墓が発見され、この時期の集団墓地の存在が確認された。尾漕2号墳の調査では、尾根上の鞍部に5世紀前半の組合せ箱式石棺を主体部とした日田盆地でも古式の古墳であることが判明した。

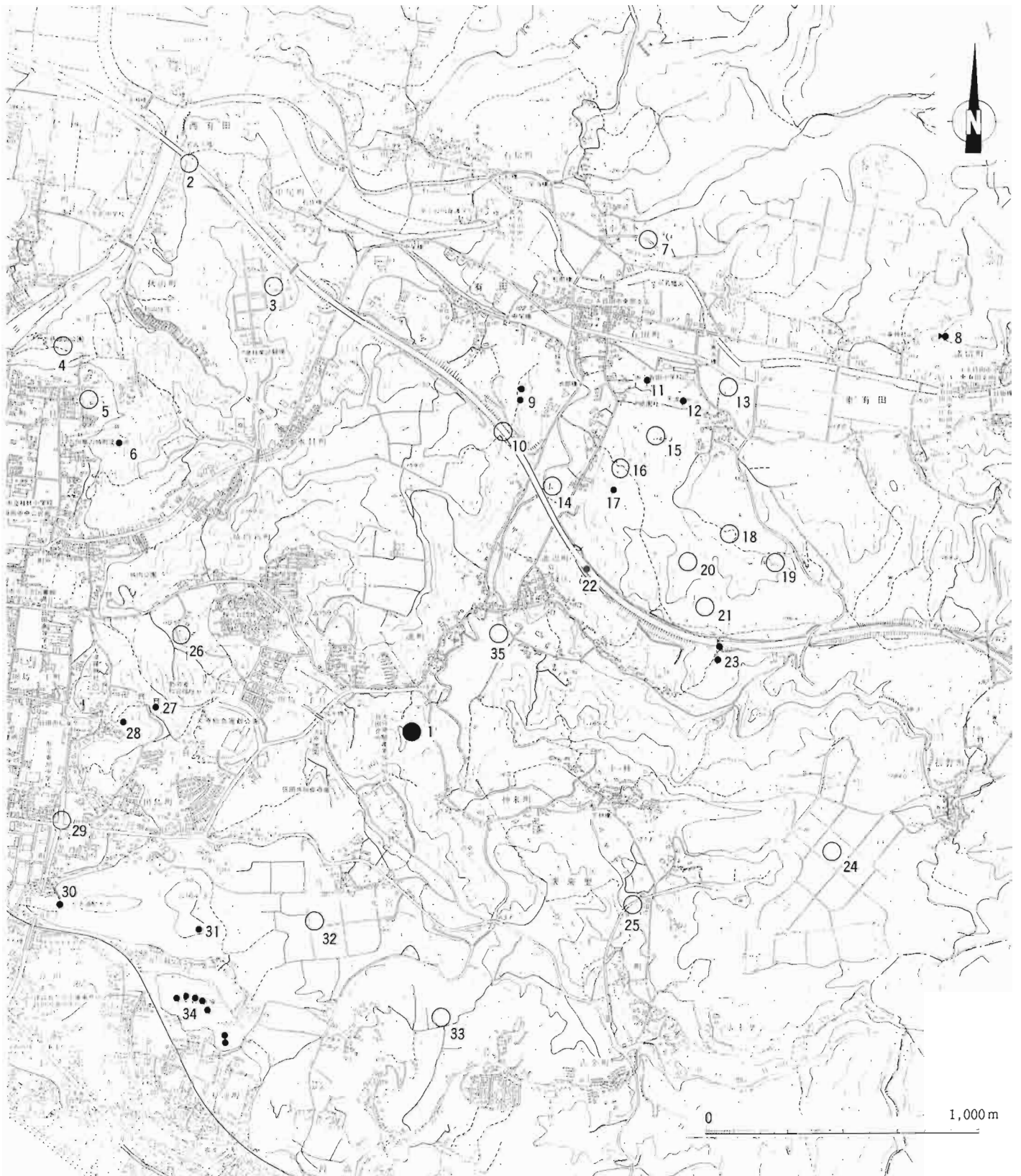
以上のように馬形遺跡も含めたここ数年の発掘調査によって、縄文時代以来のこの地域一帯における人々の生活の痕跡を示す手掛かりを得ることができた。

※ () 内は第2図の遺跡番号を示す

1) 『平成5年度 日田市埋蔵文化財年報』 日田市教育委員会 1995

2) 『大分県埋蔵文化財年報3—平成5年度版—』 大分県教育委員会 1996

3) 友岡信彦編『大迫遺跡』『九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(6)』大分県教育委員会 1997



- | | | | | |
|-------------|------------|--------------|-------------------|-------------|
| 1. 馬形遺跡 | 2. 夕田横穴墓群 | 3. 佐寺原遺跡 | 4. 慈眼山戸頃遺跡(大蔵古城跡) | 5. 慈眼山瀬戸口遺跡 |
| 6. 丸山古墳 | 7. 小寒水遺跡 | 8. 城山古墳 | 9. 中尾古墳群 | 10. 大迫遺跡 |
| 11. 塔ノ本古墳 | 12. 平島古墳 | 13. 平島遺跡 | 14. 尾漕遺跡 | 15. 祇園原遺跡 |
| 16. 長迫遺跡 | 17. 尾漕2号墳 | 18. 石ヶ迫遺跡 | 19. 平島横穴墓群 | 20. クビリ遺跡 |
| 21. 有田塚ヶ原遺跡 | 22. 尾漕古墳 | 23. 有田塚ヶ原古墳群 | 24. 町野原遺跡 | 25. 求来里平島遺跡 |
| 26. 赤迫遺跡 | 27. 丸尾神社古墳 | 28. 葉師堂山古墳 | 29. 会所宮遺跡 | 30. 鳥羽塚古墳 |
| 31. 北向古墳 | 32. 元宮遺跡 | 33. 東寺原遺跡 | 34. 法恩寺古墳群 | 35. 森ノ元遺跡 |

第2図 馬形遺跡と周辺遺跡分布図(1/20,000)

Ⅲ. 調査の内容

1. 調査の概要

I 区

I 区は、今回の調査区のうち最も高い標高145～150m前後の丘陵頂上部にあたる。この調査区では、頂部において風倒木痕が数多くあり、東側斜面において竪穴遺構1基を確認した。I 区の調査面積は1,205㎡である。

Ⅱ区

Ⅱ区は、I 区の東側緩斜面を下った裾部にあたる。調査区からは弥生時代から近世にかけての遺構や遺物が発見された。このうち主な遺構として、竪穴住居跡2棟・掘立柱建物5棟・溝1条・土坑17基などがある。Ⅱ区の調査面積は960㎡である。

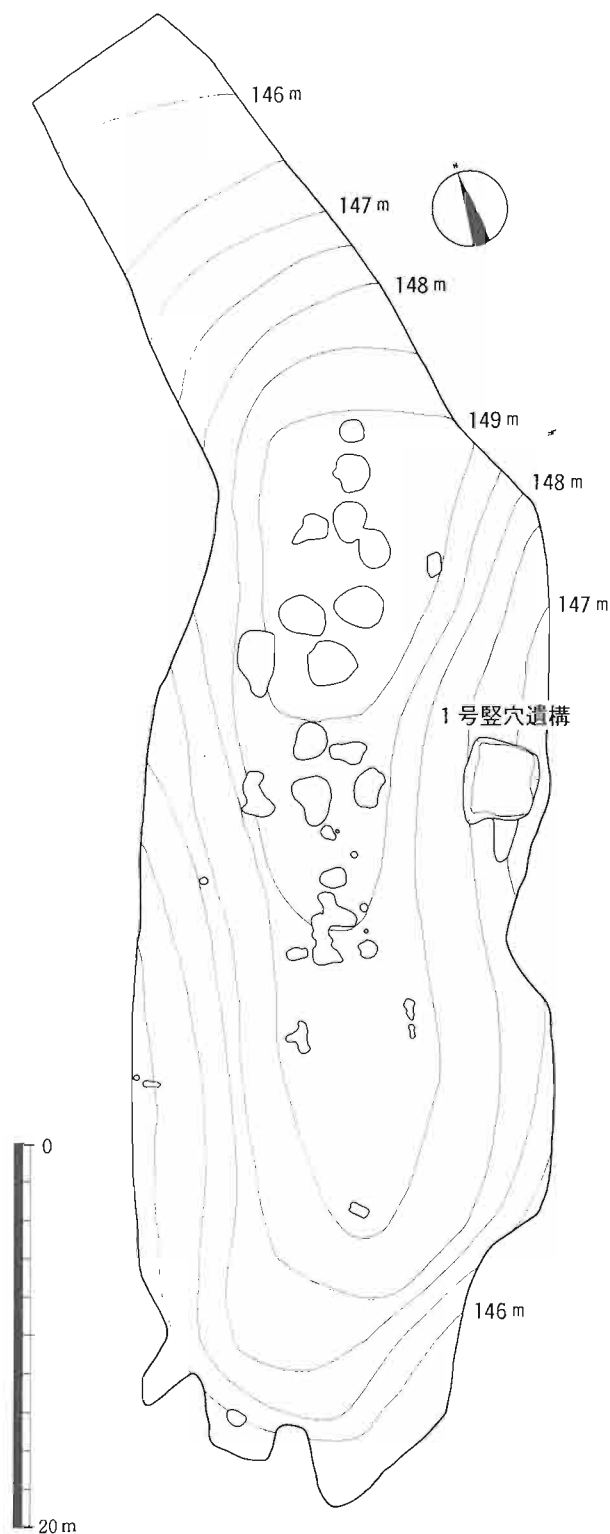
Ⅲ区

Ⅲ区は、沖積地へ向かって舌状に張り出す丘陵の緩斜面に位置する。この調査区からは時期不明の柱穴3と土坑および道状遺構が検出された。Ⅲ区の調査面積は470㎡である。

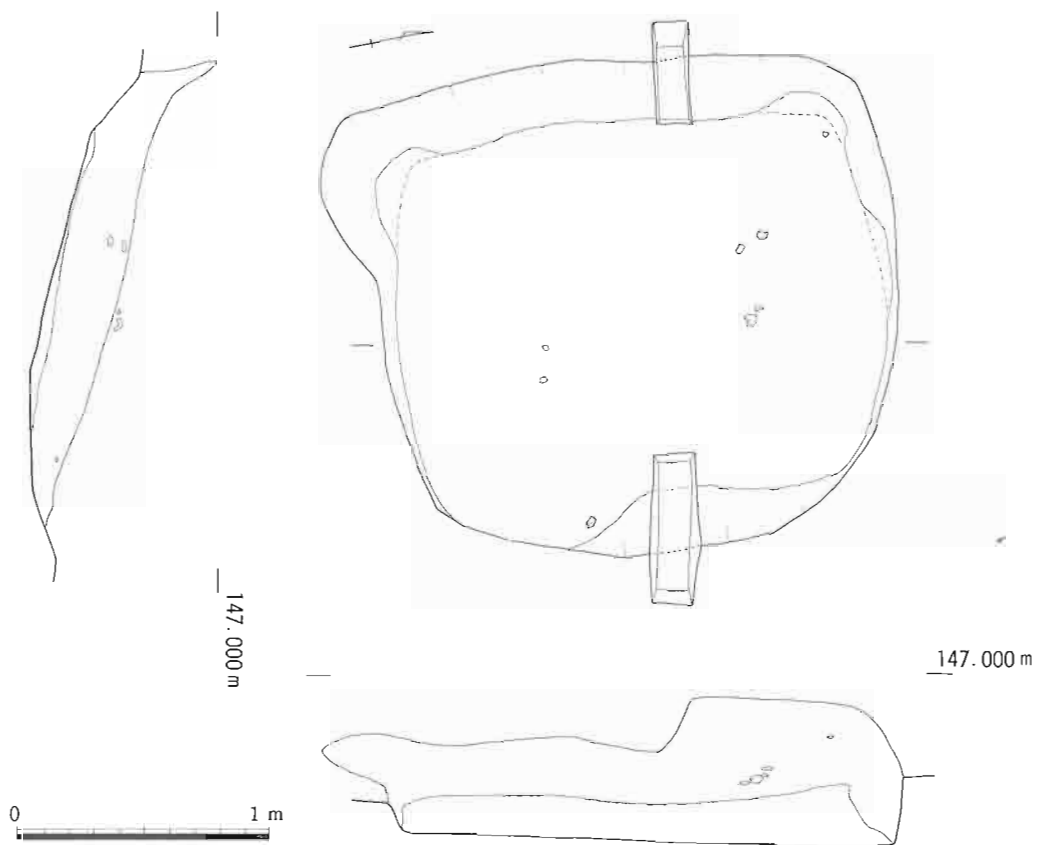
Ⅳ区

Ⅳ区はⅢ区の南東側、緩斜面を下った裾部に位置する。当初、調査予定地外としていたが、市道拡幅工事中に法面に土器片が見られたことから、開発主と協議を行い急速試掘調査を行い、遺構が確認されたため、発掘調査を行った。

調査区からは古墳時代後期から古代にかけての遺構・遺物が検出された。主な遺構として、竪穴住居跡2棟・墓2基・土坑9基などがある。Ⅳ区の調査面積は約1,150㎡である。



第3図 I 区遺構配置図(1/400)

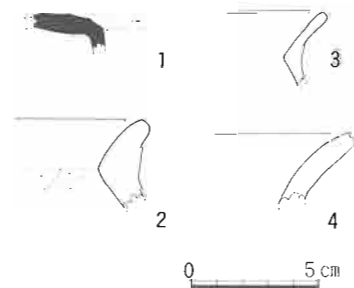


第4図 I区1号竪穴遺構実測図(1/30)

2. I区の調査

竪穴遺構 (第4図)

東方向へ向かって下る緩斜面上に掘られた隅丸方形の遺構である。検出面での規模は最大で東西約1.95m、南北約2.05mを測る。壁面の立ち上がりは南北面では緩やかで、東西面では垂直に近い。床面は、皿状となり、中央付近がやや低くなっている。



第5図 I区1号竪穴遺構出土土器実測図(1/3)

竪穴遺構出土土器 (第5図・1表)

遺構の上層より土器の小破片が出土した。1は須恵器の壺蓋である。天井部は回転ヘラ削りを施す。2～4は土師器の甕である。いずれも口縁部から頸部にかけての小破片で、2は短い口縁で断面は厚くなる。内面は頸部付近からヘラ削りを施す。3は逆に薄くほぼ直角にくの字に外反する。4は長い口縁である。いずれも端部は丸く仕上げる。

3. II区の調査

(1) 竪穴住居跡

1号竪穴住居跡（第7図）

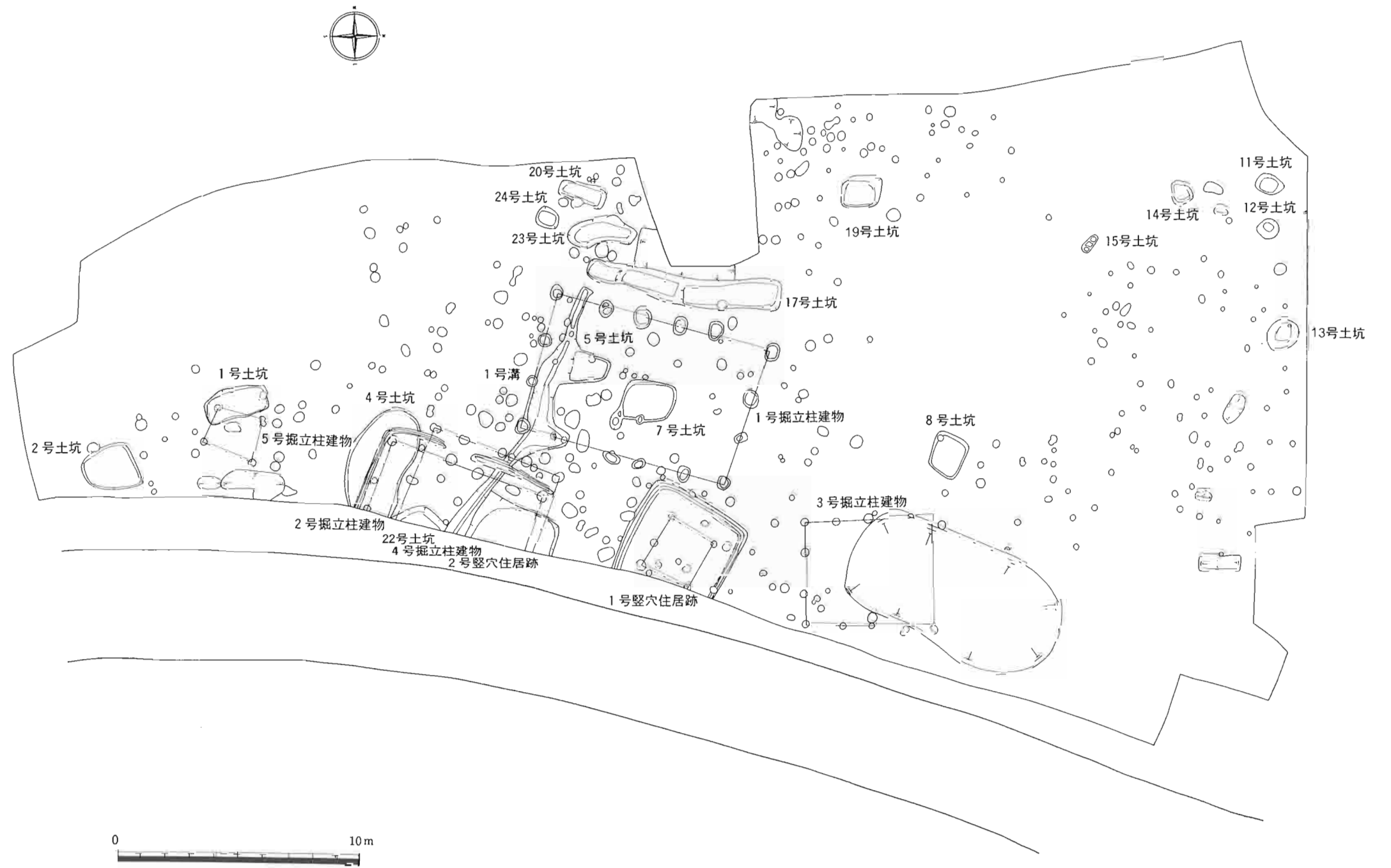
調査区東側で検出された隅丸方形の竪穴住居跡である。遺構は調査区外へと続いている。検出面での規模は南北約4.4mを測る。壁面に沿って周溝が巡り、その内側には4本の支柱穴が確認された。床面はほぼ平坦で、壁面は床面に対してほぼ垂直に立ち上がる。遺構内からはカマドの痕跡は確認されなかったことから東側壁面沿いにつくられていた可能性がある。

1号竪穴住居跡出土土器（第8図・2表）

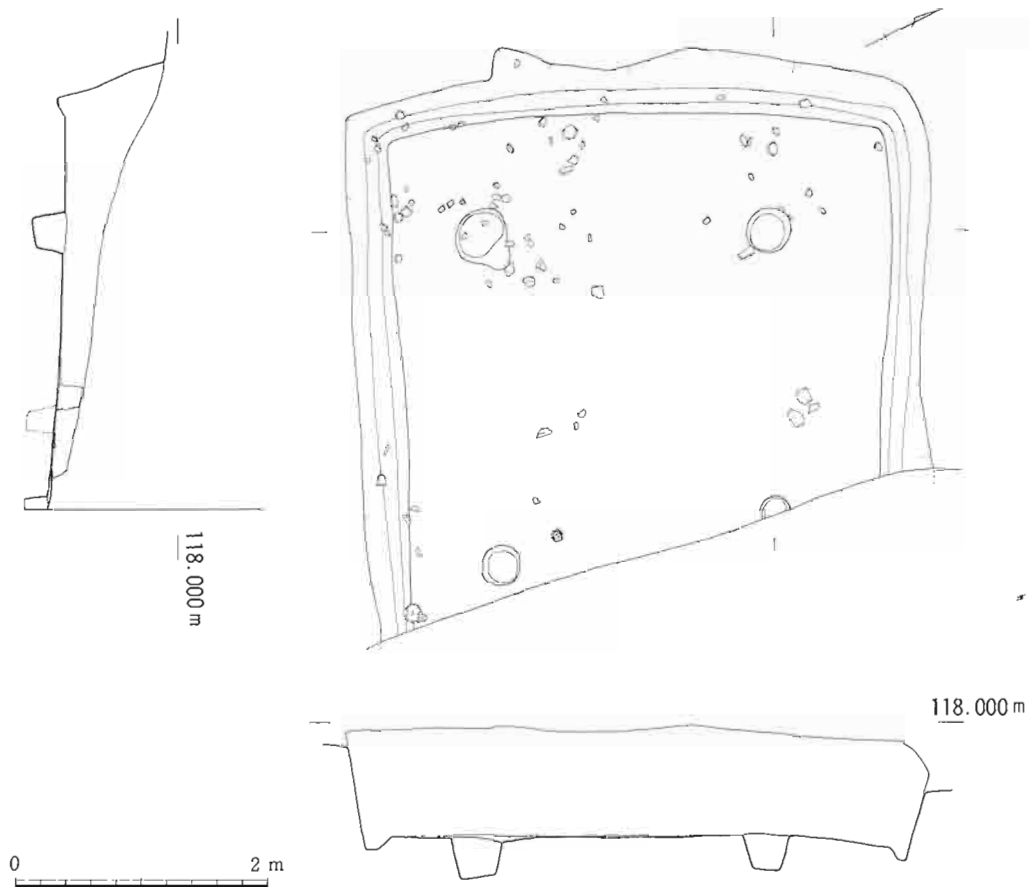
1～11は須恵器である。このうち1～3は坏蓋である。1は体部から口縁部にかけて緩やかに内湾し、先端部はほぼ垂直になる。端部は丸く仕上げる。天井部は回転ヘラ削りがみられる。2は天井部が高くなるタイプで、体部から口縁部にかけて直線的に伸び、先端部はやや開き気味に屈曲する。天井部は回転ヘラ削りがみられる。3は天井部が窪むタイプで、体部から先端部にかけて稜を持ちながら緩やかに内湾し、端部は嘴状となる。天井部は不定方向のヘラ切りがみられる。4～6は坏身である。4は小振りて体部から蓋受部に向かって内湾気味に伸び、蓋受部から口縁端部へは内側へ向かって緩やかに立ち上がる。体部外面には回転ヘラ削りがみられる。5は底部付近が平坦に近くなり、蓋受部に向かって内湾し、蓋受部から口縁端部へは直線的に立ち上がる。底部外面には回転ヘラ削りがみられる。6は体部の深さが浅く、蓋受部に向かって内湾気味に伸び、ここから口縁端部へはほぼ垂直に立ち上がり、先端部はやや外反する。7は蓋である。体部は緩やかに内湾し、L字の平坦な端部が取り付く。天井部は回転ヘラ削りがみられる。8は鉢である。体部から口縁部に向かって直線的に伸び、端部はわずかに外反する。体部には横方向に一本の沈線がみられる。9・11は提瓶である。9は口縁部で、端部はやや内湾し、頸部へ向かって細くなる。11は半球形の胴部片である。中央はほぼ平坦となる。外面にはハケ状工具による調整が見られる。10は平瓶である。口縁部に向かって大きく広がり、先端部は丸く肥厚する。12～18は土師器である。このうち12～14は甕である。12はくの字に大きく外反する口縁となり、内面にはヘラ削りがみられる。13は短い口縁部となる。内面にはヘラ削りがみられる。14はくの字に大きく外反する口縁となり、やや肩が張る。外面には指頭圧痕が残り、内面には口縁部付近に横方向のハケ、頸部下はヘラ削りがみられる。15は壺である。頸部はほぼ直口し、口縁部はわずかに外反する。内面の頸部下にはヘラ削りがみられる。16は椀である。器壁は薄く仕上げ、体部は丸味を持ち、口縁部に向かってわずかに外反しながら開く。先端部付近はわずかに内湾し、端部は丸く仕上げる。17は高坏である。17は完形品で、体部は丸味をもちながら外へ向かって開き、端部は段を設ける。脚部は裾広がりとなり、底部は外に向かって大きく屈曲する。18は盤である。先端部に向かって直線的に開く。端部は細くなり、丸く仕上げる。

2号竪穴住居跡（第9図）

1号と並んで調査区東側で検出された隅丸方形の竪穴住居跡である。遺構は調査区外へと続いている。1号溝を切り2・4号掘立柱建物と切り合う。検出面での規模は南北約3.4mを測る。床面はほぼ平坦で、壁面は床面に対してやや斜め方向に立ち上がる。遺構内からはカマドの痕跡は確認されなかったことから1号同様に東側壁面沿いにつくられていた可能性がある。



第6图 II区遺構配置図(1/200)



第7図 II区1号竖穴住居跡実測図(1/60)

2号竖穴住居跡出土土器 (第10図・2表)

1・2は須恵器である。1は鉢で、体部から口縁部に向かって直線的に立ち上がる。端部付近はやや短く外反する。2は鉢である。体部から口縁部に向かって緩やかに内湾し、先端部はほぼ垂直となる。口唇部は平坦である。3は甕である。頸部から口縁部に向かって直線的に伸びる。胴部はあまり膨らまず、全体的には砲弾状の器形となろう。内面頸部下には斜め方向のヘラ削りがみられる。

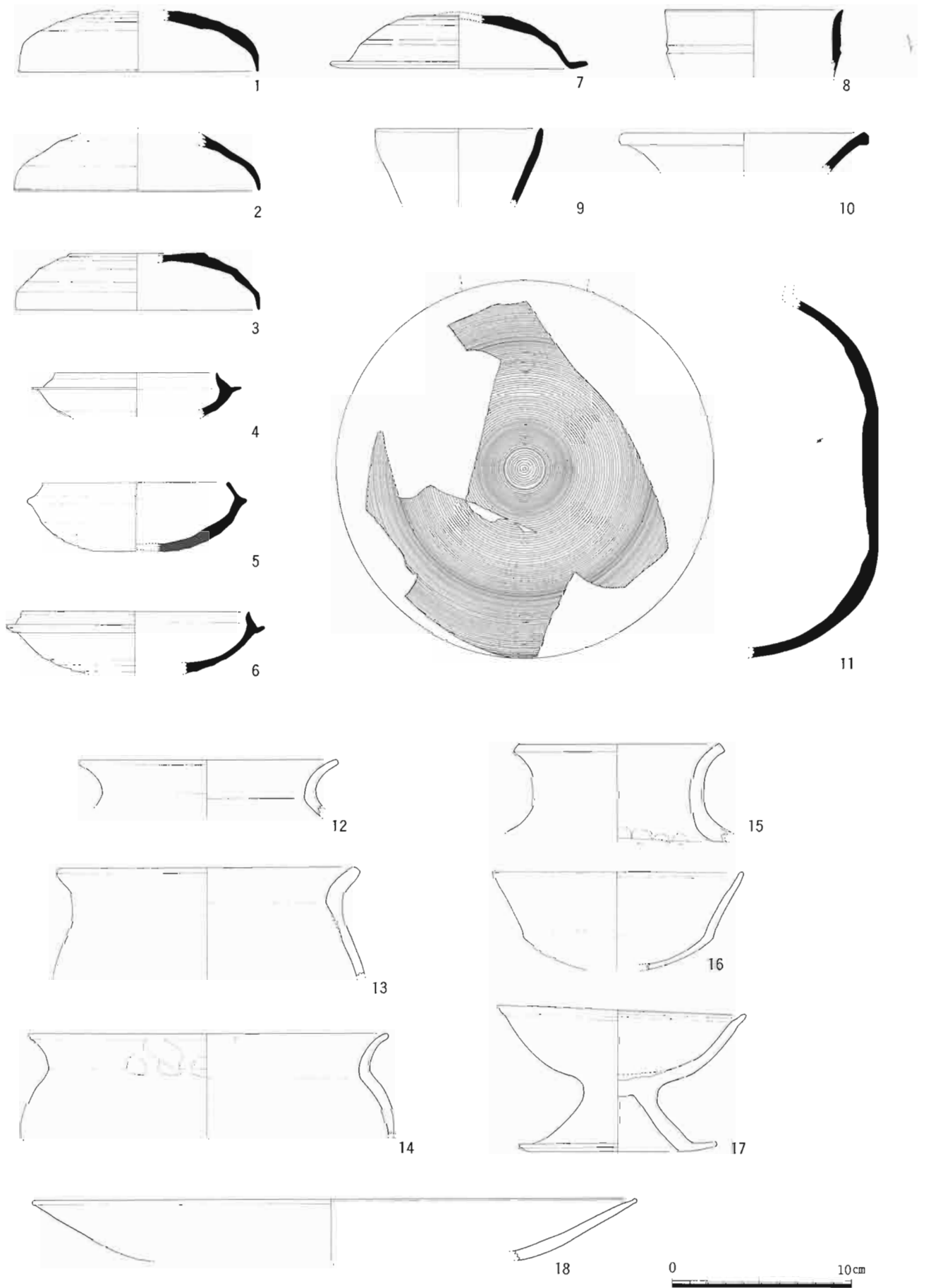
(2) 掘立柱建物

1号掘立柱建物 (第11図)

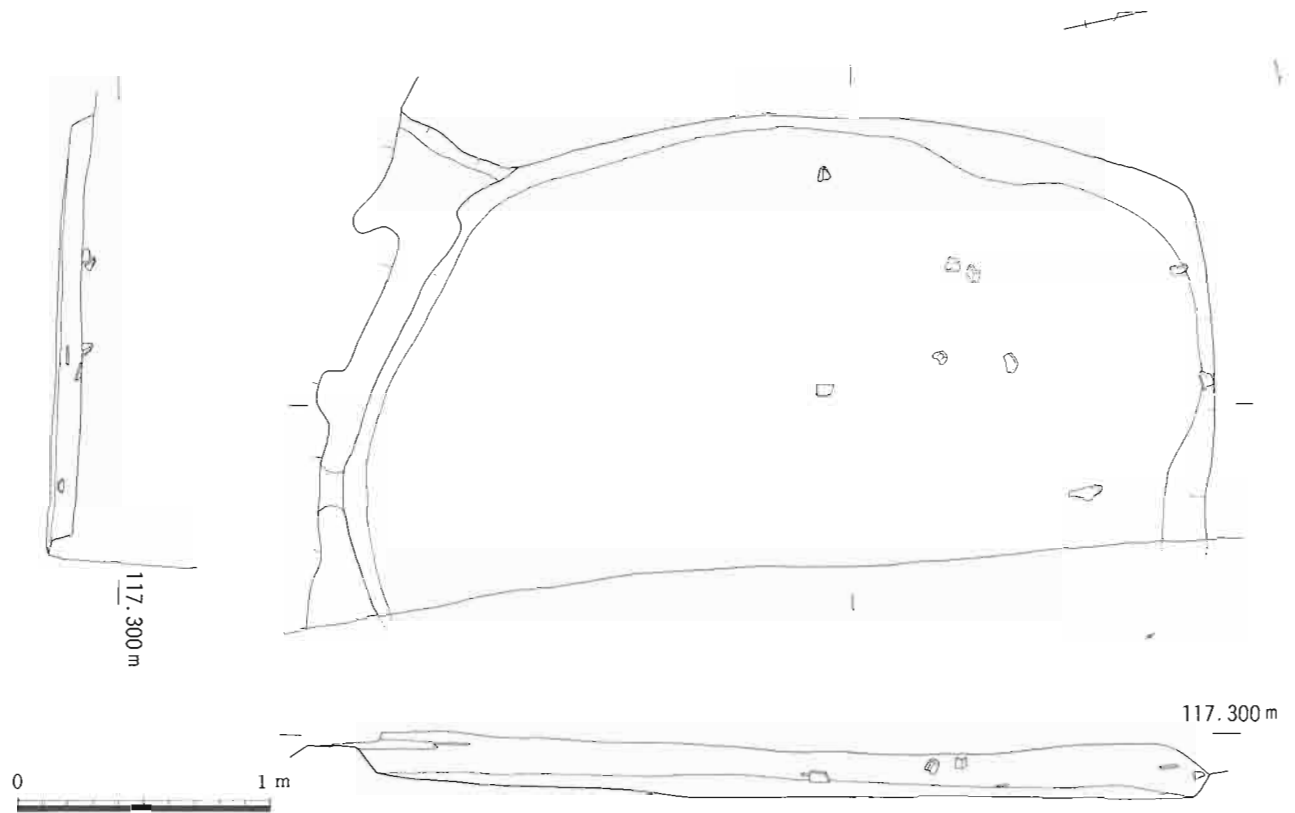
調査区中央で検出された。1号溝、5号土坑、7号土坑と切り合う。梁間3間(5.9m)×桁行5間(8.8m)の南北棟である。身舎面積は約51.9㎡を測る。建物の軸方位はN9°Eである。柱穴の掘り方は西側柱列が大きく平均で約70cmを測る。深さは平均で約70cmを測る。

1号掘立柱建物出土土器 (第16図・2表)

1・2は須恵器坏身片である。1は体部から蓋受部に向かって緩やかに開き、端部は内側へ向かって外反気味に伸びる。先端部を欠損する。2は体部片である。ヘラ切りによる調整がみられる。3は土師器甕片である。口縁部はくの字に外反し、先端部はつまみあげる。内面頸部下はヘラ削りがみられる。



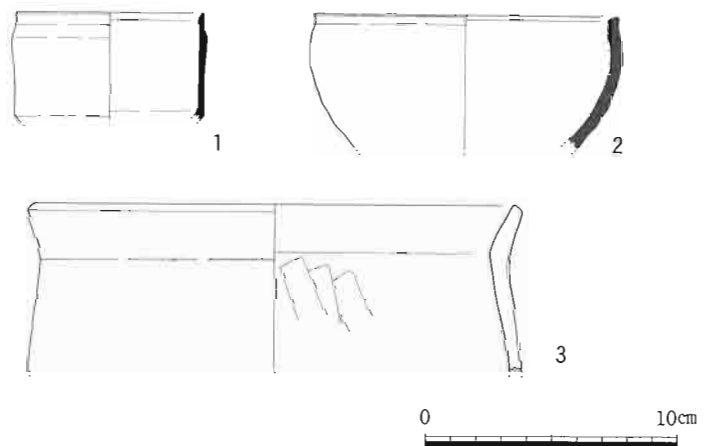
第8图 II区1号竖穴住居跡出土土器実測図(1/3)



第9図 II区2号竪穴住居跡実測図(1/30)

2号掘立柱建物 (第12図)

調査区東側で検出され、調査区外へ続く。1号溝、4・22号土坑を切り、2号竪穴住居跡、4号掘立柱建物と切り合う。建物の規模は、梁間2間以上(3.5m以上)×桁行3間(7.6m)の南北棟である。身舎面積は約26.6㎡以上を測る。建物の軸方位はN19°Eである。柱穴の掘

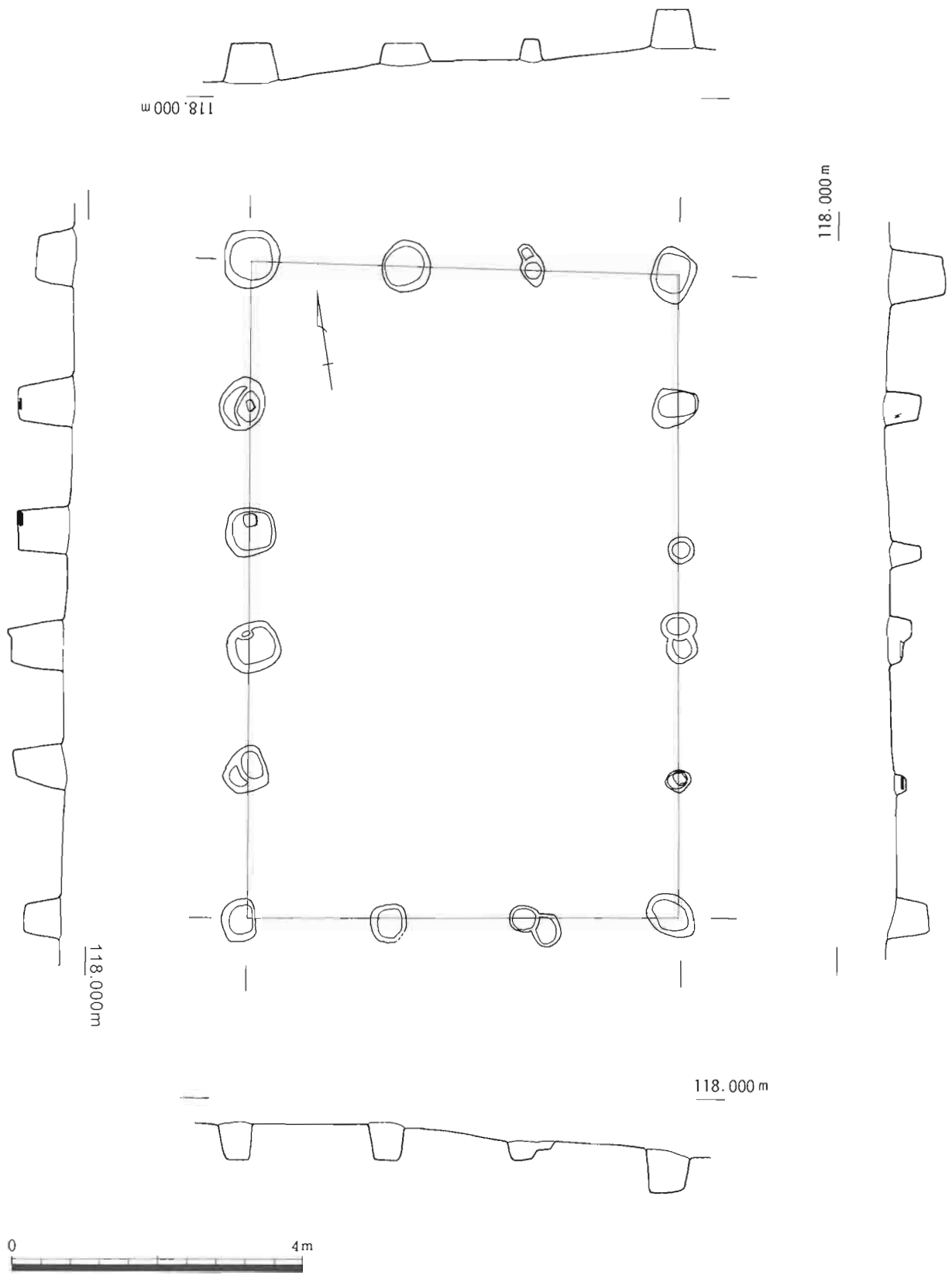


第10図 II区2号竪穴住居跡出土土器実測図(1/3)

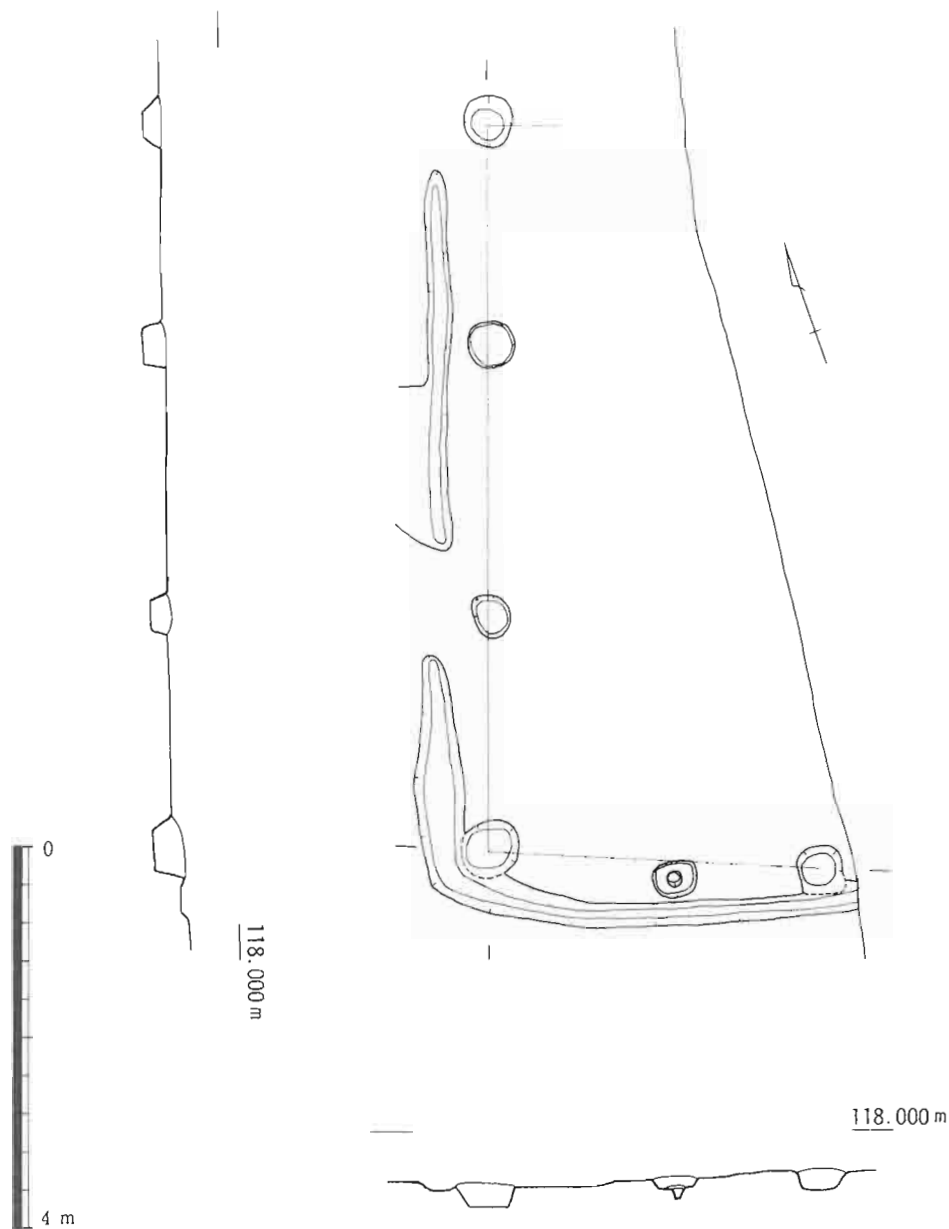
り方は大きいもので平均約50cm、深さは平均で約25cmを測る。溝は幅約20cm、深さ約10cmを測る。建物の外にはこれと平行して小溝が巡る。溝の幅約20cm、深さ約10cmを測る。

2号掘立柱建物跡出土土器 (第16図・2表)

4は高坏である。平坦な体部から口縁部へ向かって大きく屈曲し、先端部はわずかに外反する。



第11图 II区1号掘立柱建物实测图(1/80)



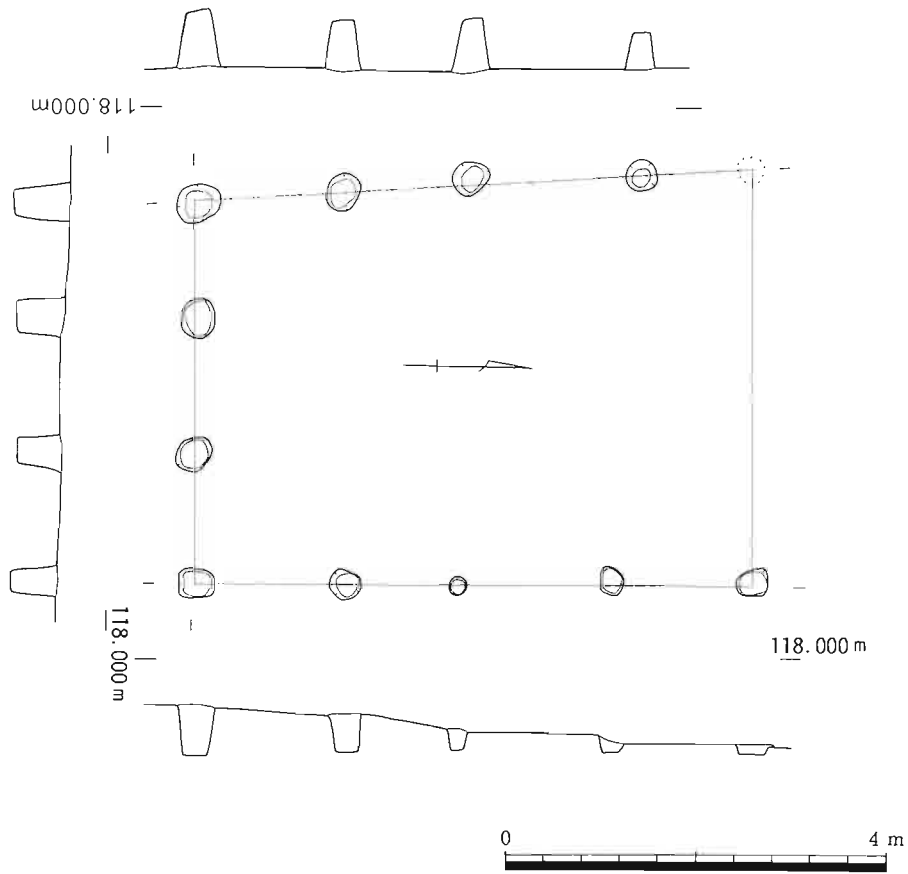
第12図 II区2号掘立柱建物実測図(1/80)

2号掘立柱建物跡附属溝出土土器(第17図・2表)

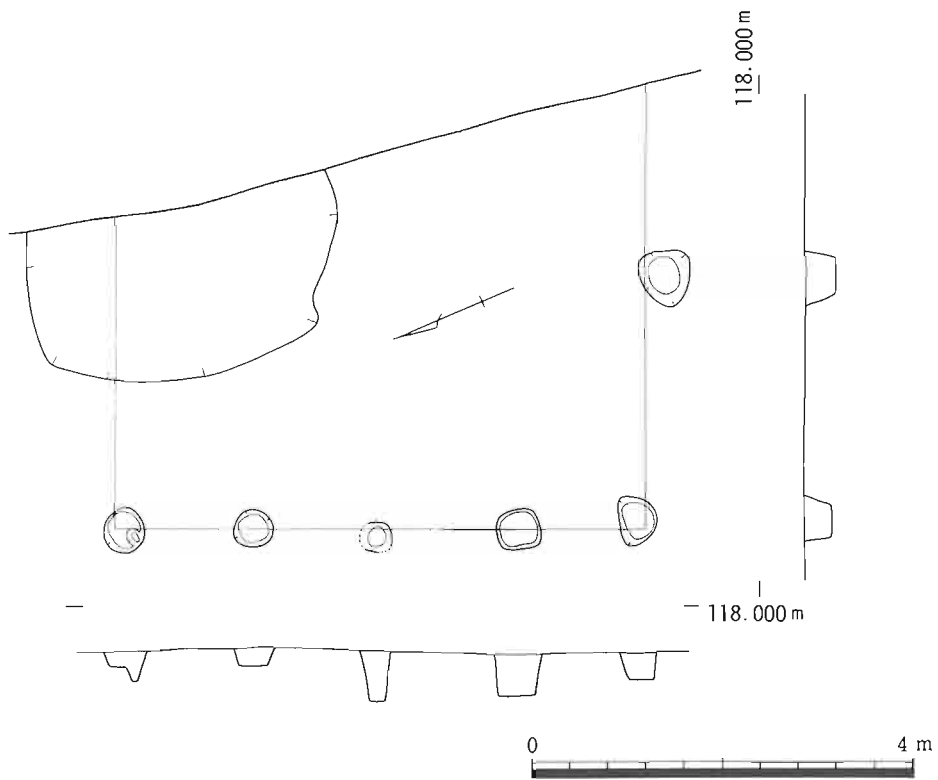
1～3は須恵器である。1は天井部に取り付けた宝珠状つまみである。2は体部から端部にかけて緩やかに内湾し、先端部は嘴状に屈曲する。3は甕である。胴部から口縁部にかけてくの字に外反する。先端部は丸く肥厚する。

3号掘立柱建物跡(第13図)

調査区東側で検出された。西側柱列の北側柱穴は削平されている。梁間3間(4.0m)×桁行4間(5.9m)の南北棟である。身舎面積は約23.6㎡を測る。建物の軸方位はほぼ磁北である。柱穴の掘り



第13图 II区3号掘立柱建物实测图(1/80)



第14图 II区4号掘立柱建物实测图(1/80)

方は不定形で平均約40cmを測る。深さは最も深いもので約60cmを測る。

3号掘立柱建物出土土器 (第16図・2表)

5は土師器甕片である。くの字に大きく外反し、内面頸部下はヘラ削りがみられる。

4号掘立柱建物 (第14図)

調査区東側で検出され、調査区外へ続く。2号竪穴住居跡、2号掘立柱建物、1号溝、22号土坑と切り合う。梁間4間(5.6m)×桁行2間以上(4.8m以上)の東西棟である。身舎面積は約26.9㎡以上を測る。建物の軸方位はN23°Eである。柱穴の掘り方は不定形で平均約50cmを測る。深さは最も深いもので約50cmを測る。

4号掘立柱建物出土土器 (第16図・2表)

6は土師器甕片である。くの字に大きく外反する。

5号掘立柱建物 (第15図)

調査区南側で検出された弥生時代の小型の建物である。柱穴の掘り方は円形で平均約40cmを測る。深さは最も深いもので約30cmを測る。

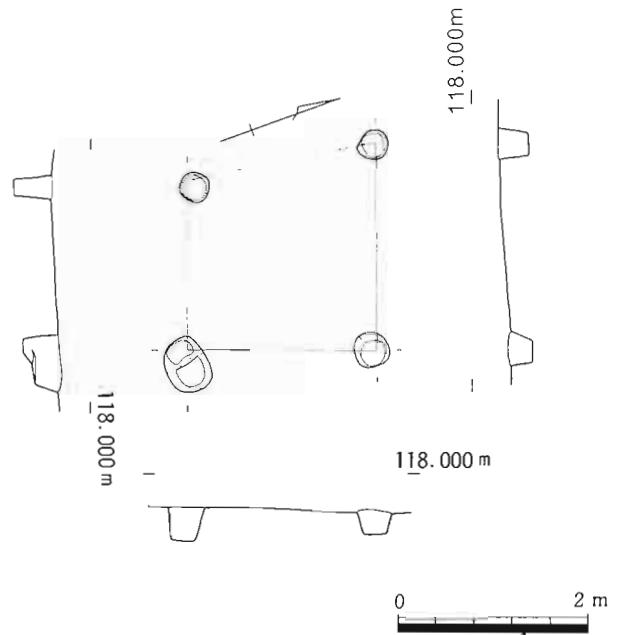
5号掘立柱建物出土土器 (第16図・2表)

7は甕口縁部である。くの字に外反し、先端部は跳ね上げ状となる。8は底部である。やや上げ底状となり、厚みがある。

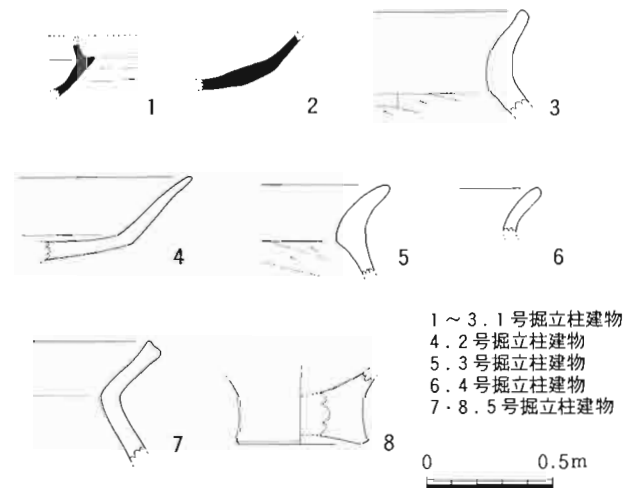
(3) 溝

1号溝 (第18図)

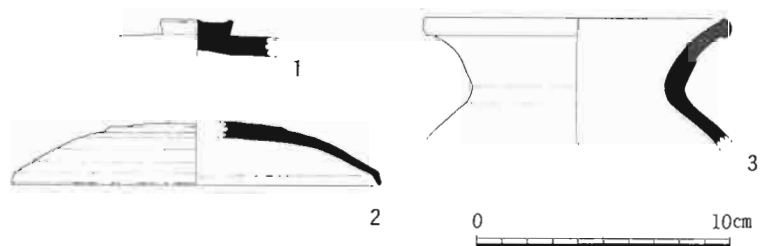
調査区を南北に分断する断面V字形の溝で、調査区外に伸びる。2号竪穴住居跡、2号掘立柱建物に切られ、5・22号土坑を切り、1・4号掘立柱建物と切り合う。検出面での溝の長さ



第15図 II区 5号掘立柱建物実測図(1/80)



第16図 II区掘立柱建物出土土器実測図(1/3)

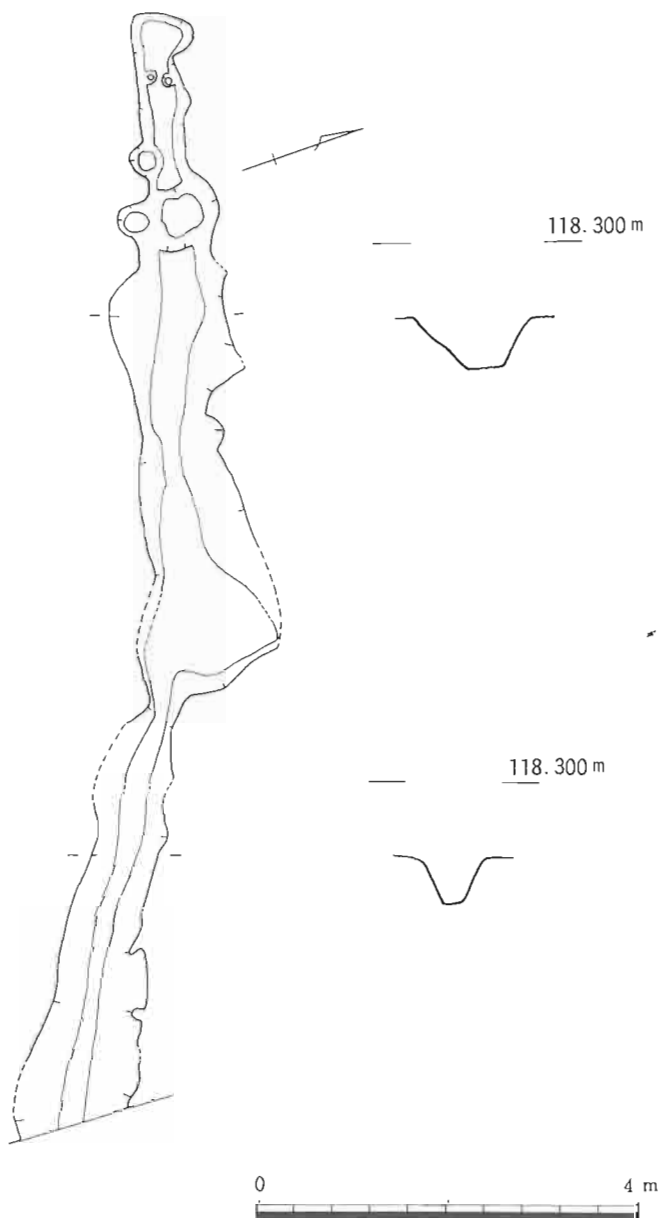


第17図 II区 2号掘立柱建物付属溝出土土器実測図(1/3)

は約11.9m、幅は0.4～1.1m、深さは残りのいい場所で約60cmを測る。

1号溝出土土器 (第19図・2表)

1～7はいずれも須恵器である。1は短頸壺の蓋で体部は丸みを持ち、端部はやや外に向かって開く。天井部は回転ヘラ削りがみられる。2～4は坏蓋である。2は体部から口縁部に向かって緩やかに湾曲し、口縁部付近は直線的になる。端部は大きくしっかりしている。3は嘴状口縁となる。4は蓋にかえりを取り付くものである。5は短頸壺で1とセットになる可能性がある。分厚い体部に短く細い端部が取り付く。6は坏身である。体部は浅く、蓋受部に向かって緩やかに内湾し、端部は短く、内側へ向かって外反気味に伸びる。7は腺である。先端部を欠損する。屈曲部には横方向に沈線が一条入る。

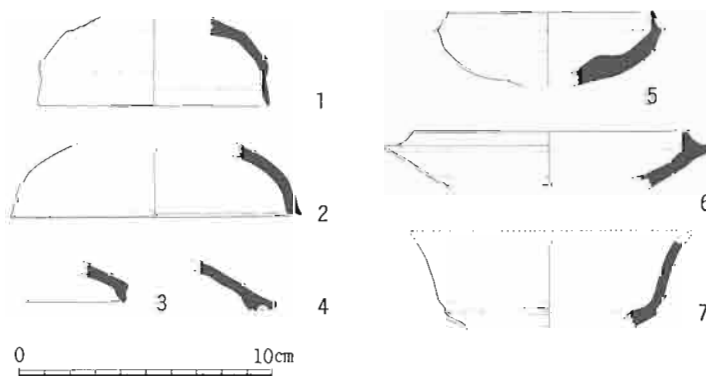


第18図 II区1号溝実測図(1/80)

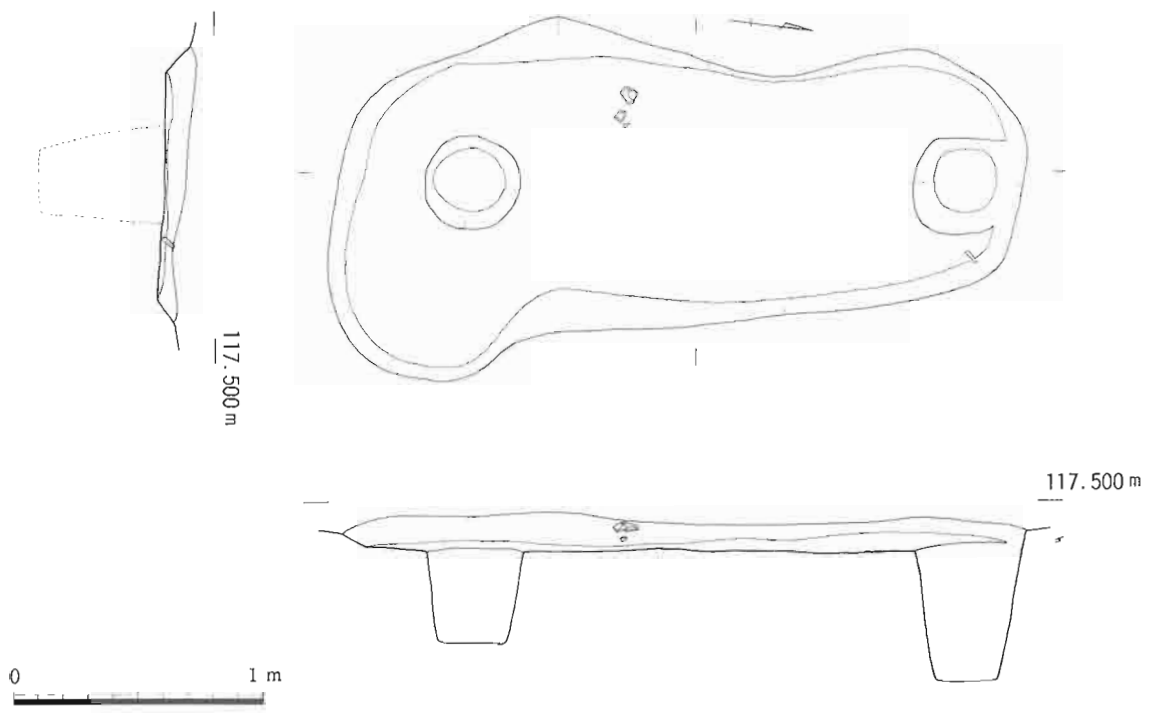
(4) 土坑

1号土坑 (第20図)

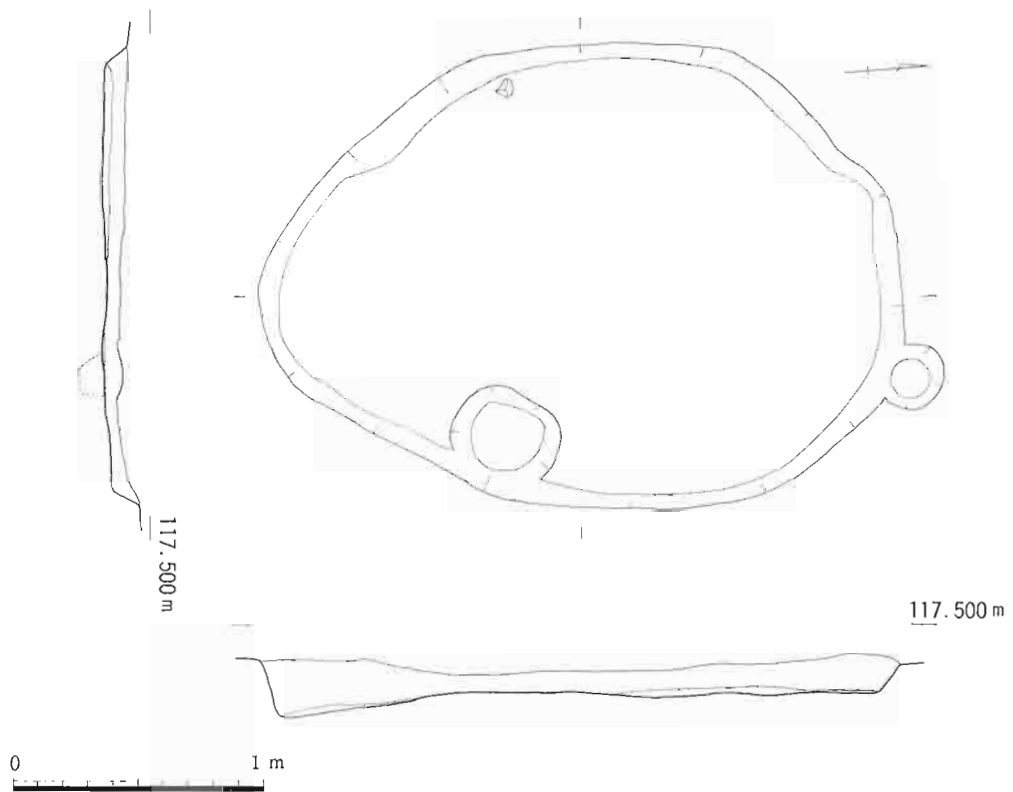
調査区南側で検出された。5号掘立柱建物を切る。長軸約2.7m、短軸約2.1mを測る不定形のプランである。深さは約10cmを測る。床面はほぼ平坦で、壁面は斜め方向に緩やかに立ち上がる。



第19図 II区1号溝出土土器実測図(1/3)



第20图 II区1号土坑实测图(1/30)



第21图 II区2号土坑实测图(1/30)

1号土坑出土土器 (第24図・2表)

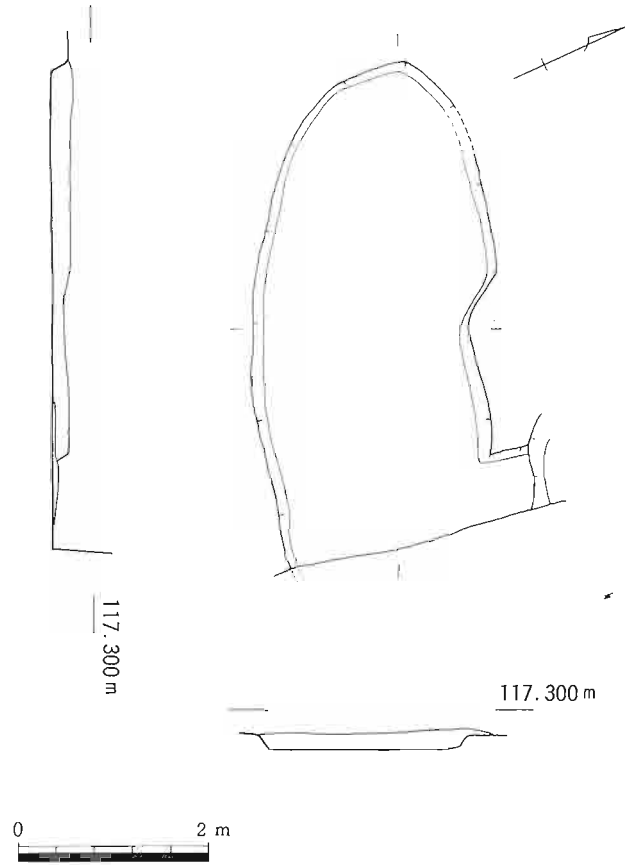
1は土師器甕である。口縁部はくの字に屈曲し、頸部下内面にはヘラ削りがみられる。

2号土坑 (第21図)

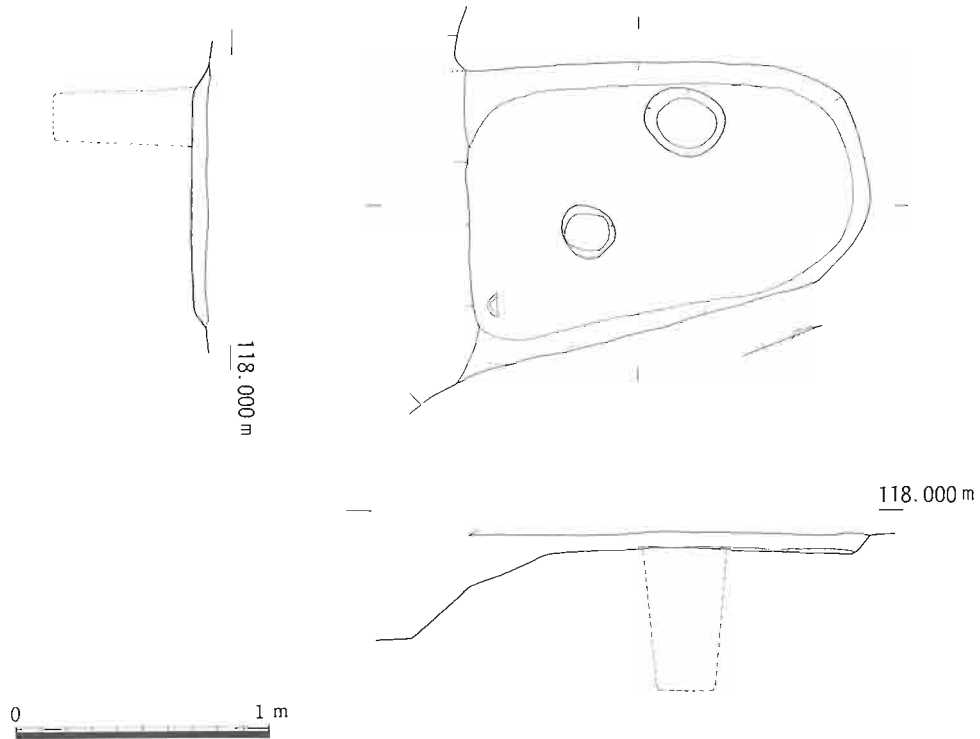
調査区南端で検出された。長軸約2.5m、短軸約1.8mを測る楕円形のプランである。深さは約10cmを測る。床面はほぼ平坦で、壁面は斜め方向に緩やかに立ち上がる。遺構の東端にそれぞれ1つずつの柱穴が確認された。

2号土坑出土土器 (第24図・2表)

3～5は須恵器坏蓋である。いずれも体部から口縁部にかけて緩やかに内湾する。端部は3は丸く仕上げ、4・5は尖っている。天井部はいずれも回転ヘラ削りがみられる。6は土師器坏蓋である。体部は丸みを持ち、屈曲部から先端部にかけて開き



第22図 II区4号土坑実測図(1/80)



第23図 II区5号土坑実測図(1/30)

気味に直線的に伸びる。7・8は土師器甕である。いずれも胴部から口縁部にかけてくの字に屈曲する。頸部下内面にはヘラ削りがみられる。

4号土坑（第22図）

調査区東側で検出され、調査区外へ続く。2号掘立柱建物に切られ、22号土坑を切る。検出面での長軸約5.1m、短軸約1.3mを測る不定形のプランである。深さは約30cmを測る。床面はほぼ平坦で、壁面は斜め方向に緩やかに立ち上がる。

4号土坑出土土器（第24図・2表）

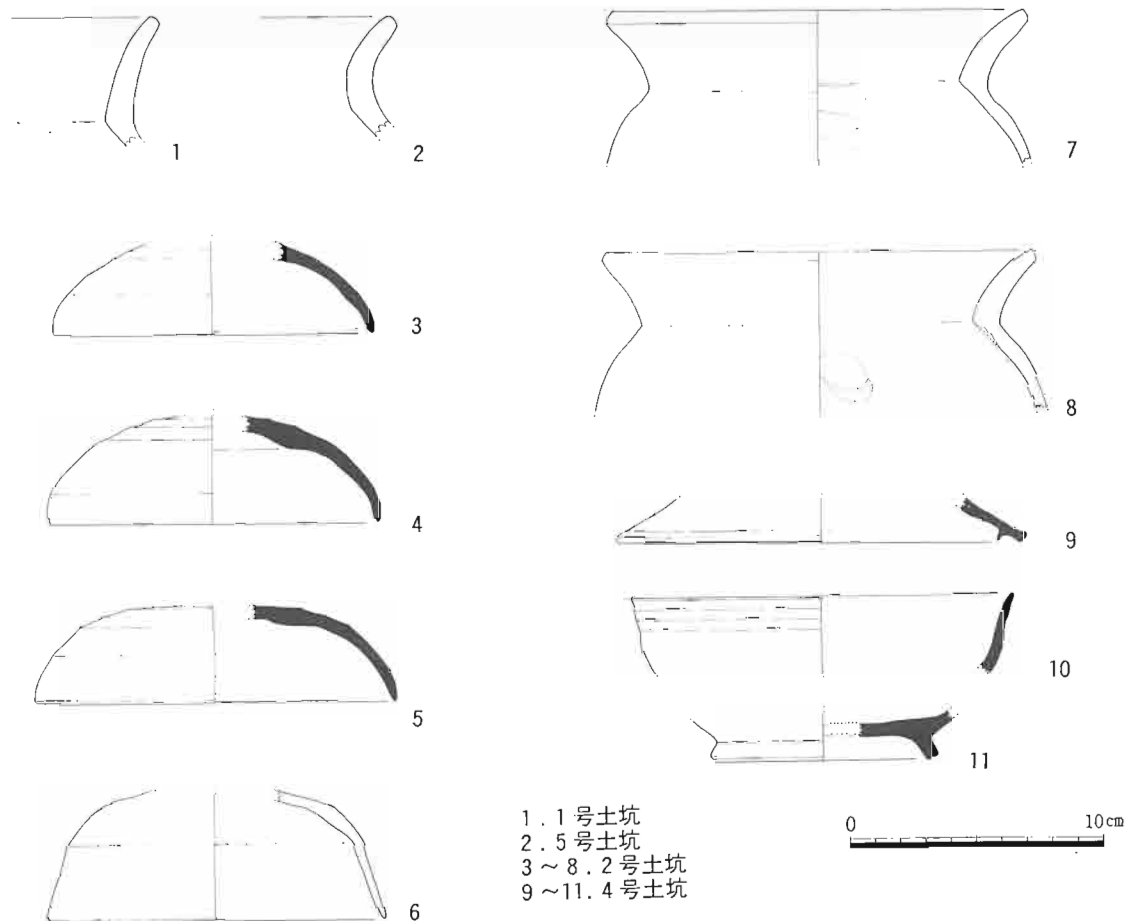
9～11はいずれも須恵器である。9は蓋でかえりはしっかりしている。10は坏身口縁部である。体部から端部にかけてやや外反する。11は底部である。斜め方向に開く高台が取り付け。

5号土坑（第23図）

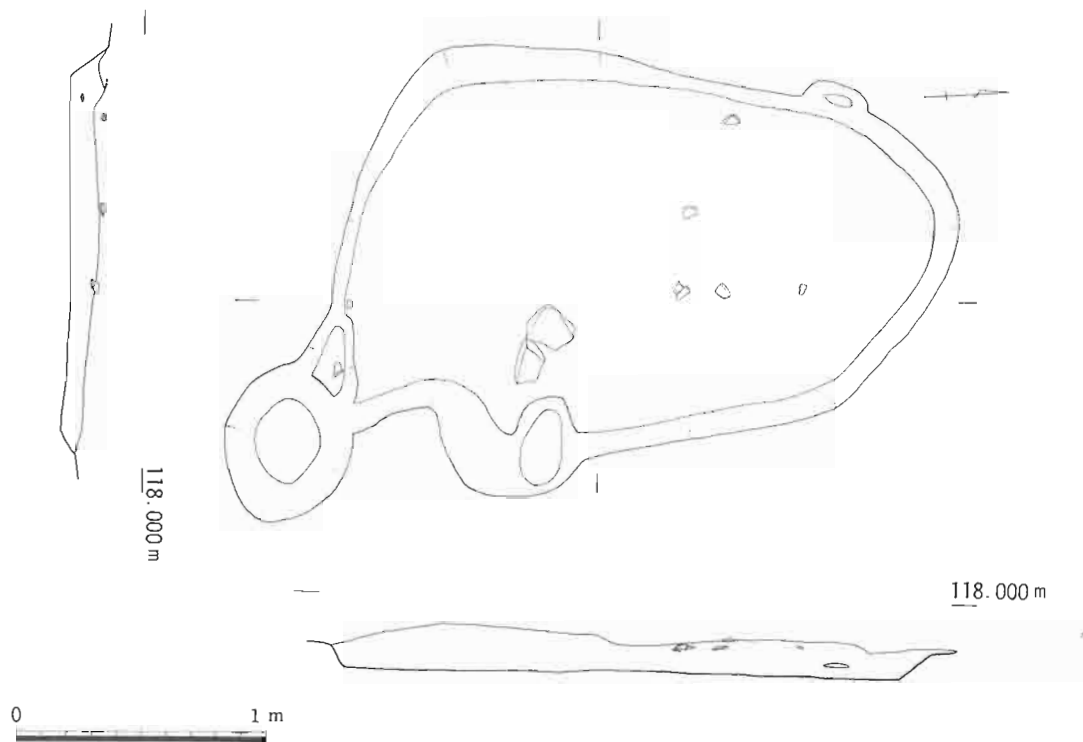
調査区中央で検出され、1号溝に切られる。残存の長軸約1.5m、短軸約1.1mを測る不定形のプランである。深さは約10cmを測る。床面はほぼ平坦で、壁面は斜め方向に緩やかに立ち上がる。遺構の中央付近に2つの柱穴が確認された。

5号土坑出土土器（第24図・2表）

5は土師器甕である。口縁部はくの字に屈曲し、頸部下内面にはヘラ削りがみられる。



第24図 II区1・2・4・5号土坑出土土器実測図(1/3)



第25図 II区7号土坑実測図(1/30)

7号土坑(第25図)

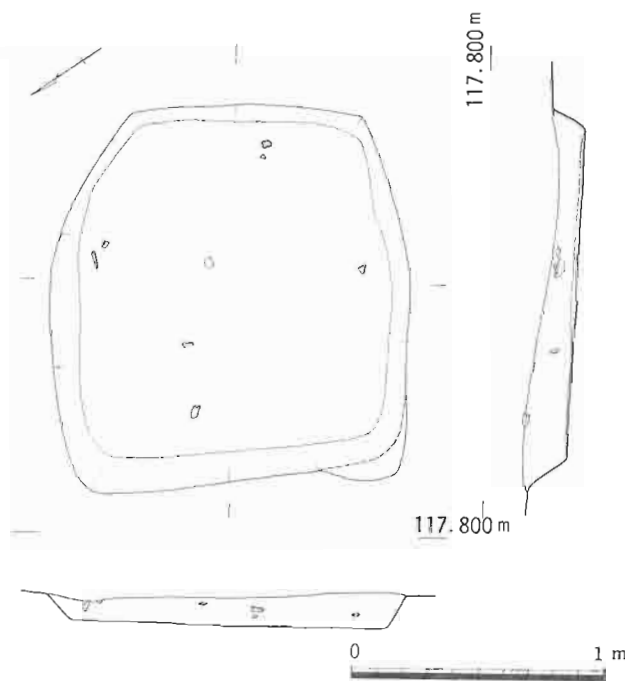
調査区中央で検出された。1号掘立柱建物と切り合う。長軸約2.4m、短軸約1.6mを測る不定形のプランである。深さは約15cmを測る。床面はほぼ平坦で、壁面は斜め方向に緩やかに立ち上がる。遺構の東・北部には1つずつの柱穴が確認された。遺構からは土師器・須恵器の小破片が出土している。

8号土坑(第26図)

調査区北東側で検出された。長軸約1.5m、短軸約1.4mを測る歪な方形のプランである。深さは約10cmを測る。床面はほぼ平坦で、壁面は斜め方向に緩やかに立ち上がる。

8号土坑出土土器(第27図・2表)

1・2は土師器甕である。いずれも口縁部はくの字に屈曲し、頸



第26図 II区8号土坑実測図(1/30)

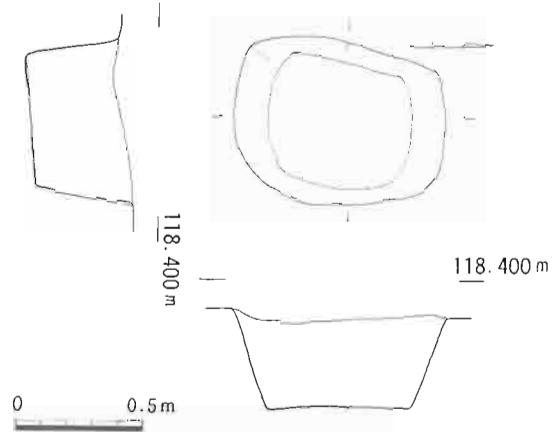


第27図 II区8号土坑出土土器実測図(1/3)

部下内面にはヘラ削りがみられる。

11号土坑（第28図）

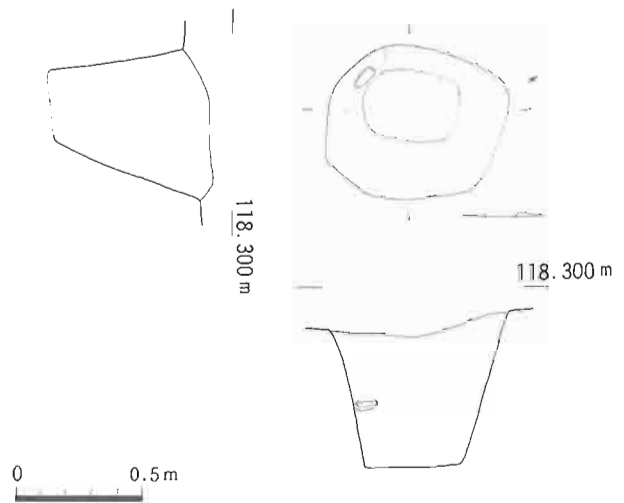
調査区北側で検出された。長軸約0.8m、短軸約0.65mを測るほぼ隅丸方形に近いプランである。深さは約35cmを測る。床面はほぼ平坦で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。遺構からは遺物の出土はなかった。



第28図 II区11号土坑実測図(1/30)

12号土坑（第29図）

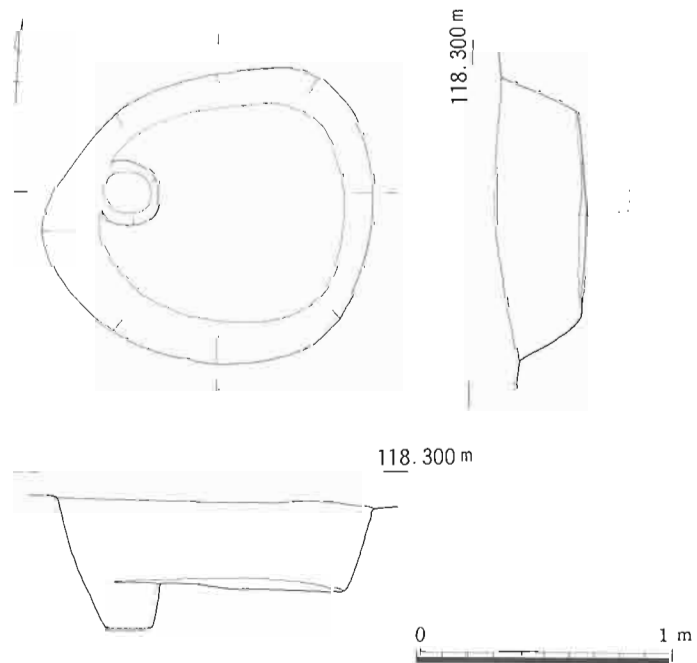
調査区北側で検出された。長軸約0.7m、短軸約0.6mを測る不定形のプランである。深さは約50cmを測る。床面はほぼ平坦で、壁面は垂直に立ち上がる。遺構からは遺物の出土はなかった。



第29図 II区12号土坑実測図(1/30)

13号土坑（第30図）

調査区北側で検出された。長軸約1.3m、短軸約1.15mを測る不定形のプランである。深さは約35cmを測る。床面はほぼ平坦で、壁面はやや斜め方向に急角度で立ち上がる。床面西部に柱穴が1つ確認された。遺構からは土師質土器小皿小破片が1点出土している。



第30図 II区13号土坑実測図(1/30)

14号土坑（第31図）

調査区北側で検出された。長軸約1.1m、短軸約0.8mを測る不定形のプランである。深さは約40cmを測る。床面は平坦で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。遺構からは土師質土器小皿の小破片が1点出土している。

15号土坑（第32図）

調査区北側で検出された。長軸約1.3m、短軸約0.7mを測る不定形のプランである。深さは約45cmを測る。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、遺構の南北に2つの柱穴が

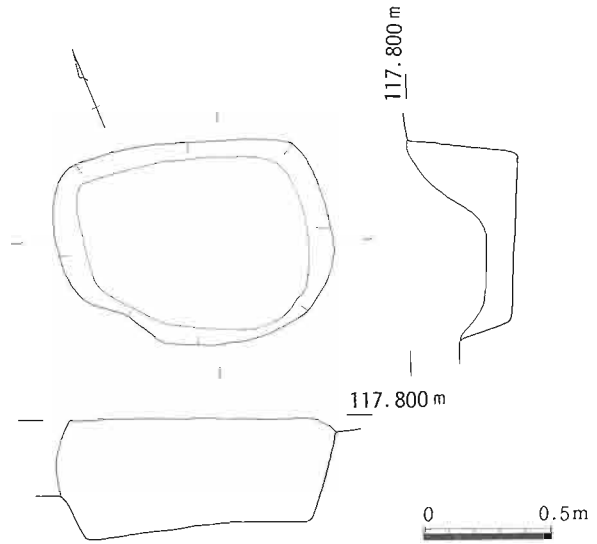
確認された。遺構からは土師器小破片が1点出土している。

17号土坑 (第33図)

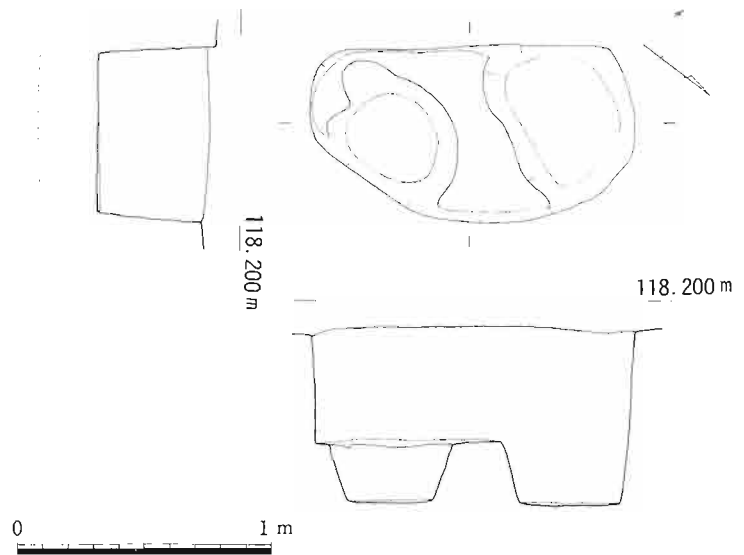
調査区西側で検出された。長軸約8.5m、短軸約1.1mを測る溝状の不定形プランである。深さは最も深い位置で約1.5mを測る。床面は3つの段差が見られる。壁面はやや斜め方向に急角度で立ち上がる。

17号土坑出土土器 (第34図・2表)

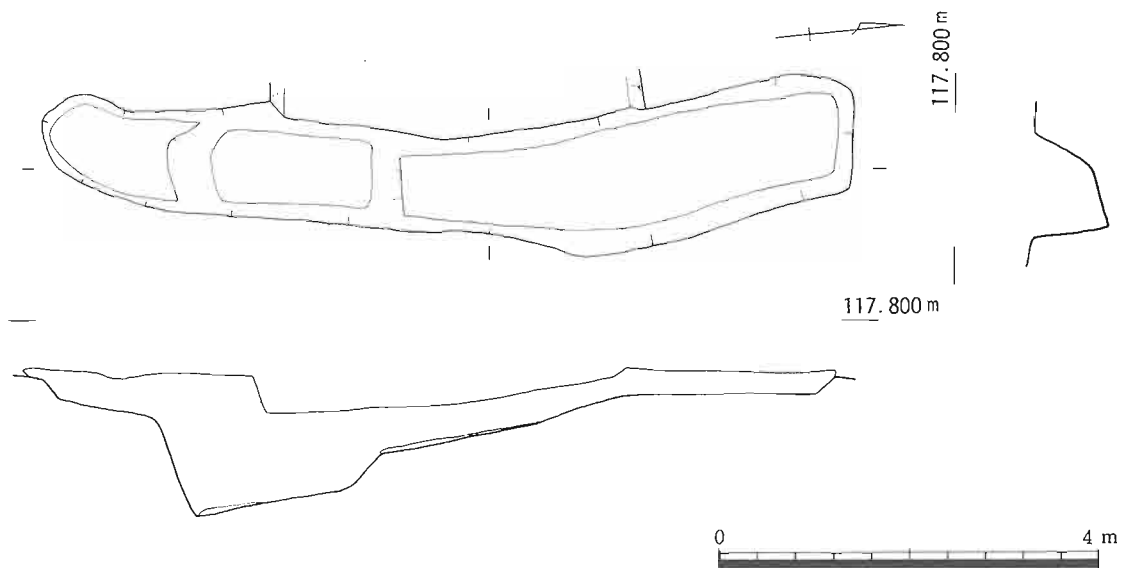
1～4は須恵器、5～7は土師器である。1・2は蓋で体部は浅く、かえりを取り付く。天井部は回転ヘラ削りがみられる。3・4は坏身で体部は大きく屈曲する。底部にはしっかりした高台が取り付く。5・6は甕である。いずれも口縁部はくの字に屈曲し、頸部下内面にはヘラ削りがみられる。7は椀である。体部は浅く、底部は丸味を持ちながらほぼ平坦となる。



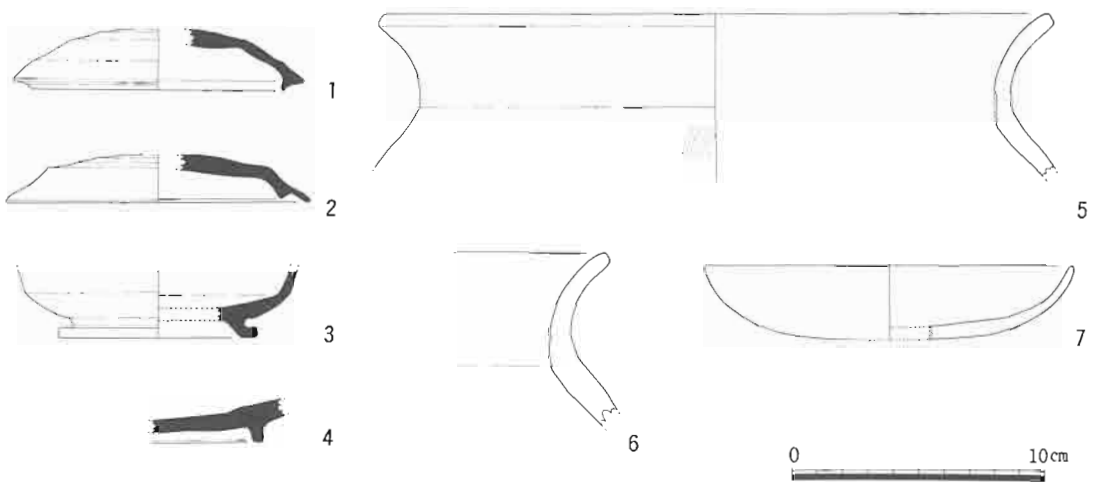
第31図 II区14号土坑実測図(1/30)



第32図 II区15号土坑実測図(1/30)



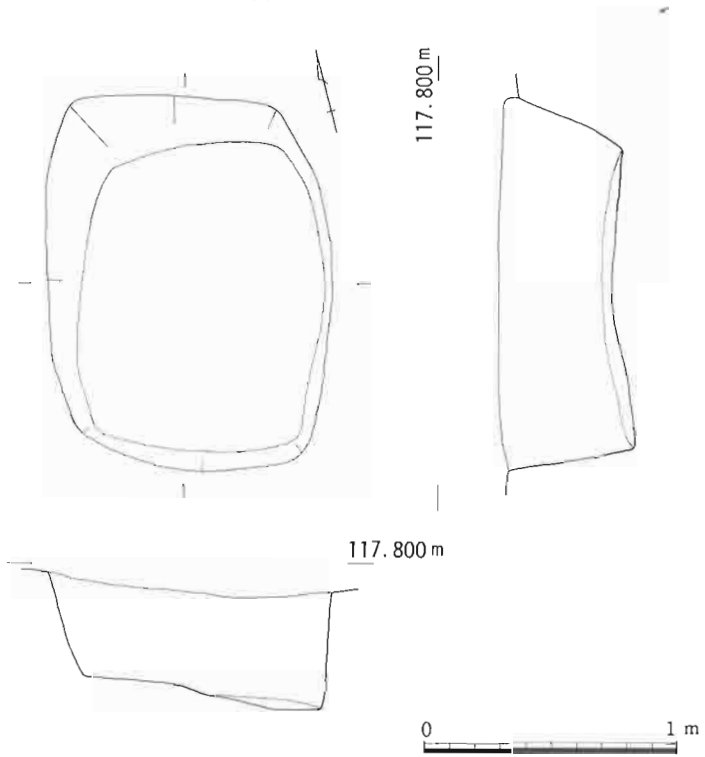
第33図 II区17号土坑実測図(1/80)



第34図 II区17号土坑出土土器実測図(1/3)

19号土坑 (第35図)

調査区西側で検出された。長軸約1.5m、短軸約1.1mを測る長方形のプランである。深さは約45cmを測る。床面は中央付近がやや高く、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。遺構からは遺物の出土はなかった。



20号土坑 (第36図)

調査区西側で検出された。長軸約1.4m、短軸約0.7mを測る長方形のプランである。深さは約10cmを測る。床面はほぼ平坦で、壁面は緩やかに立ち上がる。遺構からは土師器の小破片が出土している。

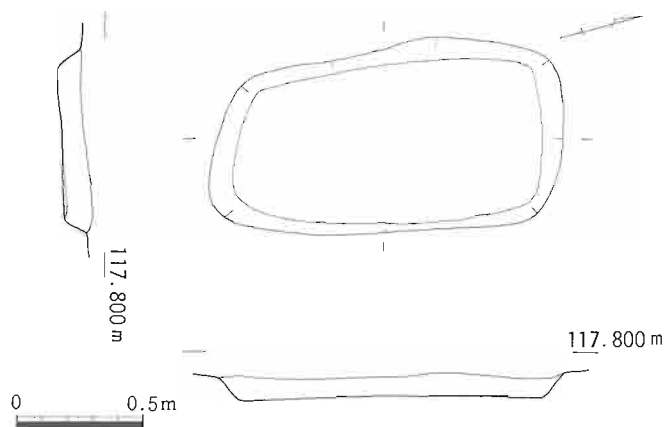
22号土坑 (第37図)

調査区東側で検出された。遺構は調査区外へ続く。4号土坑、1号溝に切られ、2・4号掘立柱建物と切り合う。南北軸約1.8mを測る不定形のプランである。深さは約30cmを測る。床面はほぼ平坦で、壁面は急角度に立ち上がる。

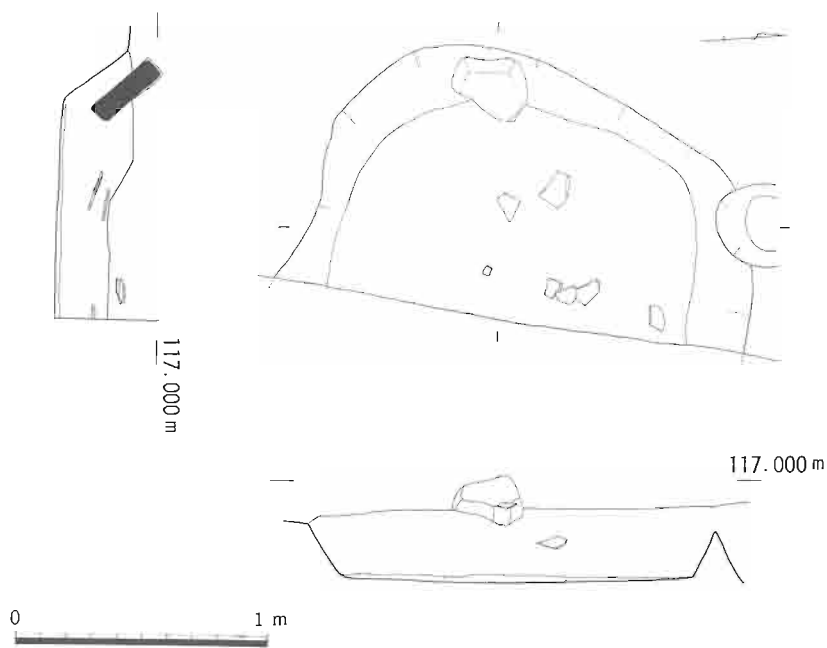
第35図 II区19号土坑実測図(1/30)

22号土坑出土土器（第38図・2表）

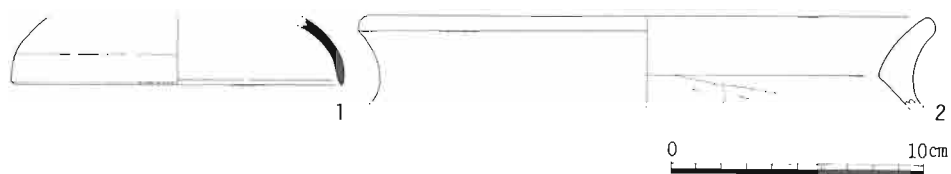
1は須恵器坏蓋である。体部から口縁部にかけて緩やかに内湾する。端部は内側に稜を持つ。2は土師器甕である。胴部から口縁部にかけてはくの字に屈曲し、頸部下内面にはヘラ削りがみられる。



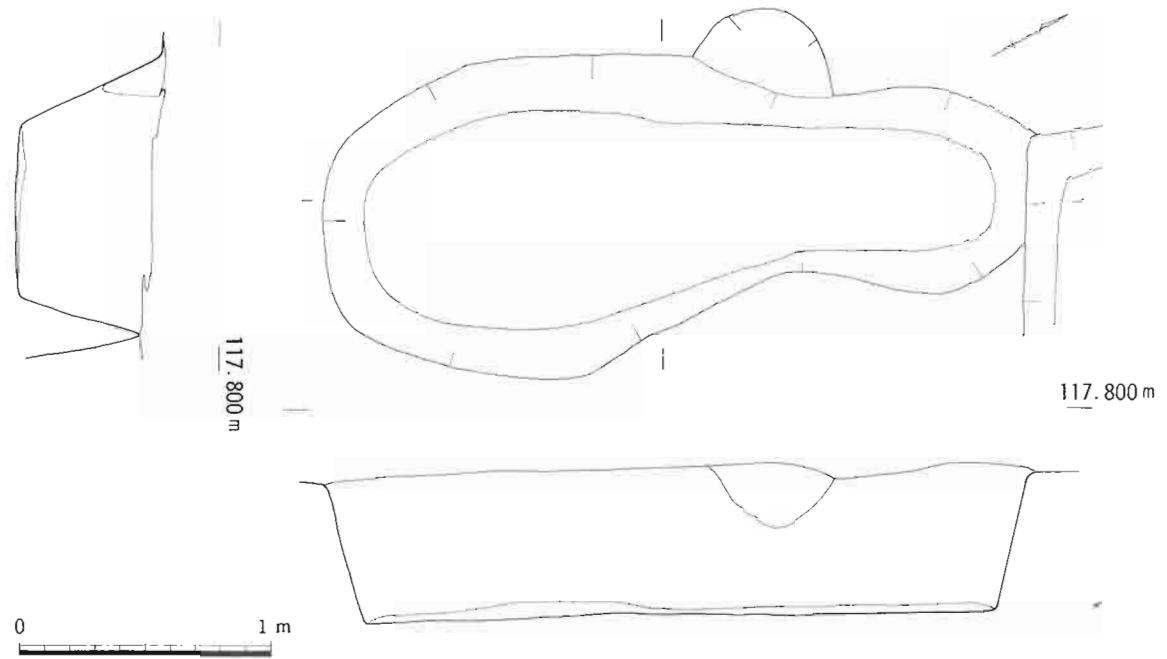
第36図 II区20号土坑実測図(1/30)



第37図 II区22号土坑実測図(1/30)



第38図 II区22号土坑出土土器実測図(1/3)



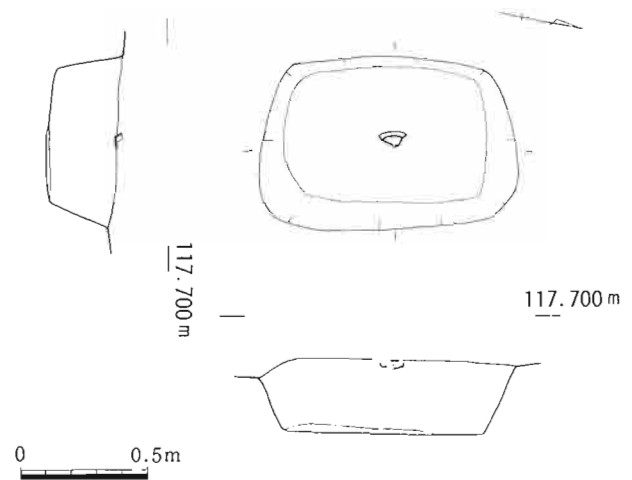
第39図 II区23号土坑実測図(1/30)

23号土坑 (第39図)

調査区西側で検出された。長軸約2.8m、短軸約1.1mを測る不定形のプランである。深さは約55cmを測る。床面はほぼ平坦で、壁面は急角度で立ち上がる。遺構からは土錘・土師器・須恵器の小破片が出土している。

24号土坑 (第40図)

調査区西側で検出された。長軸約1.0m、短軸約0.7mを測る長方形のプランである。深さは約25cmを測る。床面はほぼ平坦で、壁面は急角度で立ち上がる。遺構からの遺物の出土はなかった。



第40図 II区24号土坑実測図(1/30)

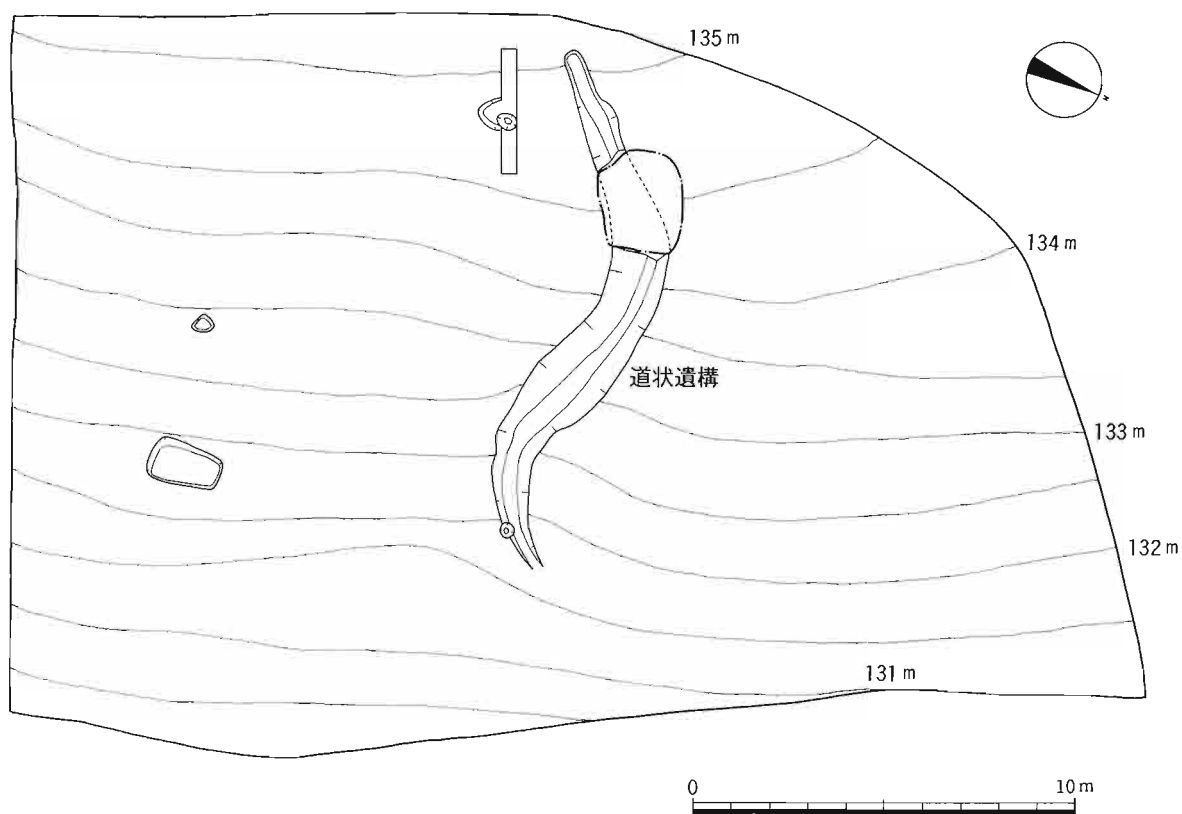
4. III区の調査

1. 道状遺構 (第41図)

調査区の中央で確認されたもので、南側斜面を傾斜方向に沿ってS字状に伸びる。検出面での長さ約13.5m、最大幅約1.9m、深さは約40cmを測る。その断面は逆台形～浅い皿状を呈している。埋土は2層に別れており軟質の黒褐色土の上に茶褐色土が堆積している。土器等の遺物は出土していない。

このS字に伸びる遺構は、カーブを描いて掘削されていることや、埋土の状況からみて溝として機能していた可能性が少ないことから、道状遺構と考えられる。この遺跡に関しては、調査区の東端を南北に幅約2mの沖積地の集落へ向かう山道が走っており、それとの関連が注目される。

また、他の土坑や柱穴については遺物の出土はなかった。



第41図 III区遺構配置図(1/200)

5. IV区の調査

(1) 竪穴住居跡

1号竪穴住居跡 (第43図)

調査区北東側で確認された方形の竪穴住居跡である。遺構は調査区外へと続いている。検出面での規模は南北約3.25m、深さ約10cmを測る。床面はほぼ平坦で、壁面は床面に対してほぼ垂直に立ち上がる。北側から西側壁面に沿っては周溝が確認された。西側壁面中央付近にはカマドの形跡を示す赤褐色に焼成を受けた面がみられ、その両側には袖石の抜き取り痕が確認された。この中には焼土や炭が混入しており、カマド廃棄時に抜き取られたと推測される。住居跡内からは数個の柱穴が検出されたが、遺構が調査区外に伸びるため、これらが支柱穴かどうかは判断できない。

1号竪穴住居跡出土土器 (第44図・3表)

1～3は土師器である。1・2は甕口縁部で、1はくの字に屈曲し、内面に横ハケがみられる。2は先端部を内側に摘み上げている。3は高坏柱状部で、内面横方向の削りがみられる。

2号竪穴住居跡 (第45図)

調査区北東側で確認された隅丸方形の竪穴住居跡である。遺構は調査区外へと続いている。検出面での規模は南北約2.9mを測り、深さ約5cmである。床面はほぼ平坦で、壁面は床面に対してやや斜め方向に立ち上がる。西側壁面のほぼ中央付近に浅い土坑が付設される。遺構内からはカマドの痕跡は確認されなかったが、住居跡の残りが浅いことから土坑の位置に本来カマドが存在していた可能性もある。

(2) 土坑

1号土坑 (第46図)

調査区中央で検出された。長軸約0.65m、短軸約0.5mを測る不定形のプランである。深さは約25cmを測る。床面はほぼ平坦で西側に段が付く。壁面は斜め方向に急角度で立ち上がる。

1号土坑出土土器 (第48図・3表)

1は須恵器甕である。口縁部はくの字に外反し、端部は外に向けて三角形に尖らせる。胴部は球形となり、内外面ともタタキ痕が顕著に残る。

2号土坑 (第47図)

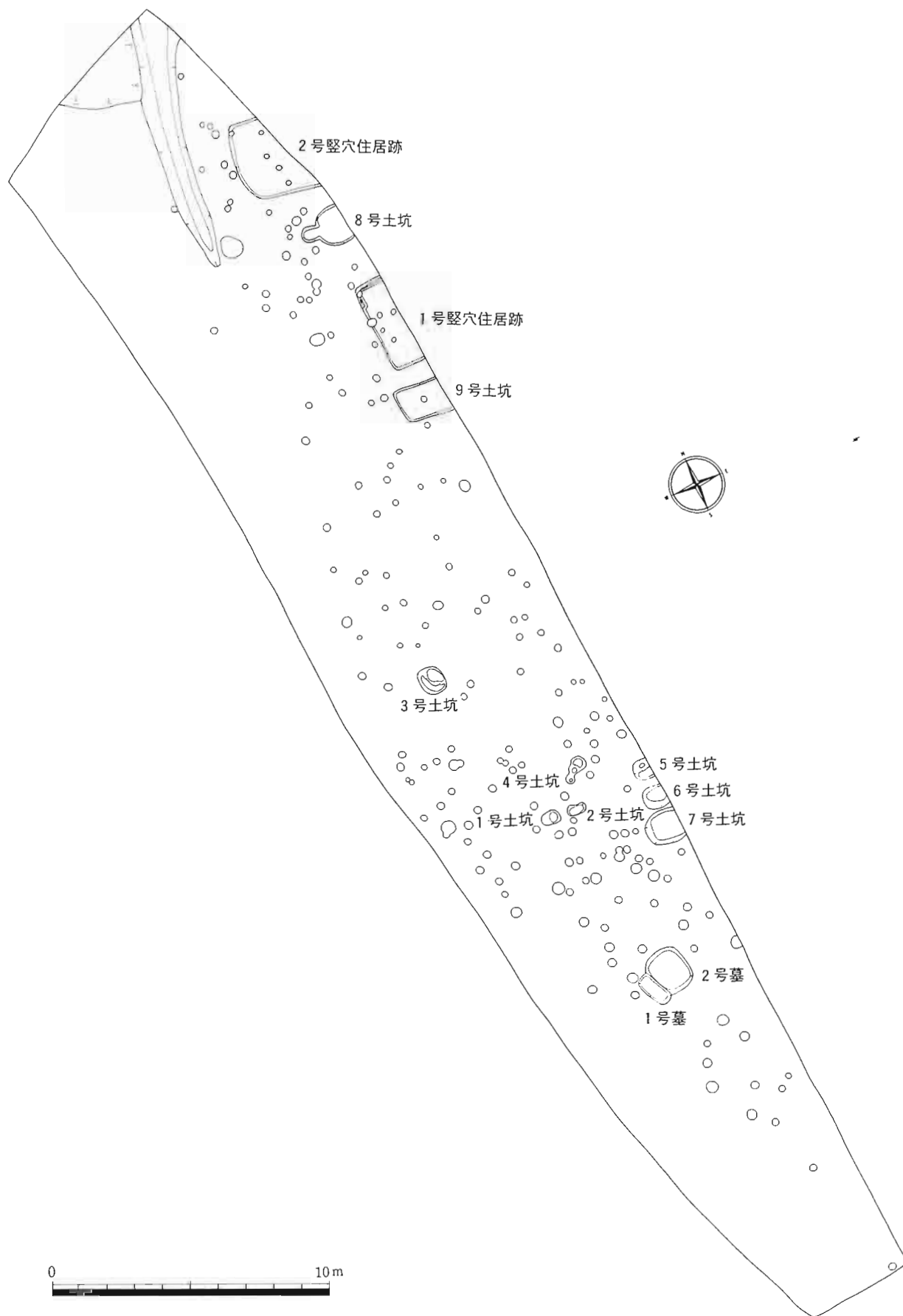
調査区中央で検出された。長軸約0.85m、短軸約0.35mを測る楕円形のプランである。深さは約10cmを測る。床面はほぼ平坦で、壁面は斜め方向に緩やかに立ち上がる。遺構の東南コーナー付近は柱穴に切られる。

2号土坑出土土器 (第48図・3表)

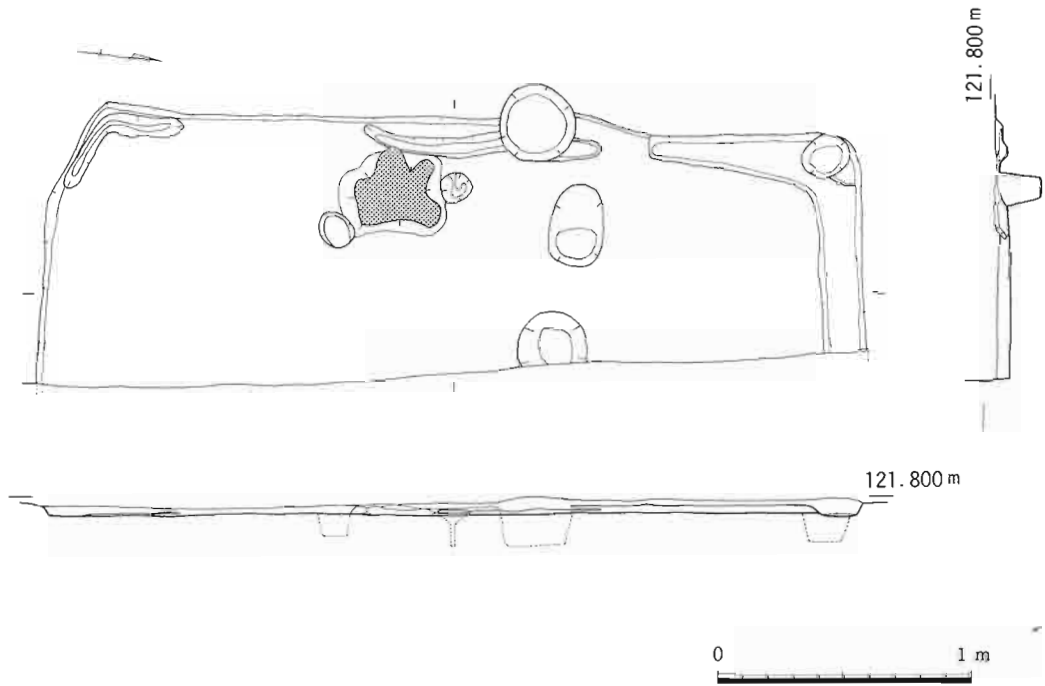
2・3は須恵器坏身である。2は体部から蓋受部に向かって緩やかに内湾しながら外に開き、端部はほぼ垂直に立ち上がる。底部外面はヘラ削りがみられる。3はほぼ平坦となる底部から蓋受部に向かってやや外反しながら伸び、端部はほぼ垂直に立ち上がる。底部は不定方向のヘラ切りが見られる。

3号土坑 (第49図)

調査区中央で検出された。長軸約1.4m、短軸約1.2mを測る不定形のプランである。深さは約20cmを測る。床面はほぼ平坦で、西側には段が設けられており壁面はほぼ垂直に立ち上がる。遺構の南



第42图 IV区遺構配置図(1/200)

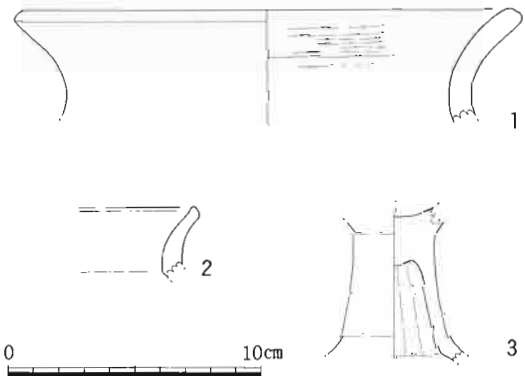


第43図 IV区1号竪穴住居跡実測図(1/30)

側には3つの柱穴がみられる。内部からは石が数個検出されたが遺物の出土はなかった。

4号土坑(第50図)

調査区中央で検出された。長軸約1.15m、短軸約0.65mを測る不定形のプランである。段の異なる3つの平坦な床面をもち、中央の最も深い位置で約15cmを測る。壁面は斜め方向に急角度で立ち上がる。内部からは石が数個検出されたが遺物の出土はなかった。



第44図 IV区1号竪穴住居跡出土土器実測図(1/3)

5号土坑(第51図)

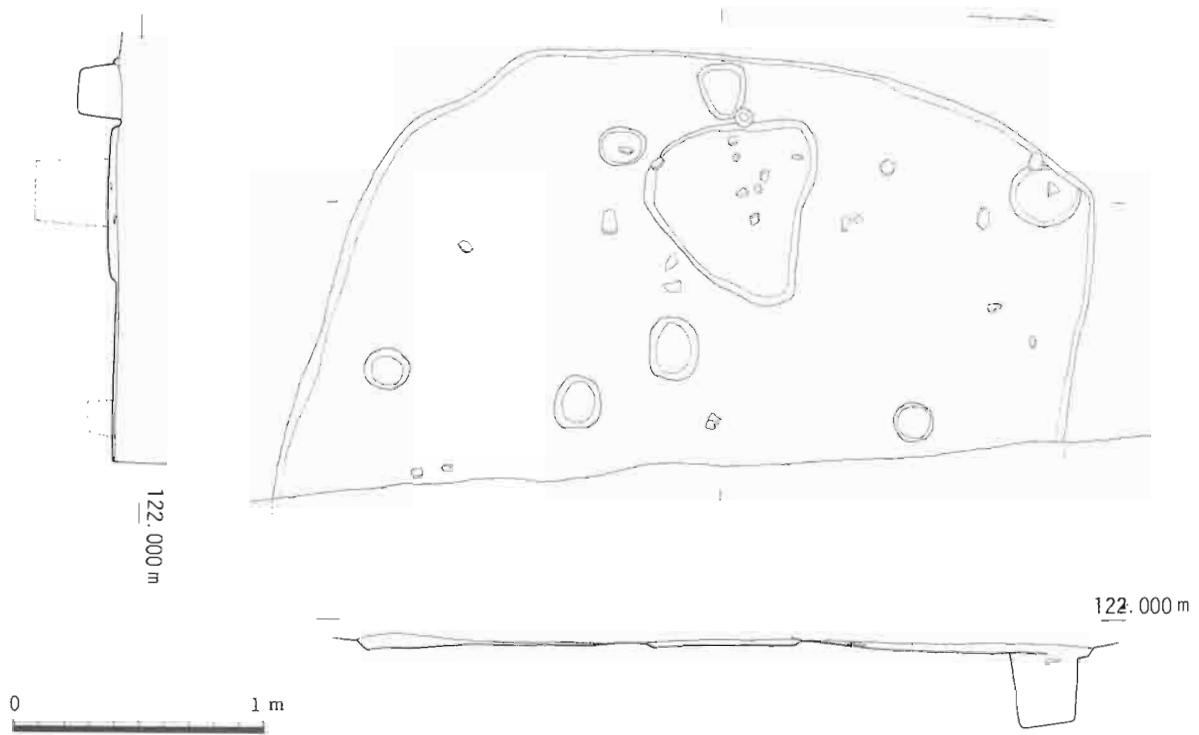
調査区東側で検出された。遺構は調査区外へ続く。長軸約0.8mを測る不定形のプランである。床面はほぼ平坦で、北側には柱穴状の掘り込みがみられる。平坦面までの深さは約35cmを測る。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

5号土坑出土土器(第52図・3表)

1～3は土師器である。1は高坏で、体部から口縁部にかけて内湾し、端部はわずかに外へ開く。体部には一段稜がつく。2は坏底部片である。3は甕で胴部から口縁部にかけてくの字に大きく外反し、胴部内面には横方向のヘラ削りがみられる。

6号土坑(第53図)

調査区東側で検出された。遺構は調査区外へ続く。南北軸約0.6mを測る不定形のプランである。床面は南に向かって幾分傾斜し、壁面は斜め方向に急角度で立ち上がる。床面までの深さは約30cm



第45図 IV区2号竪穴住居跡実測図(1/30)

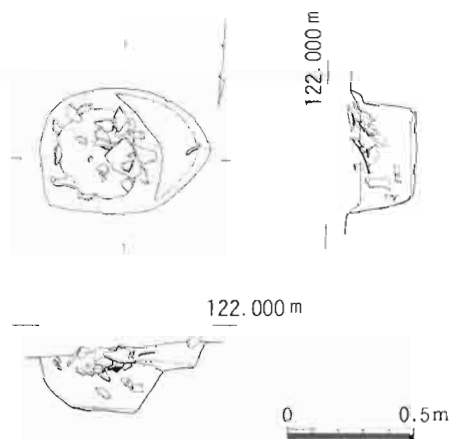
を測る。埋土は大きく2層に分かれ、下部は赤茶褐色で炭・焼土を含む。上層は南側にあつたとみられる浅い土坑の覆土と同じであり、上層と下層では遺物の時期が異なる。また下部の遺構は埋土の状況やプランより住居から張り出したカマドの一部の可能性もある。

6号土坑出土土器(第55図・3表)

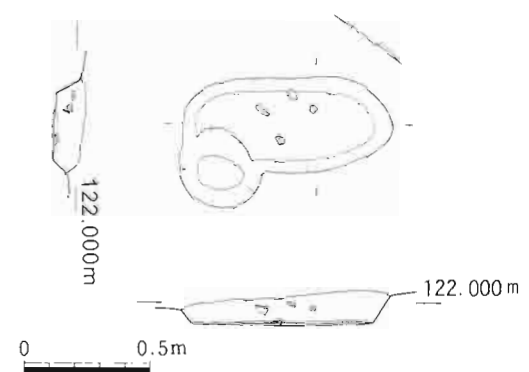
1は須恵器大甕の口縁部である。端部は斜め上方に張り出し、外面には波状沈線が1条入る。内外面にはタタキの痕跡が残る。2~4は上層から出土した土師質土器坏である。2はややレンズ状となる底部で、口縁部にかけて外反する。3は体部が内湾し口縁部はやや外反気味に開く。4はややレンズ状となる底部で、中心付近は上底状となる。2~4はいずれも回転ヘラ切りがみられる。

7号土坑(第54図)

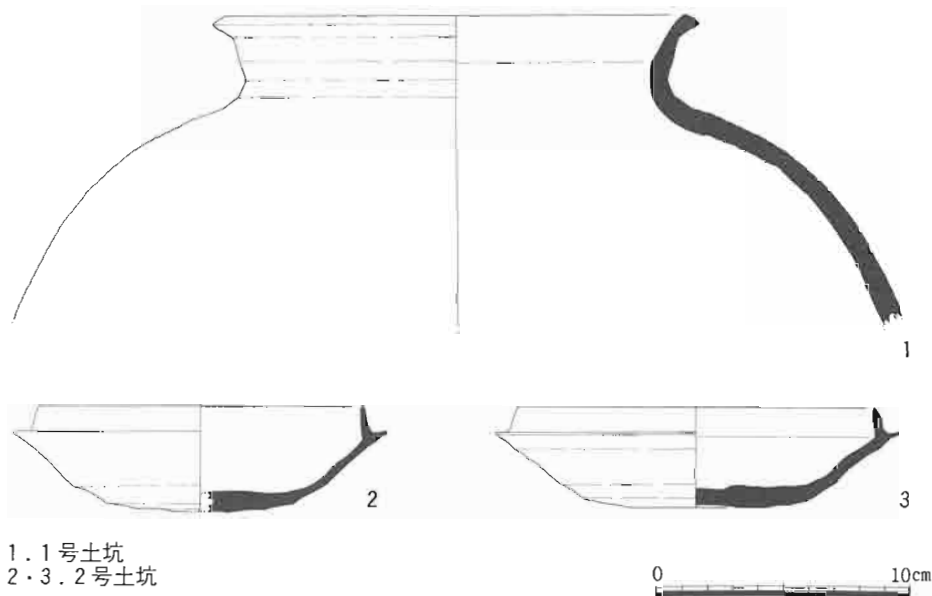
調査区東側で検出された。遺構は調査区外へ続く。南北軸約0.65mを測る不定形のプランである。床面は東に向かって幾分傾斜し、ほぼ垂直に立ち上がる。床面までの深さは約60cmを測る。埋土は6号土坑同様大きく2層に分かれる。上層は6号土坑で確認された覆



第46図 IV区1号土坑実測図(1/30)



第47図 IV区2号土坑実測図(1/30)



1. 1号土坑
2・3. 2号土坑

第48図 IV区1・2号土坑出土土器実測図(1/3)

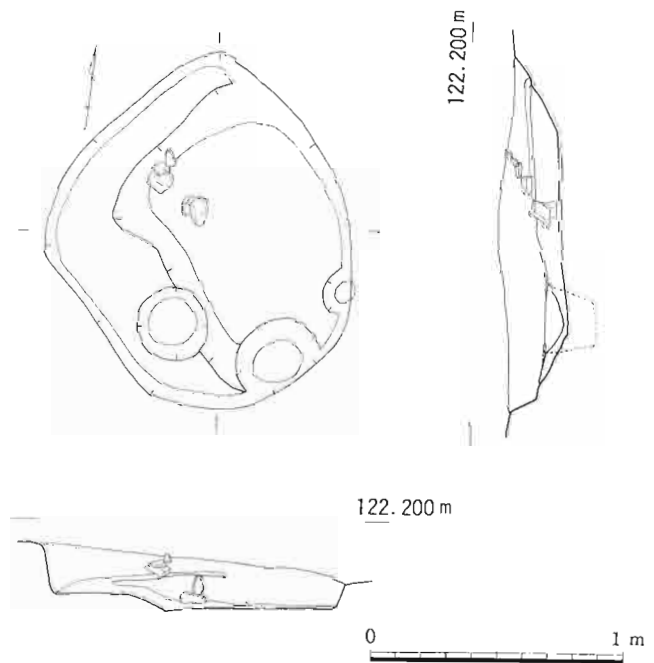
土と同様である。

7号土坑出土土器 (第56図・3表)

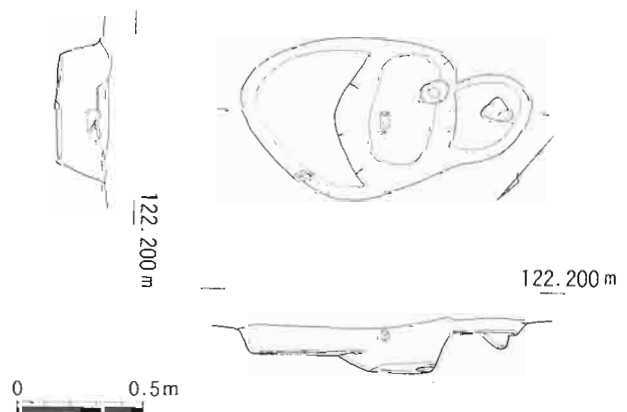
1～4は上層より出土した土師器坏である。1はややレンズ状となる底部で、口縁部にかけてやや外反する。2は底部が上底状となり、口縁部は外反する。3・4は底部である。3は上底状に、4はレンズ状となる。1～4はいずれも回転ヘラ切りがみられる。5・6は土師器甕である。5は短く厚みのある口縁部で胴部は外面ハケ、内面ヘラ削りがみられる。6は胴部から口縁部にかけてくの字に外反する。7は甕である。口縁部はラッパ状に開く。胴部内面はヘラ削りがみられる。

8号土坑 (第57図)

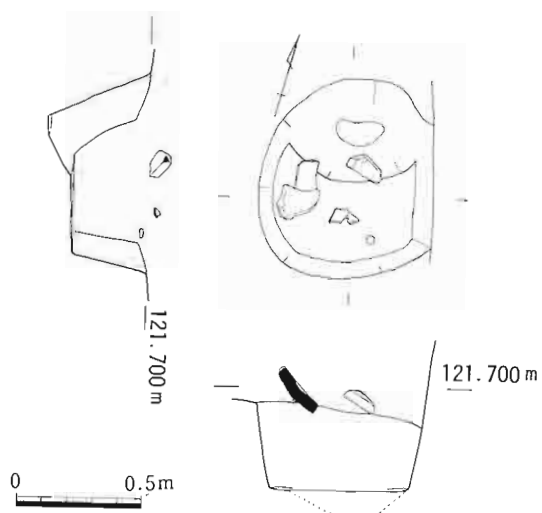
調査区北側で検出された。遺構は調査区外へ続く。南北軸約1.2mを測る不定形のプランである。深さは約15cmを測る。床面はほぼ平坦で、遺構の南よりに溝状の穴がみられる。壁面は斜め方向にほぼ垂直に立ち上がる。



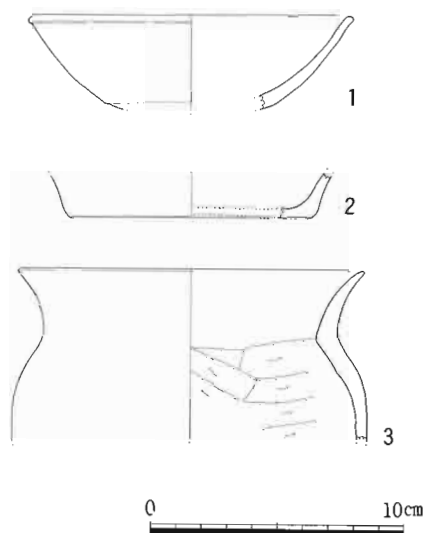
第49図 IV区3号土坑実測図(1/30)



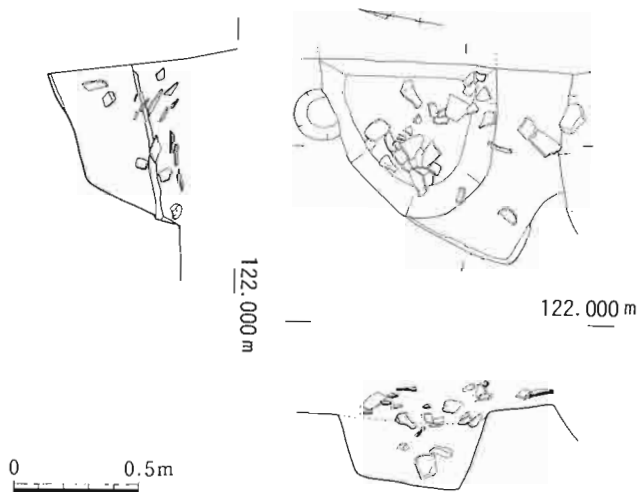
第50図 IV区4号土坑実測図(1/30)



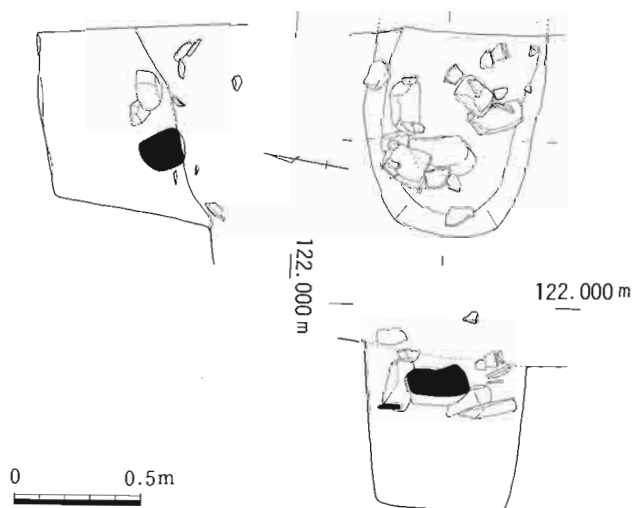
第51图 IV区5号土坑实测图(1/30)



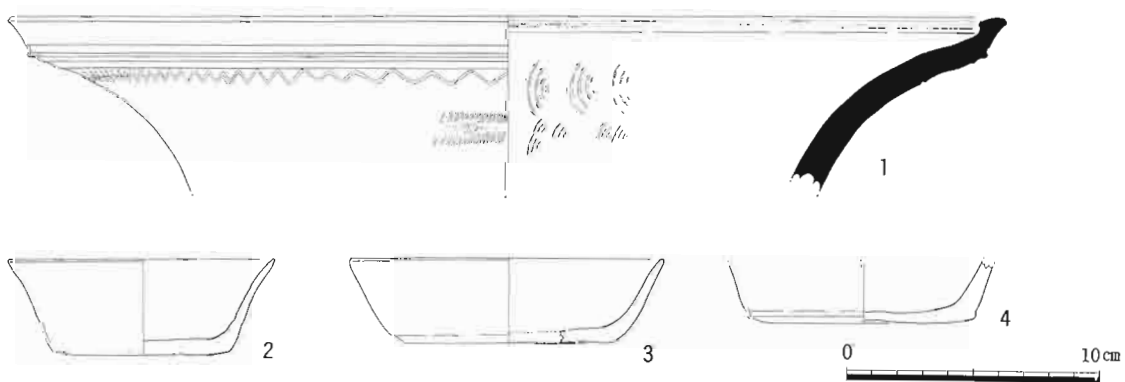
第52图 IV区5号土坑出土土器实测图(1/3)



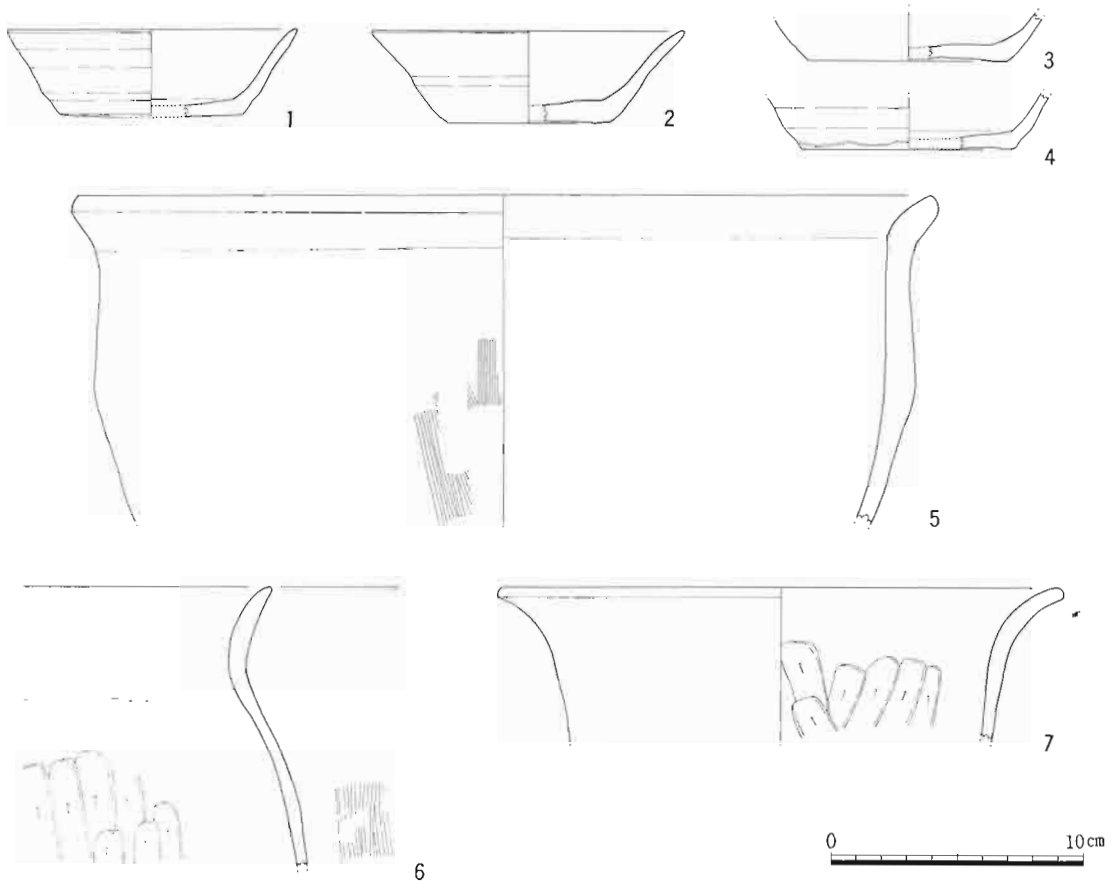
第53图 IV区6号土坑实测图(1/30)



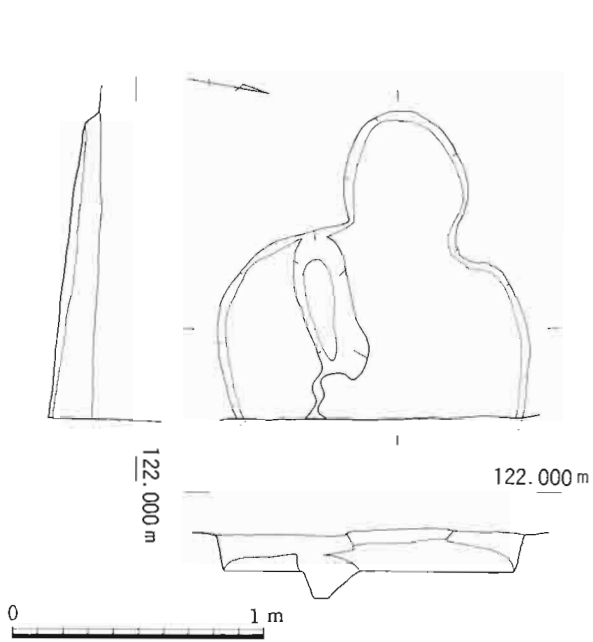
第54图 IV区7号土坑实测图(1/30)



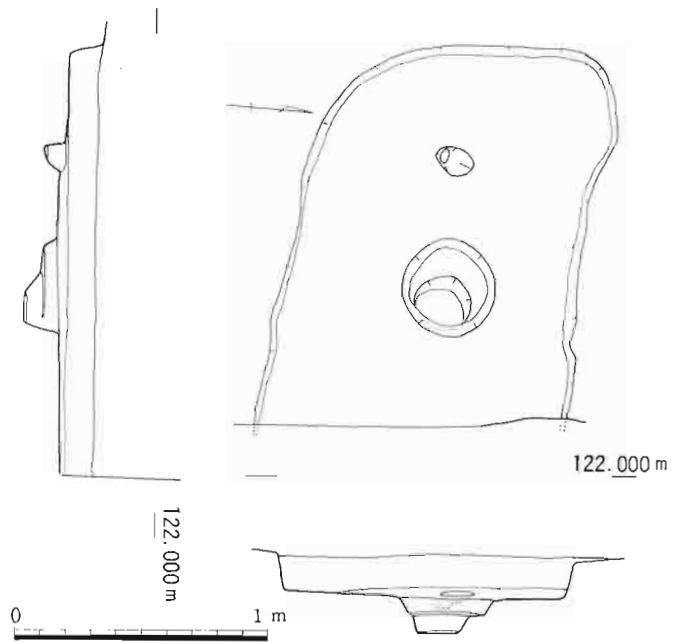
第55图 IV区6号土坑出土土器实测图(1/3)



第56图 IV区7号土坑出土土器实测图(1/3)



第57图 IV区8号土坑实测图(1/30)



第58图 IV区9号土坑实测图(1/30)

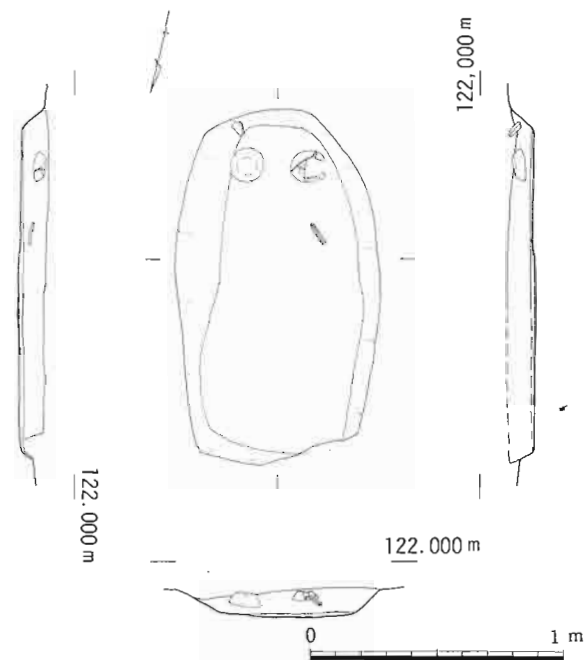
9号土坑 (第58図)

調査区北東側で検出された。遺構は調査区外へ続く。南北軸約1.2mを測る隅丸長方形のプランである。深さは約15cmを測る。床面はほぼ平坦で、遺構の中央とその西側に柱穴がみられる。遺構からの遺物の出土はなかった。

(3) 墓

1号墓 (第59図)

調査区南側で検出され、2号墓を切る。主軸を南北方向に向け、長軸約1.4m、短軸約0.8mを測り、検出面南側はコーナーを丸く収め、北側は直線的となり、全体的には中央付近に最大径をとる不定形プランである。深さは約10cmを測る。床面はほぼ平坦で壁面は斜め方向に緩やかに立ち上がる。遺物は南側コーナー付近に土師器坏が1つづつそれぞれ底を上にして平行に置かれ、中心よりやや西側には毛抜きとみられる鉄製品が1点出土した。



第59図 IV区1号墓実測図(1/30)

1号墓出土土器 (第61図・3表)

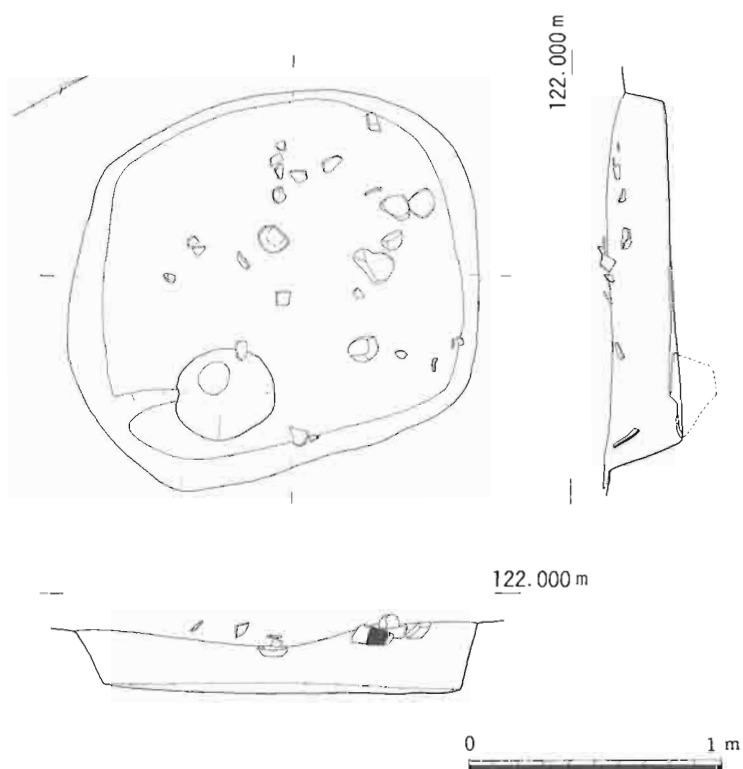
5は土師質土器坏である。底部はレンズ底状となり、体部から口縁部に向かって内湾気味に伸びる。体部内面に一段稜を有する。底部外面はヘラによる切り離しがみられる。7も5と同様底部はレンズ底状となり、体部から口縁部に向かって内湾気味に伸びる。底部外面はヘラによる切り離しがみられる。

1号墓出土鉄器 (第62図・4表)

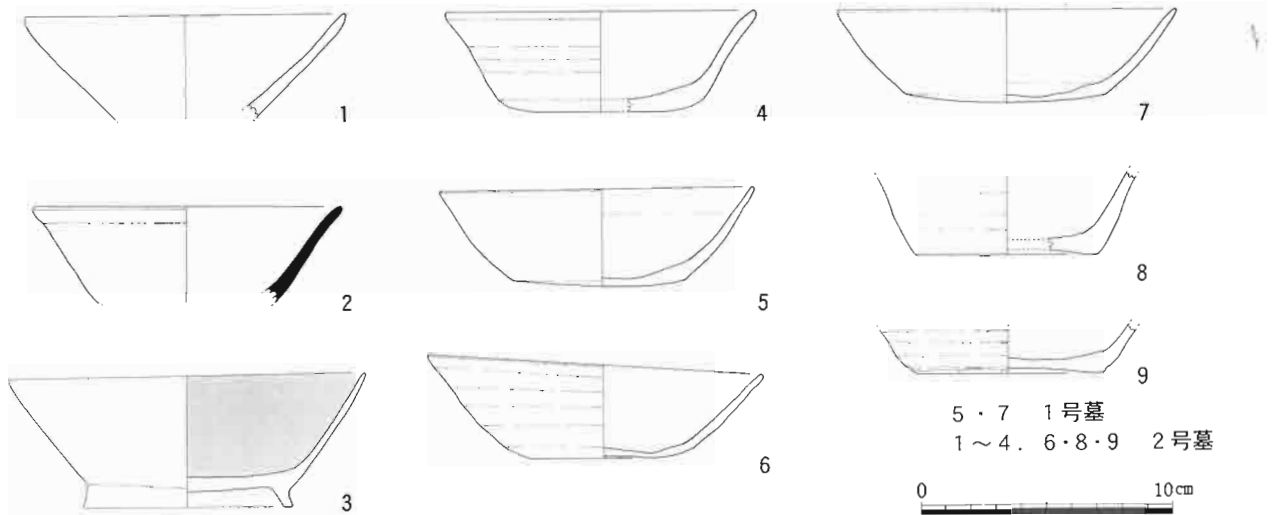
1は毛抜きである。先端部を欠損する。残存長約8.5cm、最大幅約2.2cmを測る。

2号墓 (第60図)

調査区南側で検出され、1号墓に切られる。主軸を南北方向に向け、長軸約1.6m、短軸約0.8mを測るほぼ隅丸方形

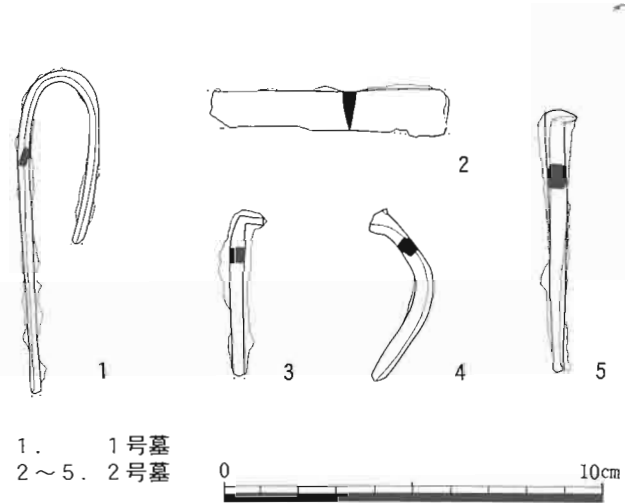


第60図 IV区2号墓実測図(1/30)



第61図 IV区1・2号墓出土土器実測図(1/3)

のプランである。深さは約25cmを測るが、土層の観察状況から層位は大きく2層に分かれる。上層は炭を多量に含み、出土遺物のほとんどはこの層の覆土からのものである。コーナー付近からは鉄釘が出土していることから木棺墓と考えられる。土器は中心より西側にまとまって出土した。下層は暗褐色の粘質土で、木棺を埋める前の整地土の可能性はある。



第62図 IV区1・2号墓出土鉄器実測図(1/2)

2号墓出土土器 (第61図・3表)

1は越州系青磁椀である。体部は口縁端部から底部へ向かってほぼ直線的に伸びる。先端部は尖っている。2は、須恵器坏である。体部から口縁端部に向かってやや外反気味に伸びる。3は黒色土器で、俗にいう内黒土器である。底部はほぼ平坦となり、高台は外に開く。高台から体部にかけては一気に立ち上げる。体部は全体に細く、口縁部に向かってやや内湾気味に伸びる。4・6・8・9は土師器坏である。4は底部はややレンズ底状に丸みをもち、体部から口縁部に向かって外反気味に伸びる。底部はヘラによる切り離しがみられる。6は底部が上底状となる。体部から口縁部に向かって内湾気味に伸びる。底部には板状痕跡が残る。8は底部から体部にかけての破片で、底部は上底状となる。9は8と同様である。

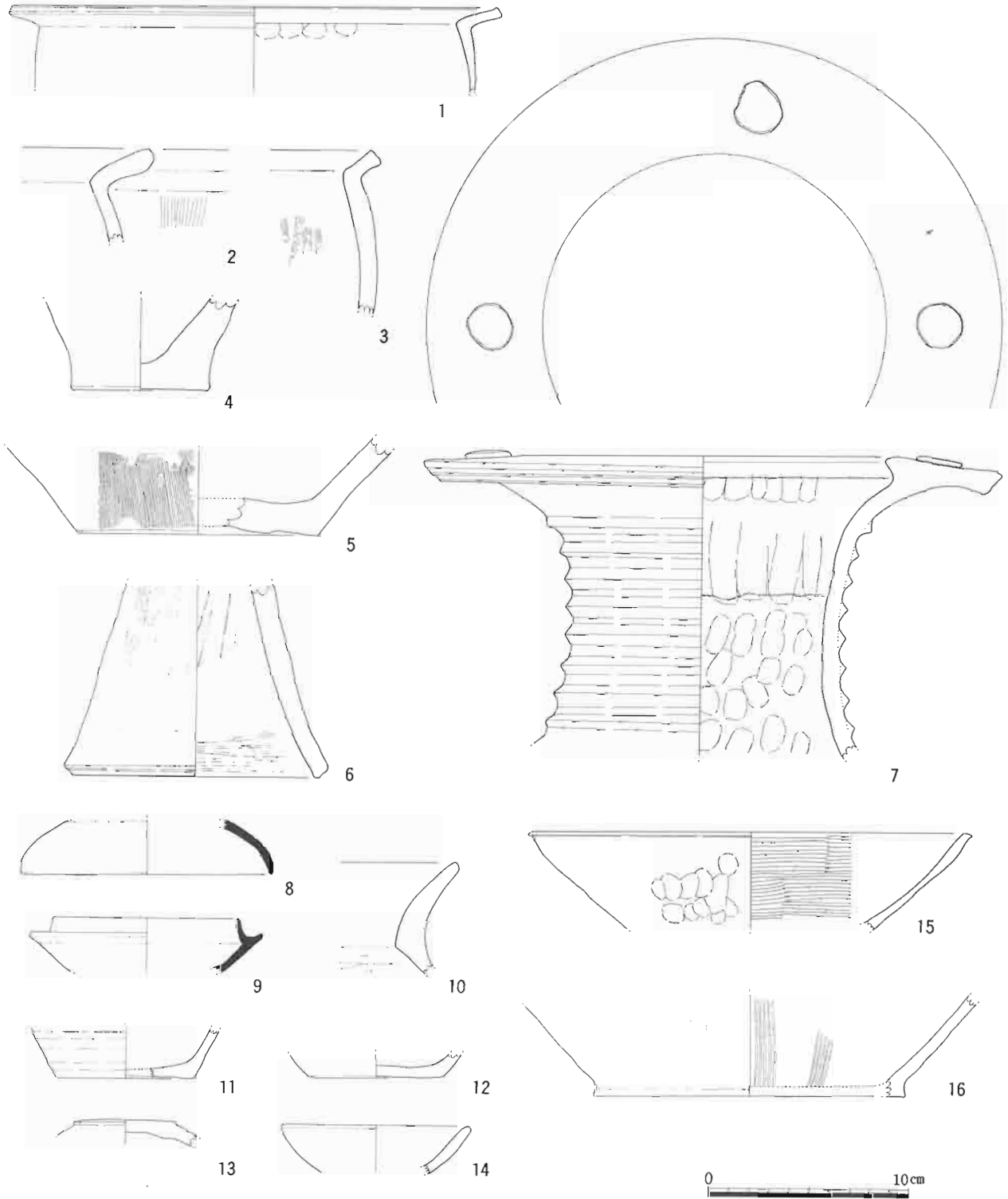
2号墓出土鉄器 (第62図・4表)

2は刀子である。残存長6.2cm、幅は最大で1.2cmを測る。3～5は鉄釘である。いずれも先端部は楔状に折り曲げ平坦にしている。3は残存長4.2cm、4は残存長4.2cm、5は残存長6.8cmを測る。

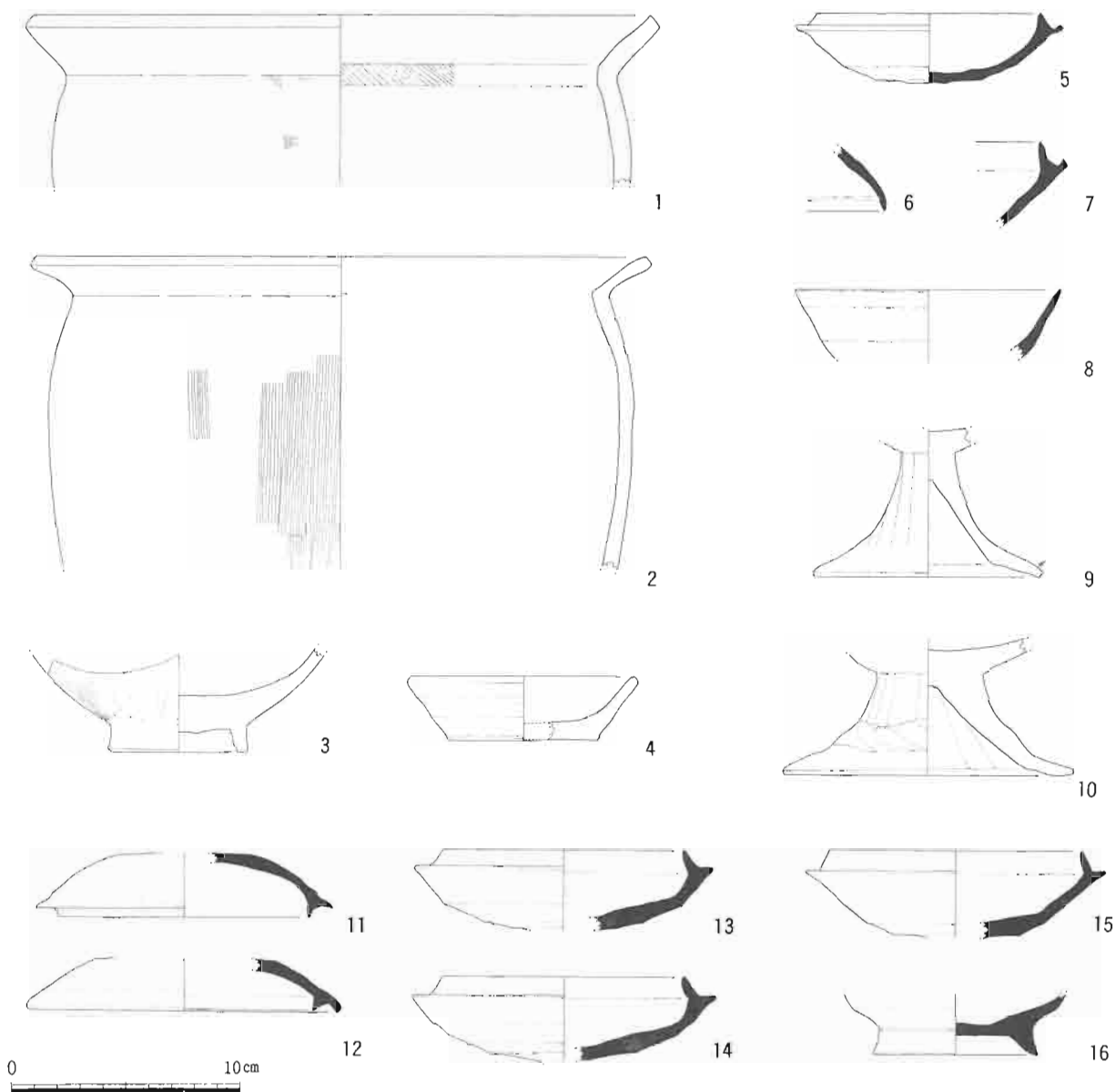
6. その他の遺物

(1) II・IV区柱穴出土土器 (第63図・5表)

II・IV区からは多数の柱穴群が検出された。これらから出土した土器の主なものについて説明を加える。なお、9・12以外はすべてII区出土である。1～7は弥生土器である。1～5は甕で1～3は口縁部、4・5は底部である。いずれも口縁部は俗にいう跳上状口縁で、底部は平底である。



第63図 II・IV区柱穴出土土器実測図(1/3)

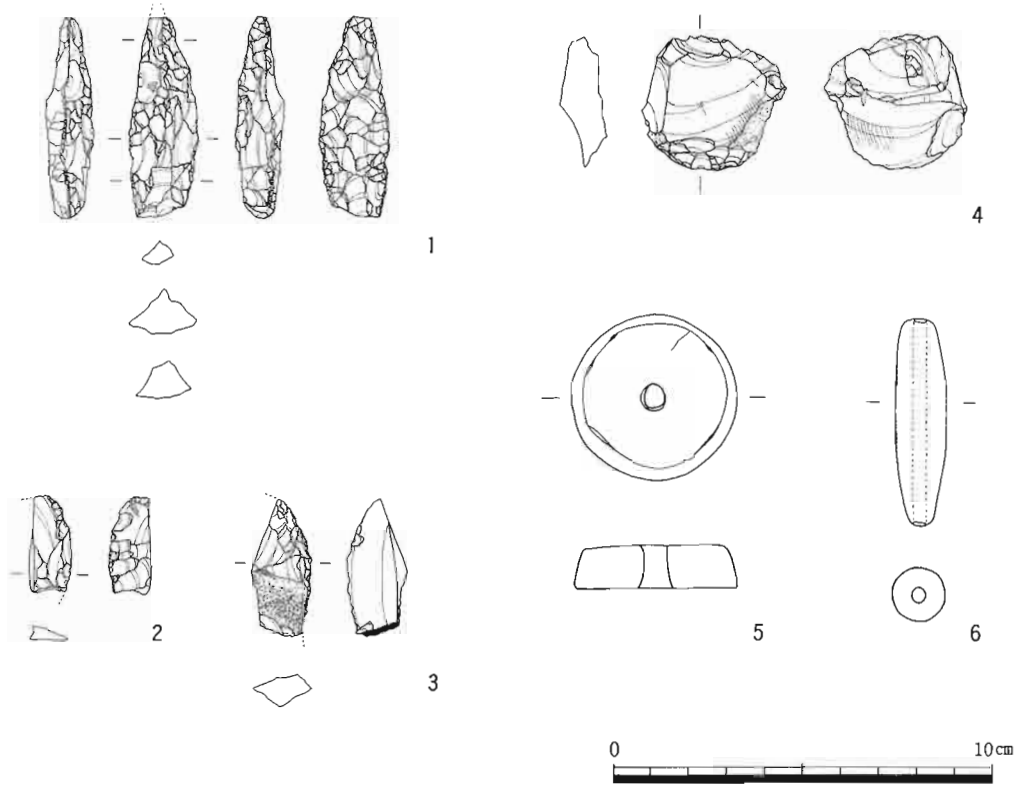


第64図 II・IV区出土土器実測図(1/3)

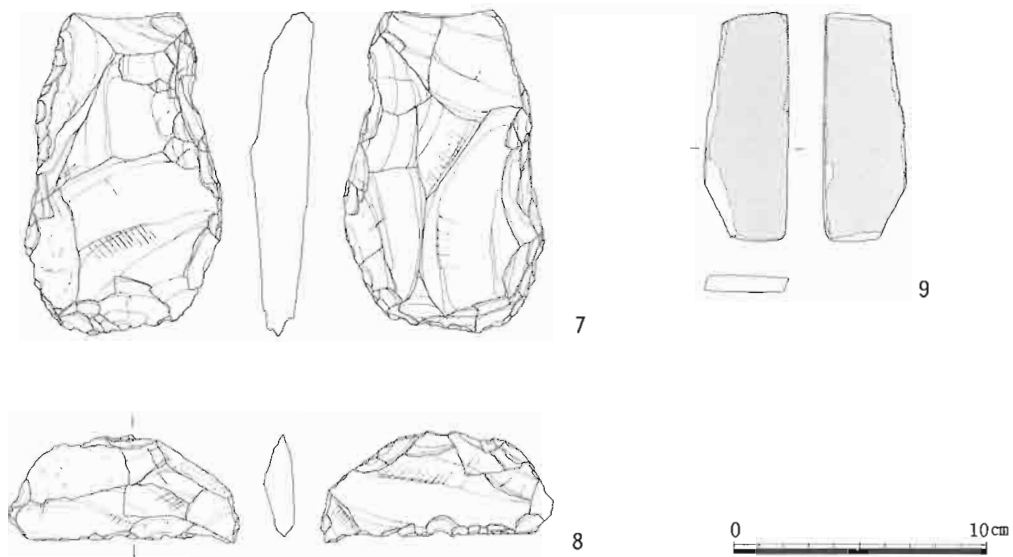
6は器台で脚部はやや裾開きとなる。7は豊前系の壺で、口縁部は鋤先状となり、頸部には8つの突帯が貼付される。また口縁平坦部には円形の浮文が貼付される。8・9は古墳時代後期の須恵器坏蓋・身である。10は土師器甕である。11・12は古代の土師器坏で底部はヘラ切り離しがみられる。14～16は中世で14は土師質土器小皿口縁部である。15・16は瓦質土器である。15は椀、16は摺鉢である。16は内面に5本の摺目がみられる。13は近世の土師質土器の蓋である。天井部はややレンズ底状となり、糸切り痕がみられる。

(2) II・IV区出土土器 (第64図・第6表)

II・IV区からは包含層などから土器がまとまって出土した。このうち一部を図示し説明を加える。1～10はII区、11～16はIV区出土である。1・2は弥生時代の甕である。5～7、11～15は古墳時代の須恵器坏、9・10は古墳時代の高坏脚部、8・16は律令時代の須恵器坏である。3・4は中世で、3は蓮弁文青磁椀、4は土師質土器坏で底部に糸切り痕がみられる。



第65図 II・IV区出土石器等実測図(1/2)



第66図 II・IV区出土石器実測図(1/3)

3. II・IV区出土石器・土製品 (第65・66図・7表)

1は三稜尖頭器で旧石器時代後期の所産である。2号土壙墓覆土中から出土した。2・3は2次加工剥片、4はエンドスクレイパー、7は打製石斧、8は石鎌、9は砥石である。このうち1・4はIV区、これ以外はII区出土である。また、5は1号竪穴式住居出土の紡錘車、6は23号土坑から出土した土錘である。

第1表 I区遺構出土土器観察表

挿図 番号	遺物 番号	遺構名	器種	種類	法量(㎝) ①口径 ②器高 ③底径	調整	色調	胎土
第5図	1	1号竪穴遺構	壺蓋	須恵器	—	外面回転ヘラ削り	青灰色	石英
第5図	2	1号竪穴遺構	甕	土師器	—	内面ヘラ削り	茶褐色	石英・角閃石・長石
第5図	3	1号竪穴遺構	甕	土師器	—	内面ヘラ削り	茶褐色	石英・角閃石・長石
第5図	4	1号竪穴遺構	甕	土師器	—	内面ヘラ削り	茶褐色	石英・角閃石・長石

第2表 II区遺構出土土器観察表

挿図 番号	遺物 番号	遺構名	器種	種類	法量(㎝) ①口径 ②器高 ③底径	調整	色調	胎土
第8図	1	1号竪穴住居	坏蓋	須恵器	①13.6	外面回転ヘラ削り	淡青灰色	石英・長石
第8図	2	1号竪穴住居	坏蓋	須恵器	①13.6	外面回転ヘラ削り	暗青灰色	石英
第8図	3	1号竪穴住居	坏蓋	須恵器	①13.8②3.2	外面ヘラ切り未調整	淡灰色	石英・角閃石
第8図	4	1号竪穴住居	坏身	須恵器	① 9.0	外面回転ヘラ削り	青灰色	石英・白色粒
第8図	5	1号竪穴住居	坏身	須恵器	①10.4②3.8	外面回転ヘラ削り	青灰色	石英・白色粒
第8図	6	1号竪穴住居	坏身	須恵器	①12.8	外面回転ヘラ削り	黄灰色	石英・角閃石・長石・赤色粒
第8図	7	1号竪穴住居	坏蓋	須恵器	①14.4	外面回転ヘラ削り	暗青灰色	石英・白色粒
第8図	8	1号竪穴住居	鉢	須恵器	①10.0	内外面回転横ナデ	淡灰色	石英・白色粒
第8図	9	1号竪穴住居	提瓶	須恵器	① 9.5	内外面回転横ナデ	淡灰色	石英
第8図	10	1号竪穴住居	平瓶	須恵器	①14.0	内外面回転横ナデ	淡青灰色	石英・白色粒
第8図	11	1号竪穴住居	提瓶	須恵器	—	内外面回転横ナデ	黄灰色	石英
第8図	12	1号竪穴住居	甕	土師器	①14.4	内面ヘラ削り	茶褐色	石英・角閃石・長石
第8図	13	1号竪穴住居	甕	土師器	①16.4	内面ヘラ削り	茶褐色	石英・角閃石・長石
第8図	14	1号竪穴住居	甕	土師器	①20.2	内面ヘラ削り	淡黄褐色	石英・角閃石・長石・赤色粒
第8図	15	1号竪穴住居	壺	土師器	①11.2	外面ナデ	茶褐色	石英・角閃石・長石
第8図	16	1号竪穴住居	椀	土師器	①14.0	外面回転横ナデ	燈褐色	石英
第8図	17	1号竪穴住居	高坏	土師器	①13.8②8.2③11.0	内外面ナデ	茶褐色	石英・角閃石
第8図	18	1号竪穴住居	盤	土師器	①34.0	内外面ナデ	淡茶灰色	石英・雲母
第10図	1	2号竪穴住居	鉢	須恵器	① 7.4	内外面回転横ナデ	青灰色	石英
第10図	2	2号竪穴住居	鉢	須恵器	①12.0	内外面回転横ナデ	暗青灰色	石英・白色粒
第10図	3	2号竪穴住居	甕	土師器	①19.0	内面ヘラ削り	茶褐色	石英・角閃石・長石
第16図	1	1号堀立柱建物	坏身	須恵器	—	回転横ナデ	淡灰色	石英・黒色炭化物
第16図	2	1号堀立柱建物	坏身	須恵器	—	外面ヘラ切り未調整	淡青灰色	石英・長石
第16図	3	1号堀立柱建物	甕	土師器	—	内面ヘラ削り	暗茶褐色	石英・角閃石・長石
第16図	4	2号堀立柱建物	高坏	土師器	—	外面ハケ	黄茶褐色	石英・赤色粒
第16図	5	3号堀立柱建物	甕	土師器	—	内面ヘラ削り	淡茶褐色	石英・角閃石・長石

挿図 番号	遺物 番号	遺構名	器種	種類	法量(㎝) ①口径 ②器高 ③底径	調整	色調	胎土
第16図	6	4号掘立柱建物	甕	土師器	—	横ナデ	燈褐色	石英・雲母
第16図	7	5号掘立柱建物	甕	弥生土器	—	ナデ	淡黄褐色	石英・角閃石・長石
第16図	8	5号掘立柱建物	甕	弥生土器	① 5.2	ナデ	淡黒褐色	石英・角閃石・長石
第17図	1	2号建物付属溝	坏蓋	須恵器	—	回転横ナデ	淡褐色	石英・角閃石・長石
第17図	2	2号建物付属溝	坏蓋	須恵器	①14.4② 2.5	外面回転ヘラ削り	青灰色	石英・白色粒
第17図	3	2号建物付属溝	提瓶	須恵器	①12.0	外面ナデ	青灰色	石英・白色粒
第19図	1	1号溝	坏蓋	須恵器	① 9.2	外面回転ヘラ削り	紫褐色	石英・白色粒
第19図	2	1号溝	坏蓋	須恵器	①11.4	外面ナデ	茶灰色	石英・角閃石・黒色粒
第19図	3	1号溝	坏蓋	須恵器	—	回転横ナデ	暗青灰色	石英・白色粒
第19図	4	1号溝	坏蓋	須恵器	—	外面回転ヘラ削り	暗青灰色	石英
第19図	5	1号溝	坏身	須恵器	① 8.0	外面回転横ナデ	暗青灰色	石英・黒色粒
第19図	6	1号溝	坏身	須恵器	①10.8	外面回転ヘラ削り	淡青灰色	石英
第19図	7	1号溝	罎	須恵器	—	内外面回転横ナデ	暗灰色	石英
第24図	1	1号土坑	甕	土師器	—	内面ヘラ削り	淡褐色	石英・角閃石・長石
第24図	2	5号土坑	甕	土師器	—	内面ヘラ削り	淡茶褐色	石英・角閃石・長石
第24図	3	2号土坑	坏蓋	須恵器	①12.8	外面回転ヘラ削り	暗青灰色	石英
第24図	4	2号土坑	坏蓋	須恵器	①13.0	外面回転ヘラ削り	暗青灰色	石英
第24図	5	2号土坑	坏蓋	須恵器	①14.4	外面回転ヘラ削り	暗青灰色	石英・黒色炭化物
第24図	6	2号土坑	坏蓋	土師器	①13.4	内外面ナデ	淡茶灰色	石英・角閃石
第24図	7	2号土坑	甕	土師器	①16.6	内面ヘラ削り	淡褐色	石英・角閃石・長石・赤色粒
第24図	8	2号土坑	甕	土師器	①17.0	内面削り	淡茶褐色	石英・角閃石・長石
第24図	9	4号土坑	坏蓋	須恵器	①16.2	内外面回転横ナデ	青灰色	石英・白色粒・黒色粒
第24図	10	4号土坑	坏身	須恵器	①15.2② 9.0	内外面回転横ナデ	紫褐色	石英・黒色粒
第24図	11	4号土坑	坏身	須恵器	①15.2② 9.0	内外面回転横ナデ	紫褐色	石英・黒色粒
第27図	1	8号土坑	甕	土師器	①13.6	内面ヘラ削り	淡茶褐色	石英・角閃石・長石
第27図	2	8号土坑	甕	土師器	—	内面ヘラ削り	燈褐色	石英・角閃石・長石
第34図	1	17号土坑	坏蓋	須恵器	①10.0	外面回転ヘラ削り	淡茶色	石英・白色粒
第34図	2	17号土坑	坏蓋	須恵器	①12.2	外面回転ヘラ削り	青灰色	石英・白色粒
第34図	3	17号土坑	坏身	須恵器	① 8.0	内外面回転横ナデ	淡青灰色	石英・黒色粒
第34図	4	17号土坑	坏身	須恵器	—	内外面回転横ナデ	暗黒灰色	石英・白色粒
第34図	5	17号土坑	甕	土師器	①26.4	外面ハケ・内面ヘラ削り	淡茶褐色	石英・角閃石・長石
第34図	6	17号土坑	甕	土師器	—	内面ヘラ削り	淡褐色	石英・角閃石・長石
第34図	7	17号土坑	椀	土師器	①14.6② 3.0	内外面ナデ	淡燈褐色	石英・雲母
第38図	1	22号土坑	坏蓋	須恵器	①13.2	内外面回転横ナデ	青灰色	石英・長石
第38図	2	22号土坑	甕	土師器	①22.8	内面ヘラ削り	淡黄灰色	石英・角閃石・長石

第3表 IV区遺構出土土器観察表

挿 番 号	遺 物 番 号	遺 構 名	器 種	種 類	法 量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径	調 整	色 調	胎 土
第44図	1	1号竪穴住居	甕	土師器	①20.0	内面ヘラ削り	淡茶褐色	石英・角閃石・長石
第44図	2	1号竪穴住居	甕	土師器	—	内面ヘラ削り	淡茶褐色	石英・角閃石・長石
第44図	3	1号竪穴住居	高坏	土師器	—	内面ヘラ削り	暗茶褐色	石英・角閃石・長石
第48図	1	1号土坑	甕	須恵器	①19.2	内外面タタキ	暗灰色	石英・角閃石・黒色粒
第48図	2	2号土坑	坏身	須恵器	①13.0	外面回転ヘラ削り	明灰褐色	石英・角閃石・長石
第48図	3	2号土坑	坏身	須恵器	①14.0②4.0	外面ヘラ切り未調整	灰褐色	石英・白色粒
第52図	1	5号土坑	高坏	土師器	①12.8	外面横ナデ	淡褐色	石英・長石
第52図	2	5号土坑	坏	土師器	① 9.6	底面ヘラ切り離し	燈褐色	石英・角閃石・赤色粒
第52図	3	5号土坑	甕	土師器	①13.6	内面ヘラ削り	淡黒褐色	石英・角閃石・長石・赤色粒
第55図	1	6号土坑	甕	須恵器	①39.6	内外面タタキ	暗茶灰色	石英・白色粒
第55図	2	6号土坑	坏	土師器	①10.8②3.8③7.1	底面ヘラ切り離し	赤褐色	石英・角閃石・長石
第55図	3	6号土坑	坏	土師器	①12.4②3.4③8.5	底面ヘラ切り離し	赤褐色	石英・角閃石・長石
第55図	4	6号土坑	坏	土師器	③ 9.0	底面ヘラ切り離し	黄茶褐色	石英・角閃石・長石・赤色粒
第56図	1	7号土坑	坏	土師器	①11.4②3.7③7.4	底面ヘラ切り離し	赤褐色	石英・角閃石・長石
第56図	2	7号土坑	坏	土師器	①12.4②3.5③6.4	底面ヘラ切り離し	赤褐色	石英・角閃石・長石
第56図	3	7号土坑	坏	土師器	③ 7.8	底面ヘラ切り離し	赤褐色	石英・角閃石・長石・赤色粒
第56図	4	7号土坑	坏	土師器	③ 8.6	底面ヘラ切り離し	黄茶褐色	石英・角閃石・赤色粒
第56図	5	7号土坑	甕	土師器	①34.0	外面ハケ・内面ヘラ削り	暗茶褐色	石英・角閃石・長石
第56図	6	7号土坑	甕	土師器	—	外面ハケ・内面ヘラ削り	暗褐色	石英・角閃石・長石
第56図	7	7号土坑	甕	土師器	①22.4	内面ヘラ削り	暗褐色	石英・角閃石・長石
第61図	1	2号土坑墓	椀	青磁	①12.8	—	緑灰色	—
第61図	2	2号土坑墓	坏	須恵器	①12.4	内外面回転横ナデ	淡灰茶色	石英・角閃石・長石
第61図	3	2号土坑墓	椀	黒色土器	①14.2②5.3③8.3	内外面横ナデ	外面黄褐色	石英・角閃石・長石・赤色粒
第61図	4	2号土坑墓	坏	土師器	①12.2②4.0③8.0	底面ヘラ切り離し	赤茶色	石英・角閃石・長石
第61図	5	1号土坑墓	坏	土師器	①12.5②4.0③7.0	底面ヘラ切り離し	赤茶色	石英・角閃石・長石
第61図	6	2号土坑墓	坏	土師器	①13.4②4.2③5.5	底面ヘラ切り離し	淡茶褐色	石英・角閃石・長石・赤色粒
第61図	7	1号土坑墓	坏	土師器	①13.4②3.4③7.8	底面ヘラ切り離し	赤茶色	石英・角閃石・長石
第61図	8	2号土坑墓	坏	土師器	① 7.7	底面ヘラ切り離し	黄茶褐色	石英・角閃石・長石
第61図	9	2号土坑墓	坏	土師器	① 7.7	底面ヘラ切り離し	黄茶褐色	石英・角閃石・長石

第4表 IV区出土鉄器観察表

挿図 番号	遺物 番号	遺構名	種 類	法量 (cm)			備 考
				①口径	②器高	③底径	
第62図	1	1号土壙墓	毛 抜 き	① 8.5	② 2.2	③ 0.2	先 端 部 欠 損
第62図	2	2号土壙墓	刀 子	① 6.2	② 1.2	③ 0.3	先 端 ・ 基 部 欠 損
第62図	3	2号土壙墓	釘	① 4.1	② 0.6	③ 0.4	先 端 部 欠 損
第62図	4	2号土壙墓	釘	① 4.2	② 0.7	③ 0.4	完 形
第62図	5	2号土壙墓	釘	① 6.8	② 0.9	③ 0.7	完 形

第5表 II・IV区柱穴出土土器観察表

挿図 番号	遺物 番号	遺構番号	器種	種 類	法量(cm) ①口径 ②器高 ③底径	調 整	色 調	胎 土
第63図	1	II区P195	甕	弥生土器	①24.6	外 面 ハ ケ	淡黒灰色	石英・角閃石・長石
第63図	2	II区P195	甕	弥生土器	—	内 面 ハ ケ	淡黄褐色	石英・角閃石・長石
第63図	3	II区P195	甕	弥生土器	—	外 面 ハ ケ	淡茶褐色	石英・角閃石・長石
第63図	4	II区P135	甕	弥生土器	③ 7.0	ナ デ	淡 褐 色	石英・角閃石・長石
第63図	5	II区P191	甕	弥生土器	③12.0	外 面 ハ ケ	黄 灰 色	石英・角閃石・長石
第63図	6	II区P201	器台	弥生土器	③13.2	内 外 面 ハ ケ	淡茶褐色	石英・角閃石・長石
第63図	7	II区P201	壺	弥生土器	①29.8	内 面 指 圧 痕	淡茶褐色	石英・角閃石・長石
第63図	8	II区P88	坏蓋	須恵器	①12.6	内 外 面 ナ デ	淡茶褐色	淡茶褐色 石英・角閃石・赤色粒
第63図	9	IV区P20	坏身	須恵器	① 9.4	外面回転ヘラ削り	淡青灰色	石英
第63図	10	II区P163	甕	土師器	—	内 面 ヘ ラ 削 り	淡茶褐色	石英・角閃石・長石
第63図	11	II区P136	坏	土師器	③ 6.8	底部ヘラ切り離し	燈 褐 色	石英・角閃石・赤色粒
第63図	12	IV区P26	坏	土師器	③ 6.7	底部ヘラ切り離し	燈 褐 色	石英・角閃石・赤色粒
第63図	13	II区P51	坏蓋	土師質土器	① 4.9	外 面 糸 切 り	淡茶褐色	石英・角閃石・赤色粒
第63図	14	II区P54	坏	土師質土器	① 9.4	内外面回転横ナデ	赤 褐 色	石英・角閃石・長石
第63図	15	II区P53	椀	瓦質土器	①22.1	外面指頭圧痕・内面ハケ	淡茶灰色	石英・角閃石・長石
第63図	16	II区P53	摺鉢	瓦質土器	③15.4	外面ハケ・内面5本摺目	暗 灰 色	石英・角閃石・長石

第6表 II・IV区出土土器観察表

挿図 番号	遺物 番号	地区遺構名	器種	種 類	法量(cm) ①口径 ②器高 ③底径	調 整	色 調	胎 土
第64図	1	II区包含層	甕	弥生土器	①26.2	外面ハケ・内面ナデ	淡 褐 色	石英・角閃石・長石
第64図	2	II区包含層	甕	弥生土器	①27.0	外面ハケ・内面ナデ	明茶褐色	石英・角閃石・長石
第64図	3	II区表採	椀	青 磁	③ 6.1	外 面 蓮 弁 文	緑 灰 色	
第64図	4	II区攪乱坑	坏	土師質土器	①10.0②2.7③6.6	内外面ナデ底面糸切り	燈 褐 色	石英・角閃石・長石・赤色粒
第64図	5	II区攪乱坑	坏身	須恵器	① 9.7②3.0	外面回転ヘラ削り	黄 灰 色	石英

挿図 番号	遺物 番号	地区遺構名	器種	種類	法量(cm) ①口径 ②器高 ③底径	調整	色調	胎土
第64図	6	Ⅱ区攪乱坑	坏蓋	須恵器	—	回 転 ナ デ	暗青灰色	石英
第64図	7	Ⅱ区表採	坏身	須恵器	—	外面回転ヘラ削り	淡青灰色	石英
第64図	8	Ⅱ区1号竪穴住	坏身	須恵器	①11.4	内外面回転横ナデ	淡青灰色	石英
第64図	9	Ⅱ区攪乱坑	高坏	土師器	③10.0	外 面 ヘ ラ 削 り	燈 褐 色	石英・角閃石
第64図	10	Ⅱ区攪乱坑	高坏	土師器	③12.6	外 面 ヘ ラ 削 り	燈 褐 色	石英・角閃石
第64図	11	Ⅳ区包含層	坏蓋	須恵器	①11.1	外面ヘラ切り未調整	暗灰褐色	石英・角閃石・長石
第64図	12	Ⅳ区包含層	坏蓋	須恵器	①11.4	外面回転ヘラ削り	青 灰 色	石英・白色粒・黒色粒
第64図	13	Ⅳ区包含層	坏身	須恵器	①10.4	外面回転ヘラ削り	白 灰 色	石英・白色粒・黒色粒
第64図	14	Ⅳ区包含層	坏身	須恵器	①10.8	外面回転ヘラ削り	淡青灰色	石英・白色粒
第64図	15	Ⅳ区包含層	坏身	須恵器	①11.0②2.8	外面ヘラ切り未調整	暗紫灰色	石英・白色粒
第64図	16	Ⅳ区包含層	坏身	須恵器	③ 7.2	内外面回転横ナデ	暗 灰 色	石英・長石

第7表 Ⅱ・Ⅳ区出土石器等観察表

挿図 番号	遺物 番号	地区名	遺 構 名	器 種	石 材	法量(cm) ①最大長 ②最大幅 ③最大厚	重 量 (g)	備 考
第65図	1	Ⅳ区	2号土壇墓	三稜尖頭器	黒耀石	① 5.2 ②1.8 ③ 1.25		
第65図	2	Ⅱ区	表 採	二次加工剥片	黒耀石	① 2.6 ②1.1 ③ 0.4		
第65図	3	Ⅱ区	P 1 4 0	二次加工剥片	黒耀石	① 3.5 ②1.55 ③ 0.7		
第65図	4	Ⅳ区	P 7	エンドスクレイパー	黒耀石	① 4.3 ②1.1		
第65図	5	Ⅱ区	1号竪穴住居	紡 錘 車	蛇紋岩	① 4.3 ②1.1		
第65図	6	Ⅱ区	23号土坑	土 錘	—	① 5.4 ②1.3		
第66図	7	Ⅱ区	表 採	打 製 石 斧	安山岩	①12.6 ②7.8 ③ 2.3		
第66図	8	Ⅱ区	1号竪穴住居	石 鎌	安山岩	① 4.1 ②9.1 ③ 1.3		
第66図	9	Ⅱ区	表 採	砥 石		① 9.0 ②3.2 ③ 0.9		

IV. まとめ

今回の馬形遺跡の発掘調査では旧石器時代の遺跡や、弥生・古墳時代さらには古代の遺構や遺物が発見された。ここでは各遺構の時期と残された問題点などを列挙しまとめとしたい。

まず、各遺構から出土した遺物から、大まかに以下の5時期に分けることが可能である。

〔Ⅰ期〕は、Ⅱ区5号掘立柱建物の柱穴から跳上状口縁を持つ甕の口縁部などが出土しており、その特徴から中期後半代に位置づけられる。

〔Ⅱ期〕は、Ⅱ区1号竪穴住居跡、1・3号掘立柱建物、1・2・5・22号土坑、Ⅳ区1号竪穴住居跡、1・2・5号土坑などが該当する。出土した須恵器の特徴は端部が短く、外面調整にヘラ削りとヘラ切り未調整がみられ、坏の蓋と身が逆転する前後の時期で6世紀後半～7世紀前半にあたる。

〔Ⅲ期〕は、Ⅱ区4・17号土坑、Ⅳ区6・7号土坑などである。須恵器の坏身には高台が付き、体部から口縁部にかけては大きく屈曲しながら伸びている。坏蓋はまだかえりを残している。これらの特徴は7世紀後半代に位置づけられている。

〔Ⅳ期〕は、Ⅰ区竪穴遺構、Ⅱ区2号竪穴住居跡、2号掘立柱建物などである。須恵器の坏蓋にはかえりが失われ、端部は嘴状となり、坏身は体部から口縁部にかけてはほぼ垂直方向に立ち上がることから8世紀前半代に位置づけられる。

〔Ⅴ期〕は、Ⅳ区1・2号墓が該当する。副葬されていた黒色土器の特徴や、須恵器や土師器の坏の器形がほぼ同様のプロポーションを持つこと、さらには越州窯系青磁が共伴することなどから9世紀中頃～後半代に位置づけられる。

次に各区より出土した遺構・遺物から問題の残るものについて検討を加える。

まず、Ⅱ区1号建物についてであるが、この建物の時期は古墳時代後期の須恵器が出土したことから〔Ⅱ期〕と考えた。ところが、遺物は破片で流れ込みの可能性もあり、また2号建物や4・17号土坑などとは主軸方向が同一であることから〔Ⅳ期〕の遺構と符号する可能性がある。つまり4・17号土坑に伴う場合にはこれらの土坑は1号建物を区画する溝と考えられ、さらに2号建物に伴う場合には官衙風配置的な施設ととらえることもできる。配置状況としては注目されるものであり、今後の課題である。

次にⅣ区の1・2号墓に関してであるが、1号墓には副葬品に土師器・鉄製毛抜き、また2号墓には黒色土器・須恵器・土師器・青磁片・刀子が伴う。この時期の墓の調査例に宮ノ本遺跡墳墓群や西千布遺跡6区土坑墓等がある。ここで注目されるのは副葬品の在り方である。狭川真一氏によればⅣ区1・2号墓は氏の第Ⅱ期に該当する。氏はこの時期の墓に伴う半分以下の陶磁器片や金属製品・鏡などの破片の副葬行為の在り方に着目し、こうした行為は限られた官人層によって行われた結果とみている。馬形遺跡Ⅳ区1・2号墓の副葬品例もこれに該当する。周辺にこれら墓に関係する施設が存在するものなのかどうか、今後の周辺調査に期待される。

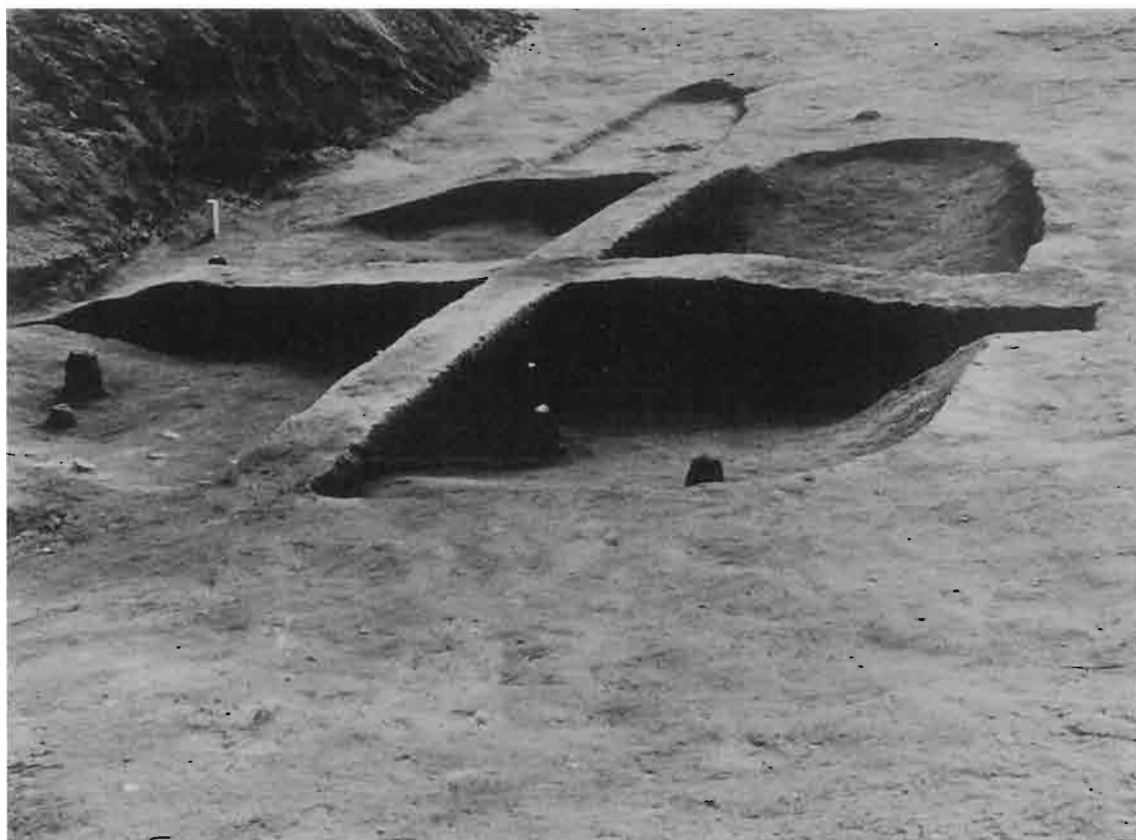
以上、簡単にまとめてみたが、市内にあってはⅡ～Ⅳ期と継続した集落事例や、Ⅴ期にあたるⅣ区1・2号墳墓例は初例となる。市内での調査例が乏しかったこの時期に集落の在り方を考える上では、今回の調査は大きな結果といえるであろう。

註) 狭川真一「墳墓にみる共献形態の変遷とその背景—北部九州を中心として」『貿易陶磁』No.13 日本貿易陶磁研究会 1993年

写真図版

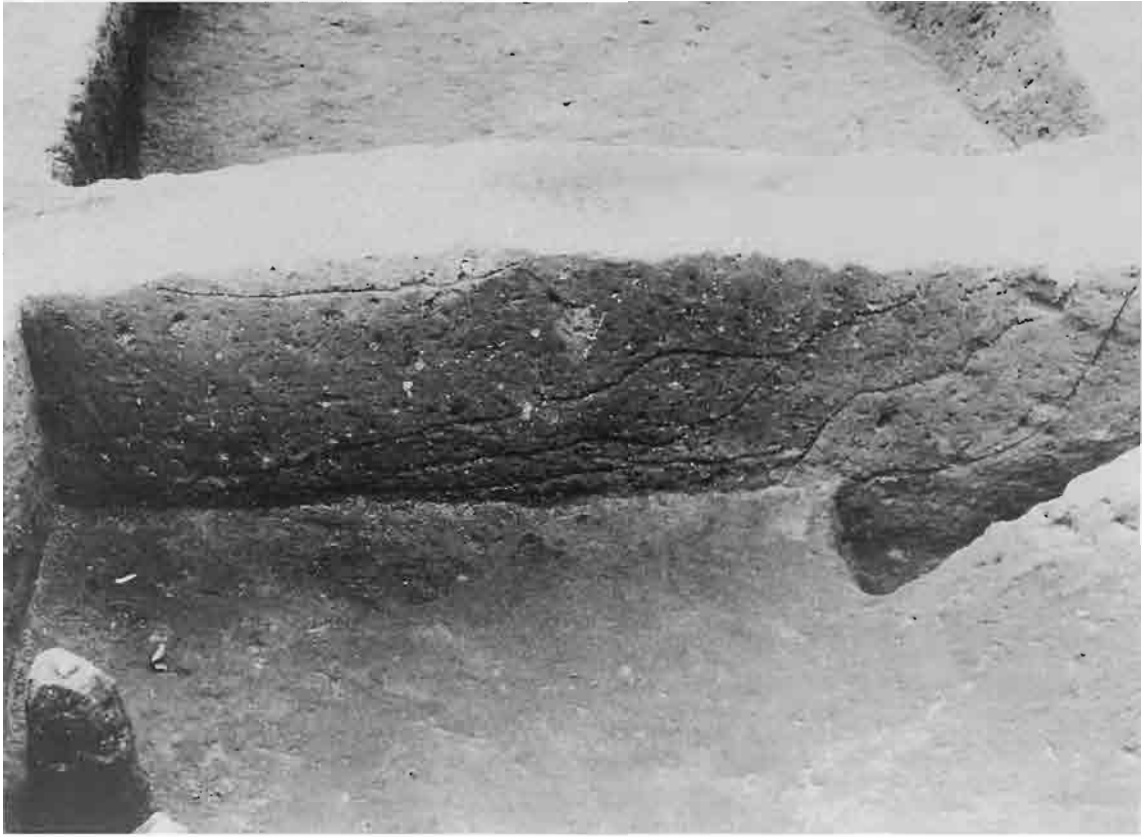


I 区調査風景



I 区 1 号竪穴遺構発掘状況（北より）

図版 2



I区1号竖穴遺構土層断面（北より）



I区1号竖穴遺構発掘状況（北より）



II区調査風景



II区1号竪穴住居跡遺物出土状況（西より）

图版 4



II区 1号竖穴住居跡遺物出土状態



II区 1号竖穴住居跡遺物出土状態



II区1号竪穴住居跡遺物出土状況



II区1号竪穴住居跡発掘状況（西より）



II区 2号竖穴住居跡遺物出土状況（北より）



II区 2号竖穴住居跡発掘状況（南より）



II区1号掘立柱建物（西より）



II区1号掘立柱建物（東より）



II区 2号掘立柱建物（南より）



II区 2号掘立柱建物（南より）



II区 3号掘立柱建物（南より）



II区 2号土坑発掘状況（西より）



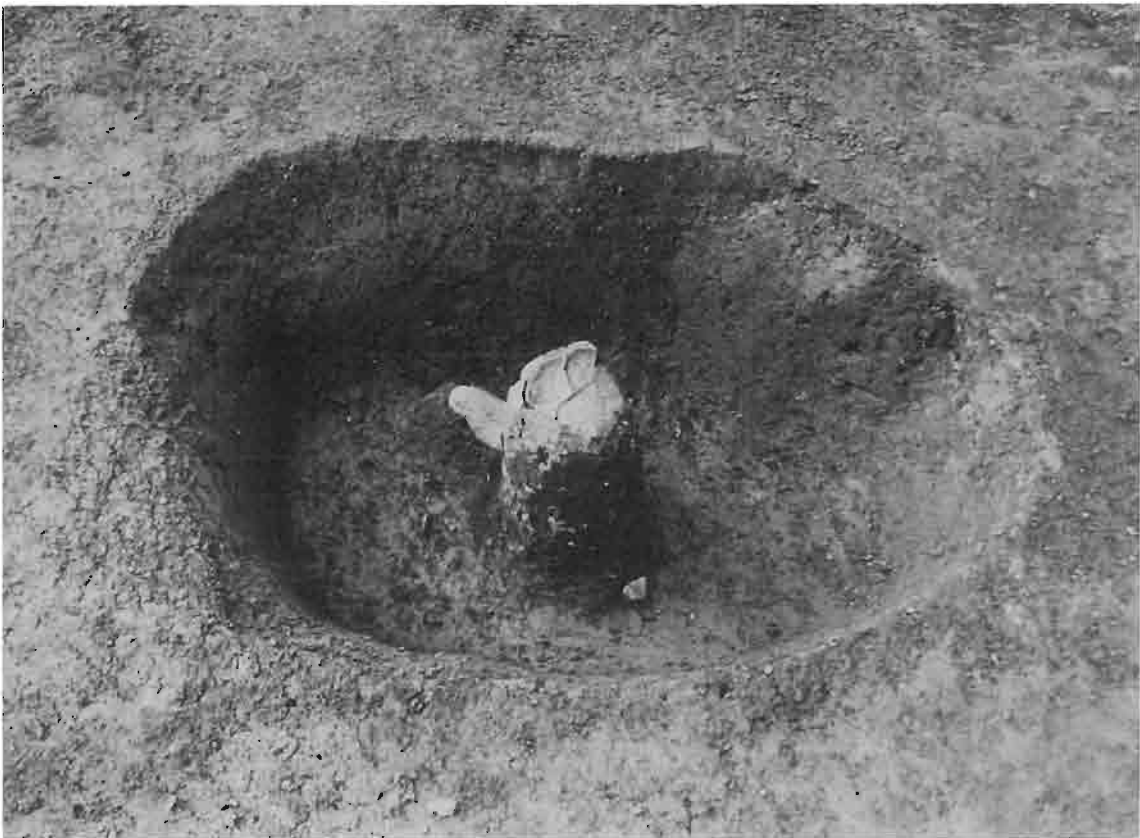
II区4号土坑遺物出土状況（西より）



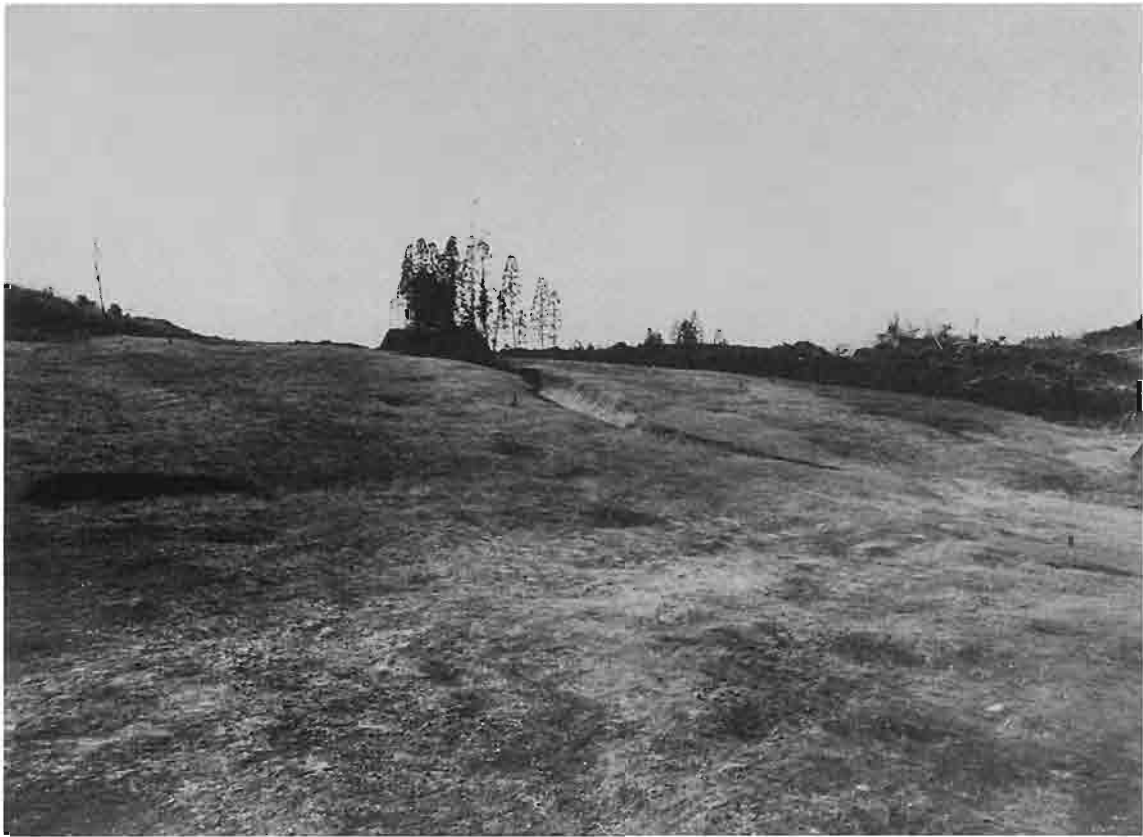
II区4号土坑発掘状況（西より）



II区7号土坑発掘状況（東より）



II区24号土坑発掘状況（東より）



Ⅲ区発掘状況（東より）



Ⅲ区道状遺構（西より）



IV区発掘状況（北より）



IV発掘状況（西より）



IV区1・2号墓発掘状況（南より）



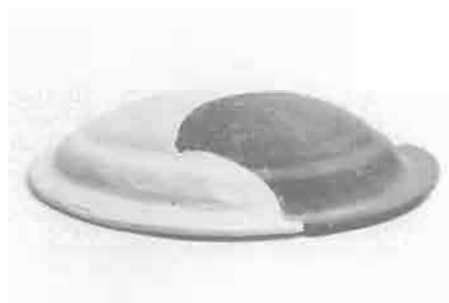
IV区1・2号墓発掘状況（西より）



II区1号竖穴住居跡 (5)



II区1号竖穴住居跡 (15)



II区1号竖穴住居跡 (7)



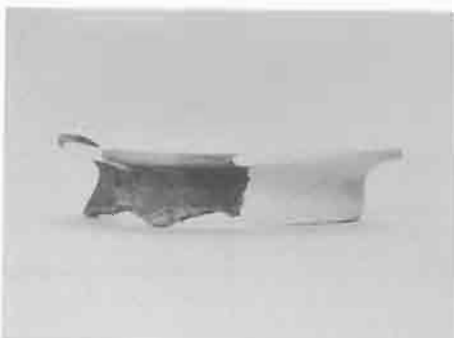
II区1号竖穴住居跡 (16)



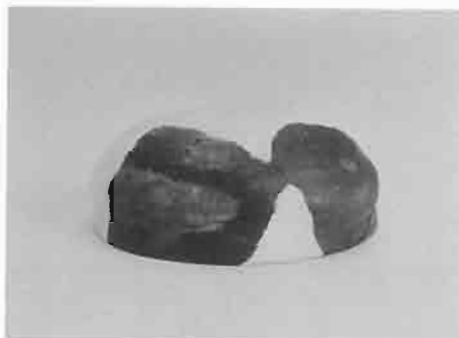
II区1号竖穴住居跡 (11)



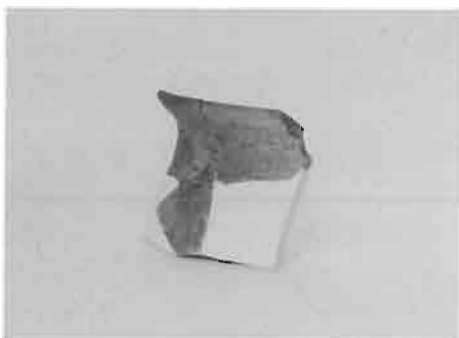
II区1号竖穴住居跡 (17)



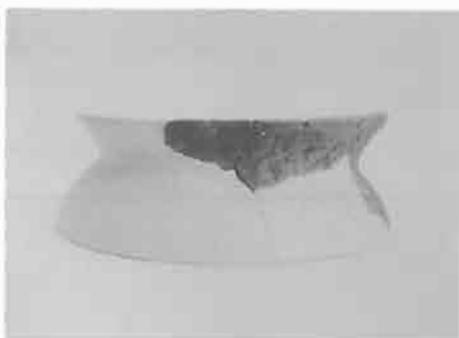
II区1号竖穴住居跡 (12)



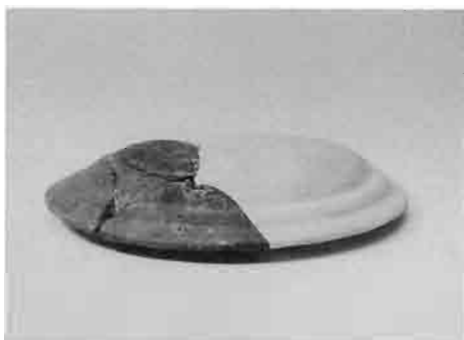
II区1号溝 (1)



II区1号竖穴住居跡 (13)



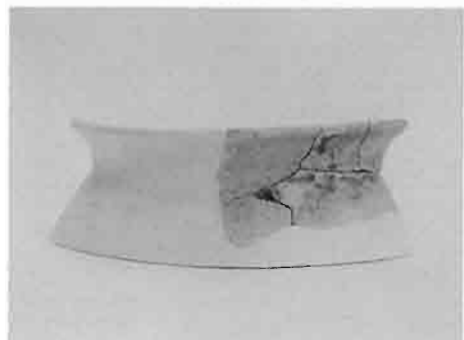
II区2号土坑 (7)



II区17号土坑(2)



IV区6号土坑(2)



II区17号土坑(5)



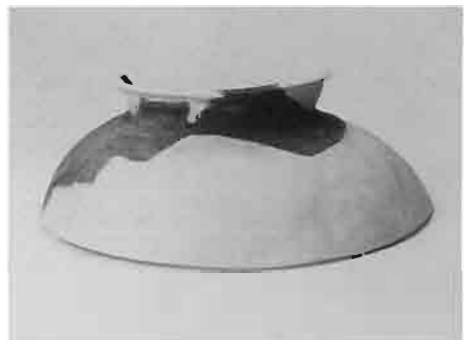
IV区6号土坑(3)



IV区1号竖穴住居迹(3)



IV区6号土坑(4)



IV区1号土坑(1)



IV区7号土坑(1)



IV区6号土坑(1)



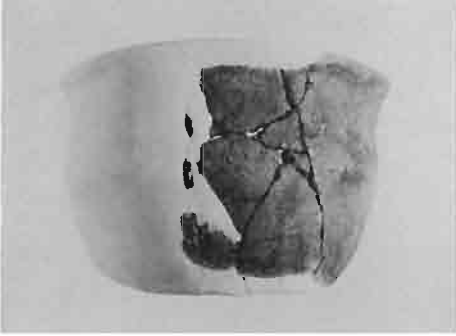
IV区7号土坑(2)



IV区7号土坑(4)



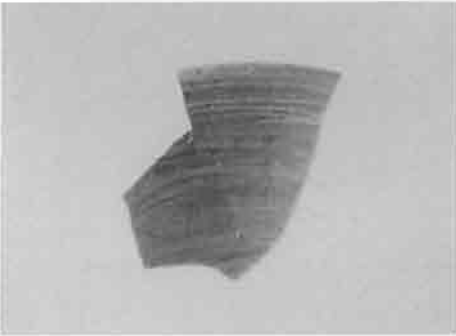
IV区2号墓(4)



IV区7号土坑(5)



IV区1号墓(5)



IV区2号墓(1)



IV区2号墓(6)



IV区2号墓(2)



IV区1号墓(7)



IV区2号墓(3)



IV区2号墓(8)



IV区2号墓(9)



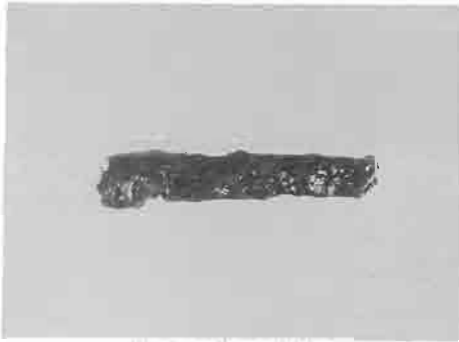
IV区2号墓(4)



IV区1号墓(1)



IV区2号墓(5)



IV区2号墓(2)



II区P191(5)



IV区2号墓(3)



II区P201(6)



II区P201 (7)



IV区一括 (1)



II区一括 (3)



II区一括 (3)



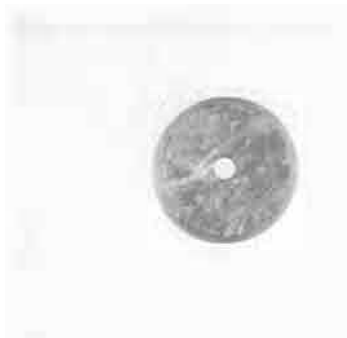
II区一括 (9)



IV区一括 (4)



II区一括 (10)



II区1号竖穴住居 (5)



IV区一括 (15)



II区一括(6)



II区一括(8)



II区一括(7)



II区一括(9)

報 告 書 抄 録

フリガナ	ウマガタイセキ							
書名	馬形遺跡							
副書名	日田市埋蔵文化財調査報告書							
巻次	第16集							
シリーズ名	—							
シリーズ番号	—							
編著者名	土居和幸・行時志郎・永田裕久							
編集機関	日田市教育委員会							
所在地	〒877-0025 大分県日田市田島2丁目6-1							
発行年月日	1998年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
馬形遺跡	大分県日田市 大字東有田字馬形					19960906 ～19970328	3,785㎡	住宅造成
所収遺跡名	種類	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
馬形遺跡	I区	—	奈良時代	竪穴遺構	1基	—		
	II区	集落	弥生時代	竪穴式住居	2棟	弥生土器・土師器		
			古墳時代	掘立柱建物	5棟	須恵器・紡錘車		
			律令時代	土坑	17基			
奈良時代			溝	1条				
III区	—	—	道状遺構	1条	—			
IV区	集落 墳墓	古墳時代	竪穴式住居	2棟	土師器・須恵器			
		律令時代	土坑	9基	土師器坏・黒色土器			
		平安時代	土壙墓	2基	青磁・毛抜き・刀子・鉄釘			

馬 形 遺 跡

日田市埋蔵文化財調査報告書

第16集

平成10年 3 月31日

発行：日田市教育委員会

大分県日田市田島 2 丁目 6 - 1

印刷：有限会社 朝 日 堂 印 刷

